

2 第2回アンケートの調査結果

2.1 定住状況について

(1) 居住年数

問1. あなたは川崎市及び現在のお住まいの区に、通算、何年間居住していますか。また、現在のお住まいには、何年間、居住していますか。

① 川崎市

居住年数「20年以上」は60.9%、5年以上の居住者は87.2%となっている。

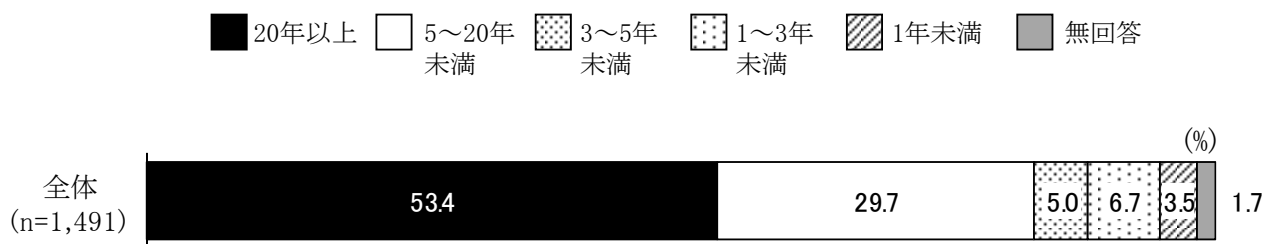
【図表 76】 居住年数（川崎市）



② 現在お住まいの区

居住年数「20年以上」は53.4%、5年以上の居住者は83.1%となっている。

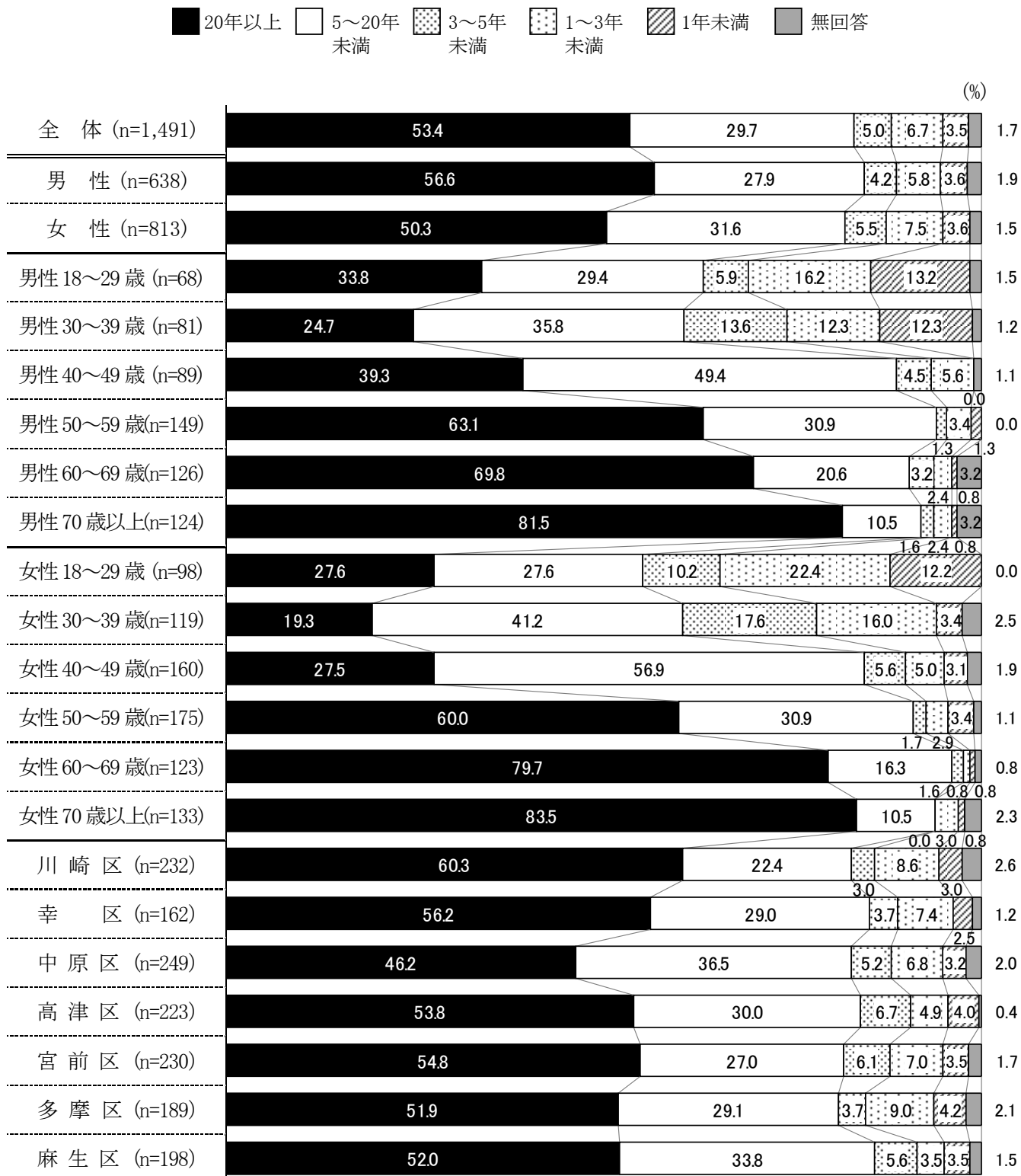
【図表 77】 居住年数（現在お住まいの区）



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で「20年以上」が6割を上回っている。

居住区別では、「20年以上」は川崎区(60.3%)が最も高く、次いで幸区(56.2%)、宮前区(54.8%)、高津区(53.8%)と続き、最も低いのは中原区(46.2%)であった。

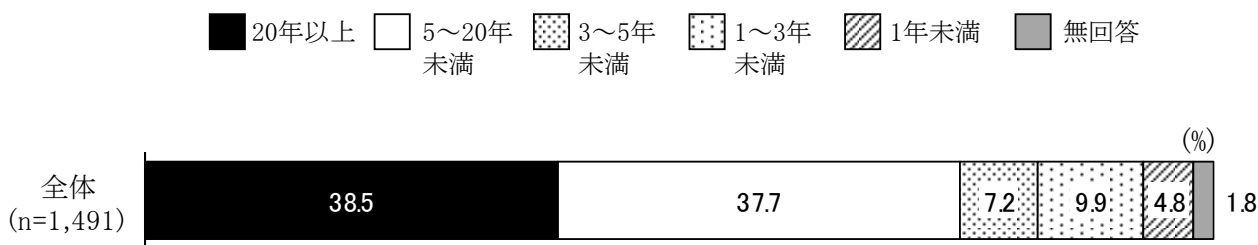
【図表 78】 居住年数（現在お住まいの区）
（性／年齢別、居住区別）



③ 現在のお住まい

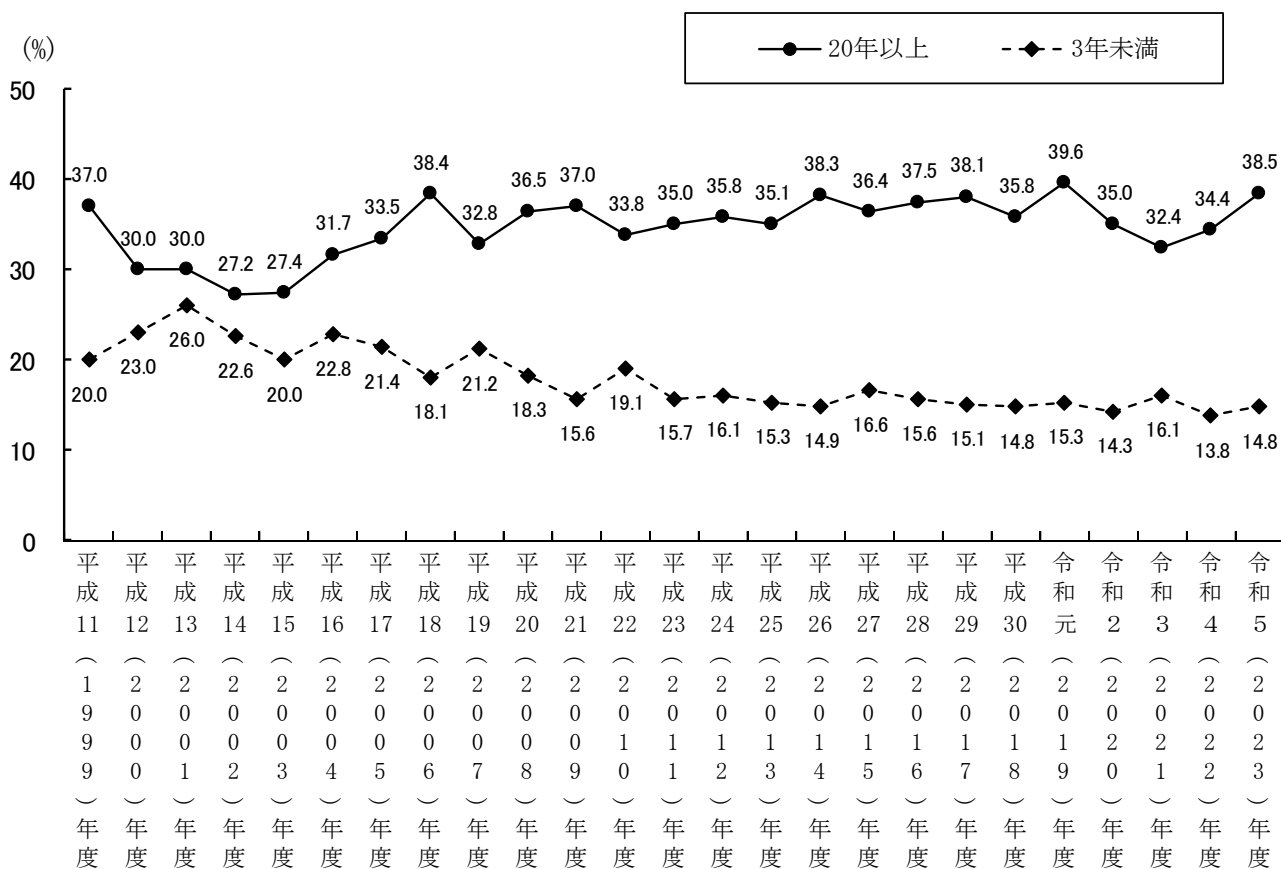
居住年数「20年以上」は38.5%、5年以上の居住者は76.2%となっている。

【図表 79】 居住年数（現在のお住まい）



過去の推移では、昨年度(令和4年度)と比較すると、「20年以上」は4.1ポイント増加して38.5%と、令和3年度以降増加傾向となっている。「3年未満」は昨年度(令和4年度)と大きな変化は見られなかった。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は23.7ポイントと、平成11年度以降最も差が大きかった令和元年度とほぼ同程度となっている。

【図表 80】 居住年数（経年比較）



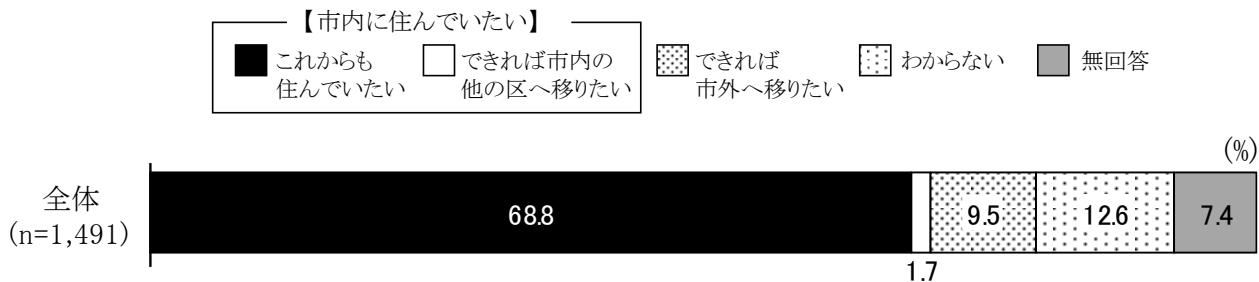
※令和2年度までの設問文は「今のところにお住まいになって何年になりますか」で実施

(2) 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

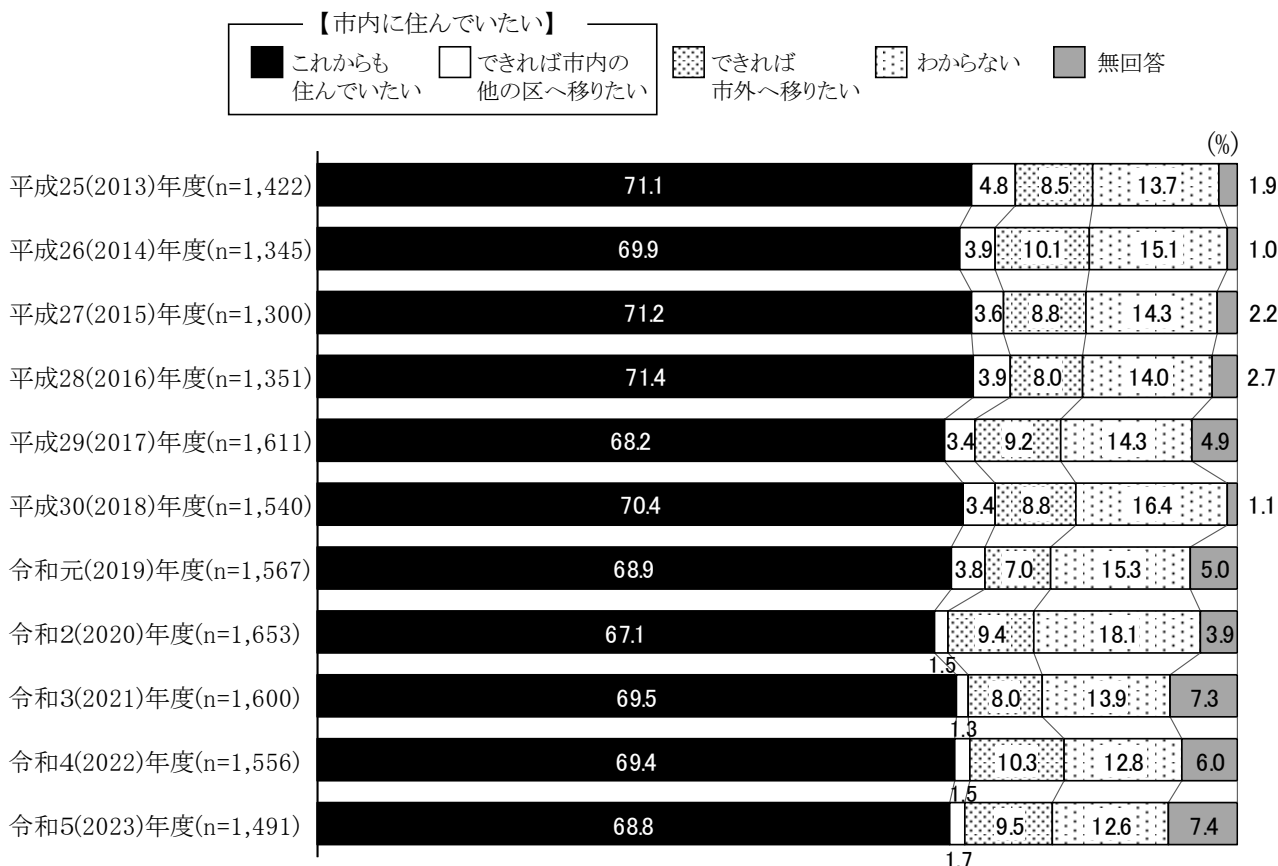
「これからも住んでいたい」(68.8%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.7%)を合計した【市内に住んでいたい】は70.5%であった。「できれば市外へ移りたい」は9.5%であった。

【図表 81】 定住意向



この10年間において、「これからも住んでいたい」は70%前後で推移しており、大きな変化は見られない。

【図表 82】 定住意向（経年比較）

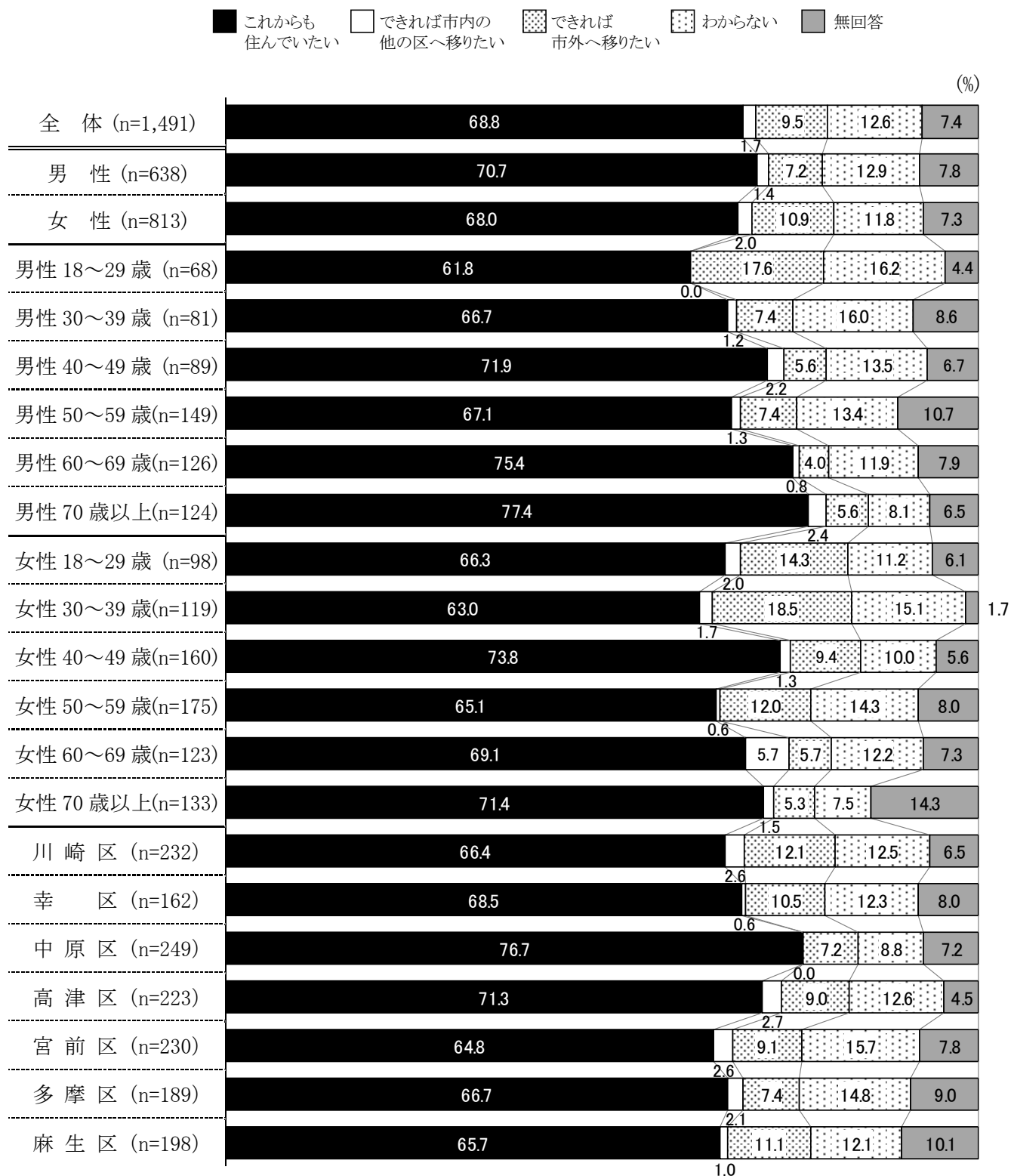


※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施。

性／年齢別に見ると、「これからも住んでいたい」は全ての性／年齢で6割を上回り、男性は70歳以上(77.4%)、女性は40～49歳(73.8%)が最も高くなっている。

居住区別では、「これからも住んでいたい」は中原区(76.7%)、高津区(71.3%)が7割を超えている。

【図表 83】定住意向(性／年齢別、居住区別)

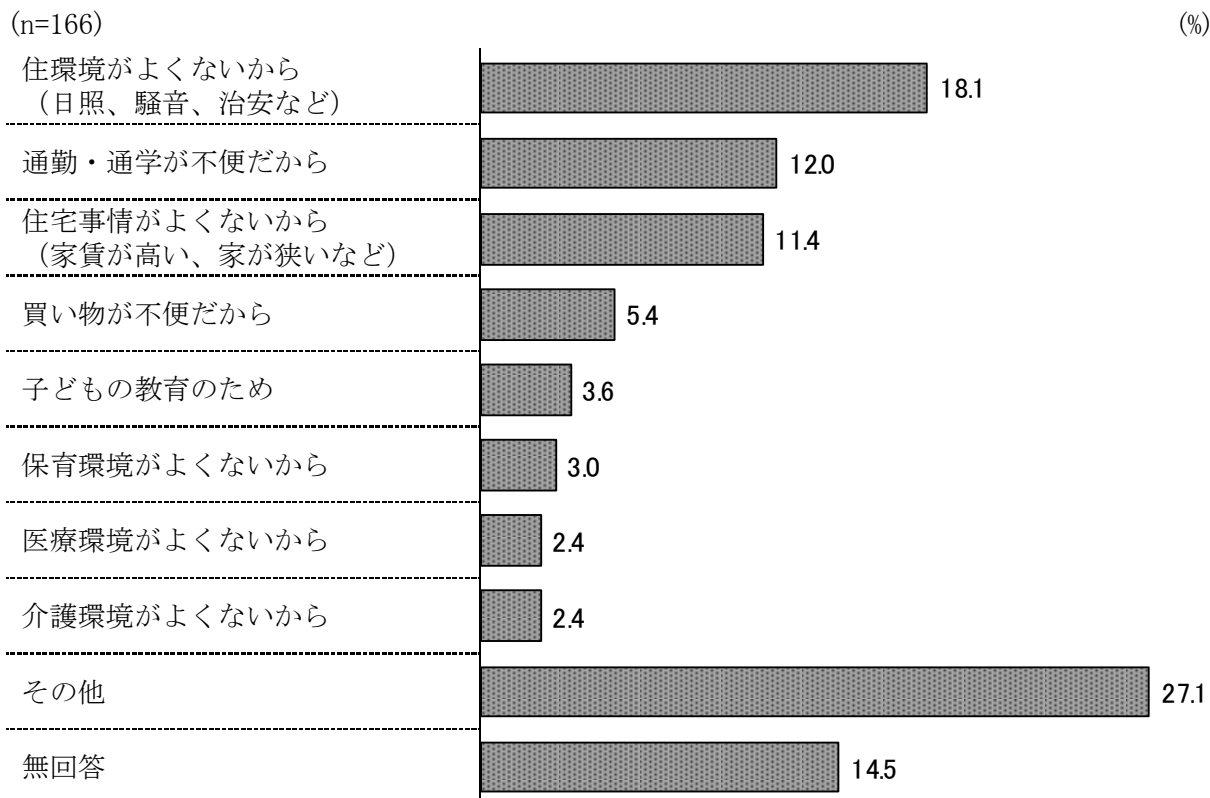


(3) 転居意向の理由

問3. あなたが、今のところから移りたい、または移る主な理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つだけ選んでください。

「できれば市内の他の区へ移りたい」と「できれば市外へ移りたい」を合計した転居意向がある人に転居意向の理由を聞いたところ、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」（18.1%）が最も高く、次いで「通勤・通学が不便だから」（12.0%）、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」（11.4%）と続いている。

【図表 84】 転居意向の理由

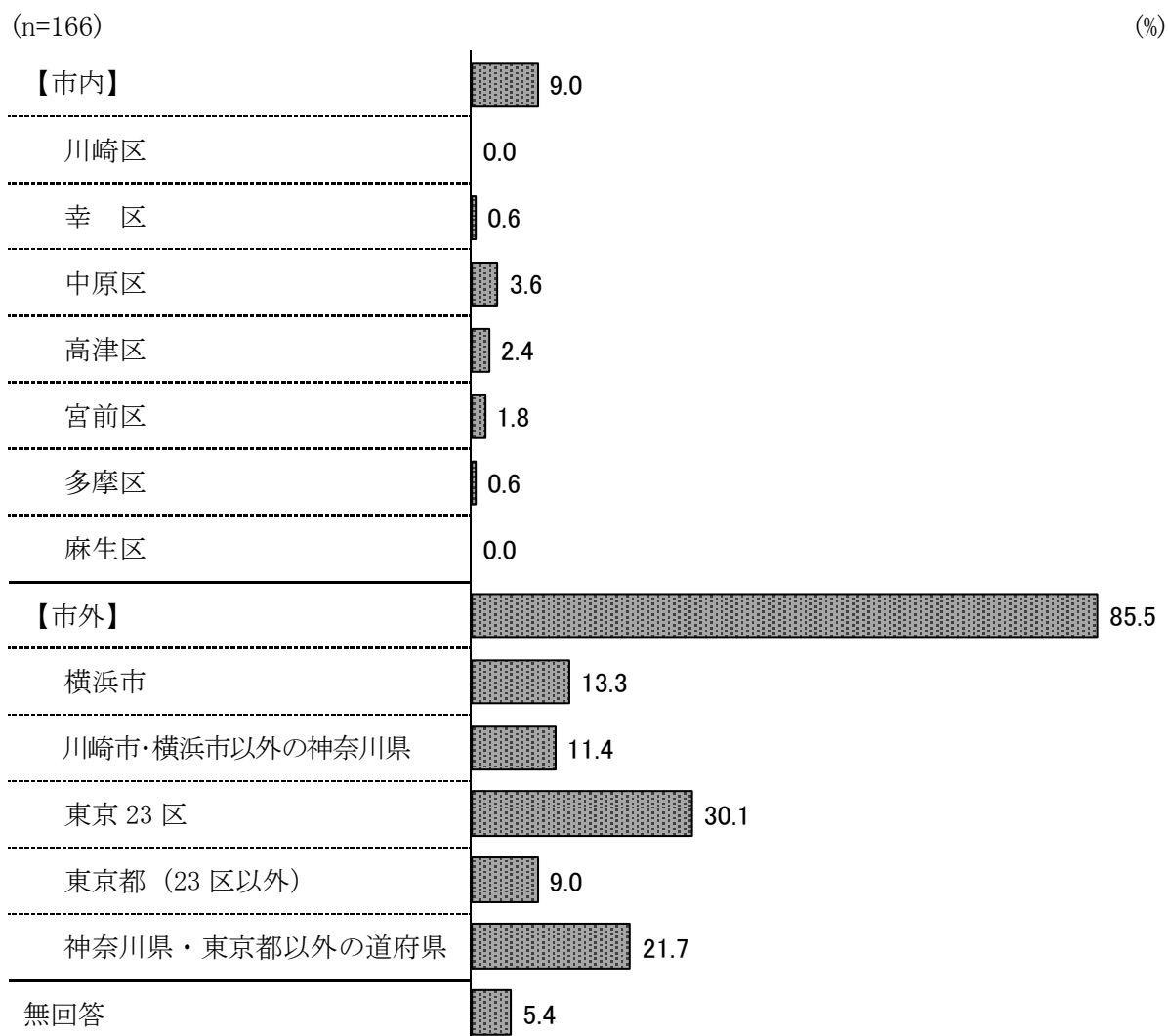


(4) 転居先の希望

問4. あなたは、どこに住みたいと思いますか。最も住みたいと思う地域を1つだけ選んでください。

転居意向がある人の転居先の希望は、【市内】が9.0%、【市外】が85.5%であった。【市内】では「中原区」(3.6%)が最も高く、次いで「高津区」(2.4%)であった。【市外】では「東京23区」(30.1%)が最も高く、次いで「神奈川県・東京都以外の道府県」(21.7%)、「横浜市」(13.3%)と続いている。

【図表 85】 転居先の希望



居住区別の転居先の希望は、回答者数が少ないため参考にとどめる。

【図表 86】 転居先の希望（居住区別）

(%)

	全体	居住区						
		川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ベース: 転居意向がある人	(166)	(34)	(18)	(18)	(26)	(27)	(18)	(24)
【市内】	9.0	11.8	5.6	0.0	15.4	11.1	11.1	4.2
川崎区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
幸区	0.6	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0
中原区	3.6	2.9	5.6	0.0	7.7	3.7	5.6	0.0
高津区	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	5.6	4.2
宮前区	1.8	5.9	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0
多摩区	0.6	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻生区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【市外】	85.5	85.3	88.9	100.0	73.1	81.5	88.9	91.7
横浜市	13.3	23.5	0.0	22.2	7.7	18.5	11.1	4.2
川崎市・横浜市以外の神奈川県	11.4	11.8	16.7	11.1	11.5	7.4	16.7	8.3
東京23区	30.1	23.5	38.9	27.8	34.6	37.0	11.1	37.5
東京都(23区以外)	9.0	2.9	5.6	5.6	7.7	3.7	33.3	12.5
神奈川県・東京都以外の道府県	21.7	23.5	27.8	33.3	11.5	14.8	16.7	29.2
無回答	5.4	2.9	5.6	0.0	11.5	7.4	0.0	4.2

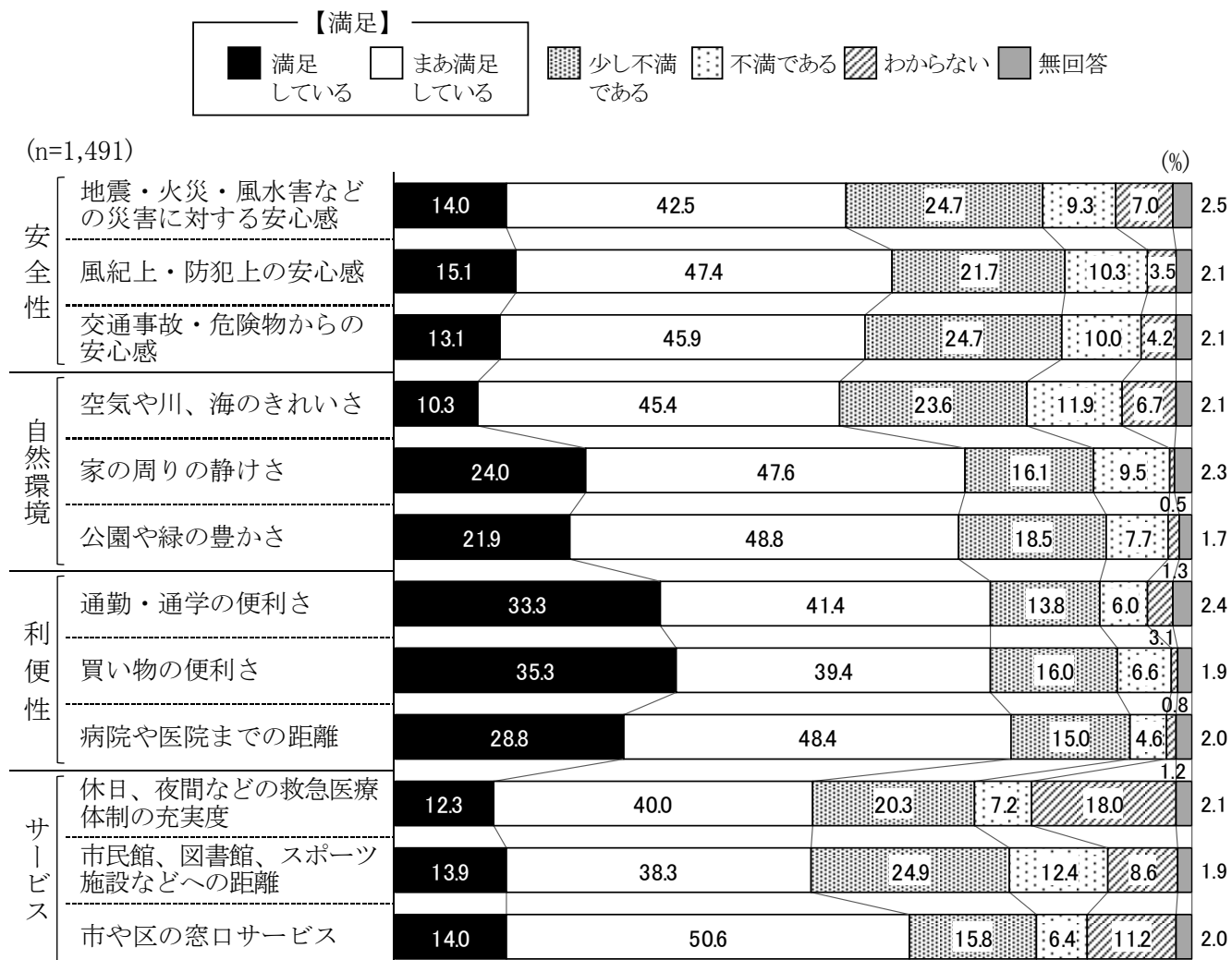
2.2 生活環境の評価について

(1) 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目が高く、「病院や医院までの距離」(77.2%)、「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」(ともに74.7%)が7割台半ばとなっている。一方、『サービス』の項目の「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」(52.2%)と「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(52.3%)は【満足】が5割台前半と、他の項目と比較して低い。

【図表 87】生活環境の満足度

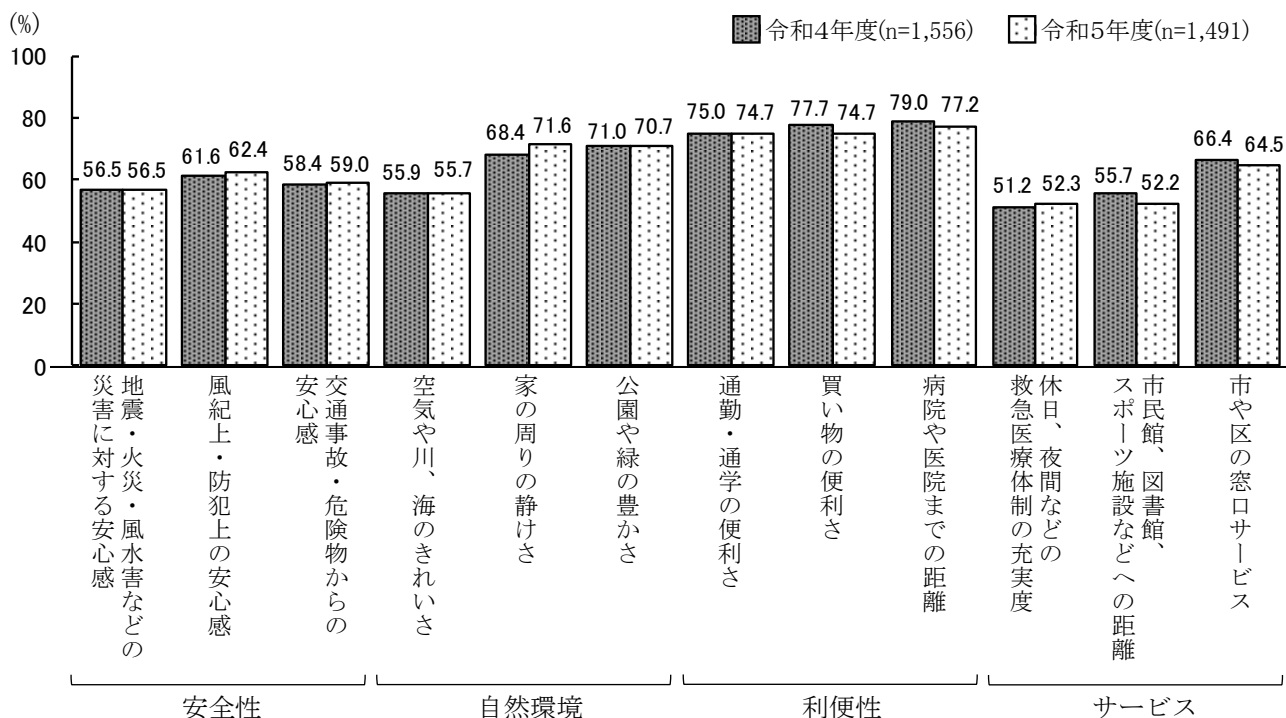


昨年度(令和4年度)と【満足】を比較すると、傾向に大きな変化はないが、「家の周りの静けさ」が3.2ポイント高くなり、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」が3.5ポイント、「買い物」の便利さ」では3.0ポイント低くなっている。

【図表 88】生活環境の満足度(経年比較)

※【満足】(「満足している」と「まあ満足している」の合計)で表示 (%)

	災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
平成30年度(n=1,540)	56.6	57.2	55.6	52.1	66.9	68.2	70.3	71.8	74.9	51.3	51.6	63.4
令和元年度(n=1,567)	56.4	60.4	58.6	53.9	69.7	69.1	73.4	77.7	78.0	55.4	52.5	65.3
令和2年度(n=1,653)	54.9	60.7	58.2	54.2	68.6	69.4	75.3	78.0	78.2	54.1	55.2	65.3
令和3年度(n=1,600)	56.1	60.0	56.3	54.6	71.1	69.4	75.1	78.1	79.2	52.3	56.0	64.3
令和4年度(n=1,556)	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4
令和5年度(n=1,491)	56.5	62.4	59.0	55.7	71.6	70.7	74.7	74.7	77.2	52.3	52.2	64.5



性／年齢別に見ると、男女ともに70歳以上が「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」、「風紀上・防犯上の安心感」、「交通事故・危険物からの安心感」といった『安全性』の面での満足度が他の年齢層と比べて高かった。

【図表 89】生活環境の満足度（【満足】回答者、性／年齢別）

(%)

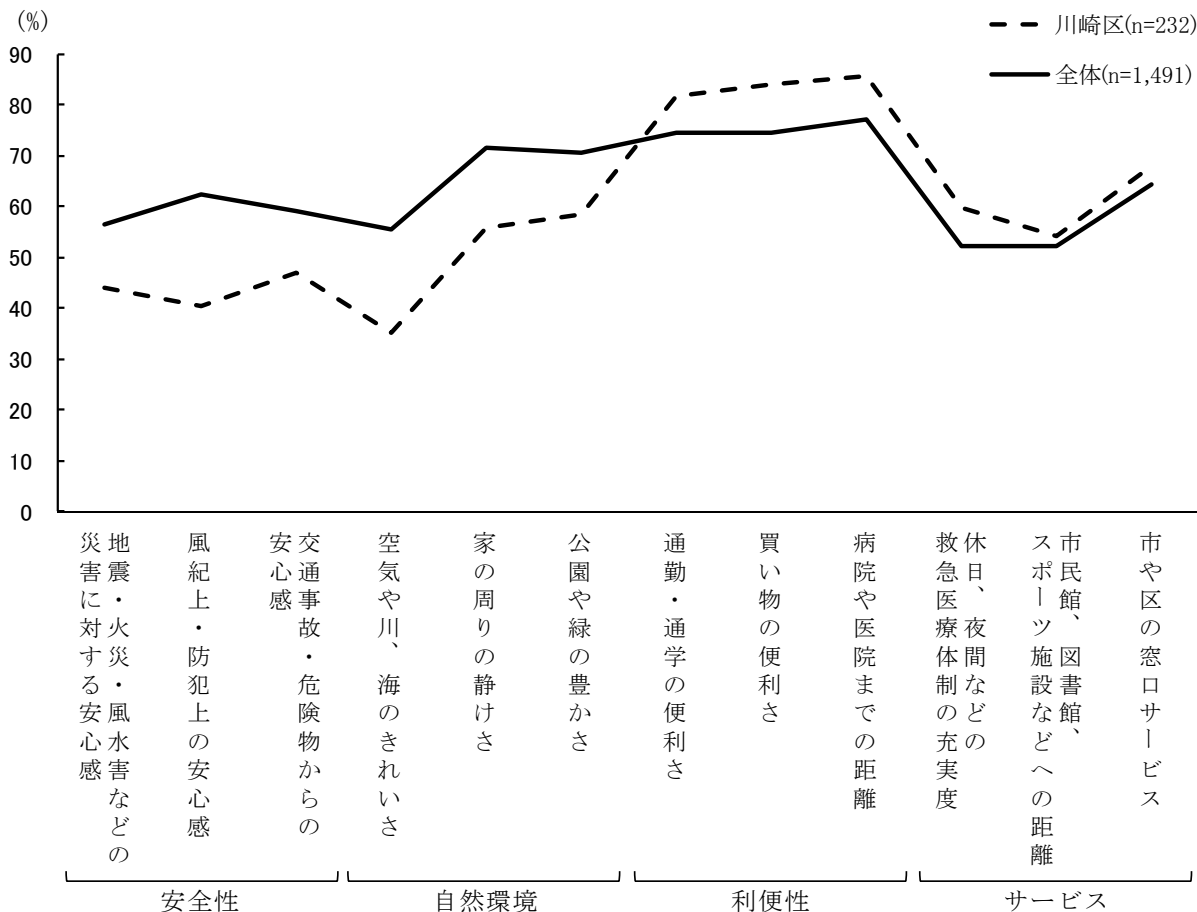
	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース: 全対象者	(1,491)	(638)	(68)	(81)	(89)	(149)	(126)	(124)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	56.5	62.1	54.4	60.5	60.7	63.8	61.9	66.9
風紀上・防犯上の安心感	62.4	67.2	69.1	61.7	66.3	65.8	62.7	77.4
交通事故・危険物からの安心感	59.0	62.9	64.7	51.9	57.3	63.8	62.7	72.6
空気や川、海のきれいさ	55.7	60.0	50.0	54.3	59.6	57.7	63.5	69.4
家の周りの静けさ	71.6	71.8	67.6	69.1	78.7	69.1	72.2	74.2
公園や緑の豊かさ	70.7	72.7	77.9	76.5	75.3	67.8	69.0	75.0
通勤・通学の便利さ	74.7	74.8	76.5	77.8	77.5	77.9	76.2	65.3
買い物の便利さ	74.7	74.8	77.9	79.0	75.3	77.9	71.4	70.2
病院や医院までの距離	77.2	79.0	76.5	80.2	84.3	83.2	77.0	73.4
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	52.3	55.2	55.9	44.4	64.0	57.0	55.6	53.2
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	52.2	53.0	58.8	48.1	53.9	57.0	48.4	52.4
市や区の窓口サービス	64.5	66.8	63.2	63.0	64.0	67.8	65.1	74.2

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース: 全対象者	(1,491)	(813)	(98)	(119)	(160)	(175)	(123)	(133)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	56.5	53.1	50.0	52.1	53.8	48.6	55.3	59.4
風紀上・防犯上の安心感	62.4	59.7	51.0	52.9	60.0	57.1	61.8	72.2
交通事故・危険物からの安心感	59.0	56.5	57.1	44.5	53.1	55.4	60.2	67.7
空気や川、海のきれいさ	55.7	52.6	55.1	46.2	49.4	48.6	61.0	57.1
家の周りの静けさ	71.6	72.4	74.5	73.1	71.3	64.0	79.7	75.2
公園や緑の豊かさ	70.7	69.7	70.4	71.4	70.0	68.0	68.3	69.9
通勤・通学の便利さ	74.7	76.0	75.5	77.3	75.6	78.3	73.2	75.9
買い物の便利さ	74.7	75.8	74.5	73.9	80.6	80.0	70.7	72.2
病院や医院までの距離	77.2	76.4	80.6	75.6	76.3	76.0	73.2	77.4
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	52.3	51.2	52.0	47.9	53.1	50.9	47.2	55.6
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	52.2	52.0	55.1	54.6	51.9	53.7	48.8	48.9
市や区の窓口サービス	64.5	63.6	64.3	61.3	61.9	65.1	62.6	65.4

川崎区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を7ポイント以上上回っており、『サービス』でも全体の満足度と同水準か上回っている。

一方、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「風紀上・防犯上の安心感」が21.9ポイント、「空気や川、海のきれいさ」が20.4ポイント下回った。

【図表 90】生活環境の満足度（【満足】回答者、川崎区）

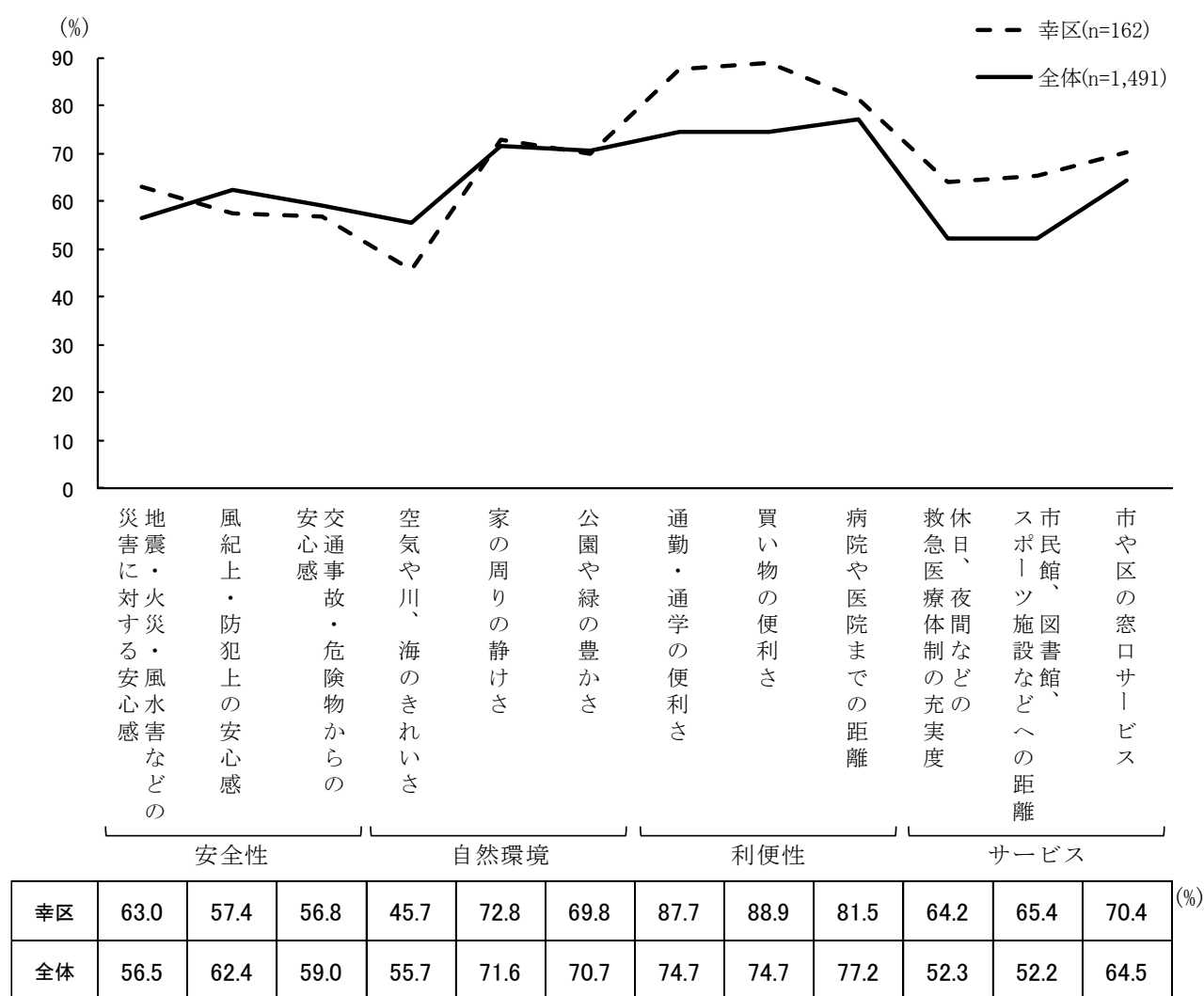


	安全性			自然環境			利便性			サービス			
川崎区	44.0	40.5	47.0	35.3	56.0	58.6	81.9	84.1	85.8	59.9	54.3	68.1	68.1
全体	56.5	62.4	59.0	55.7	71.6	70.7	74.7	74.7	77.2	52.3	52.2	64.5	64.5

幸区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度を上回っており、「買い物の便利さ」が14.2ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」が13.2ポイント、「通勤・通学の便利さ」が13.0ポイント上回った。

一方、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「空気や川、海のきれいさ」が10.0ポイント下回っている。『安全性』では、市全体の満足度と比較して「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」では6.5ポイント上回ったが、「風紀上・防犯上の安心感」では5.0ポイント下回った。

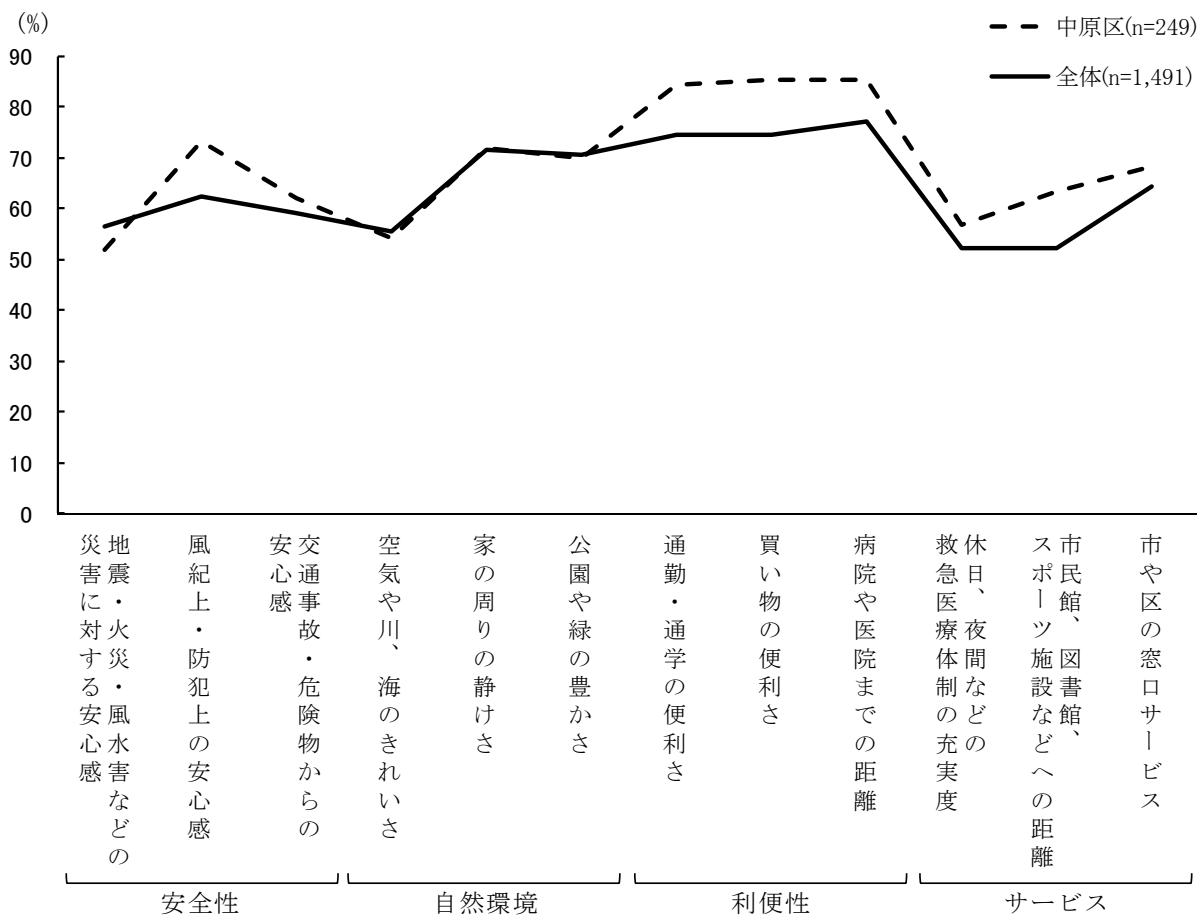
【図表 91】生活環境の満足度（【満足】回答者、幸区）



中原区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度を上回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」が11.3ポイント、「買い物の便利さ」が10.8ポイント上回った。

『安全性』の項目は、市全体の満足度と比較して「風紀上・防災上の安心感」では10.7ポイント上回ったが、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」では4.7ポイント下回った。『自然環境』では特に目立った点は見られなかった。

【図表 92】生活環境の満足度（【満足】回答者、中原区）

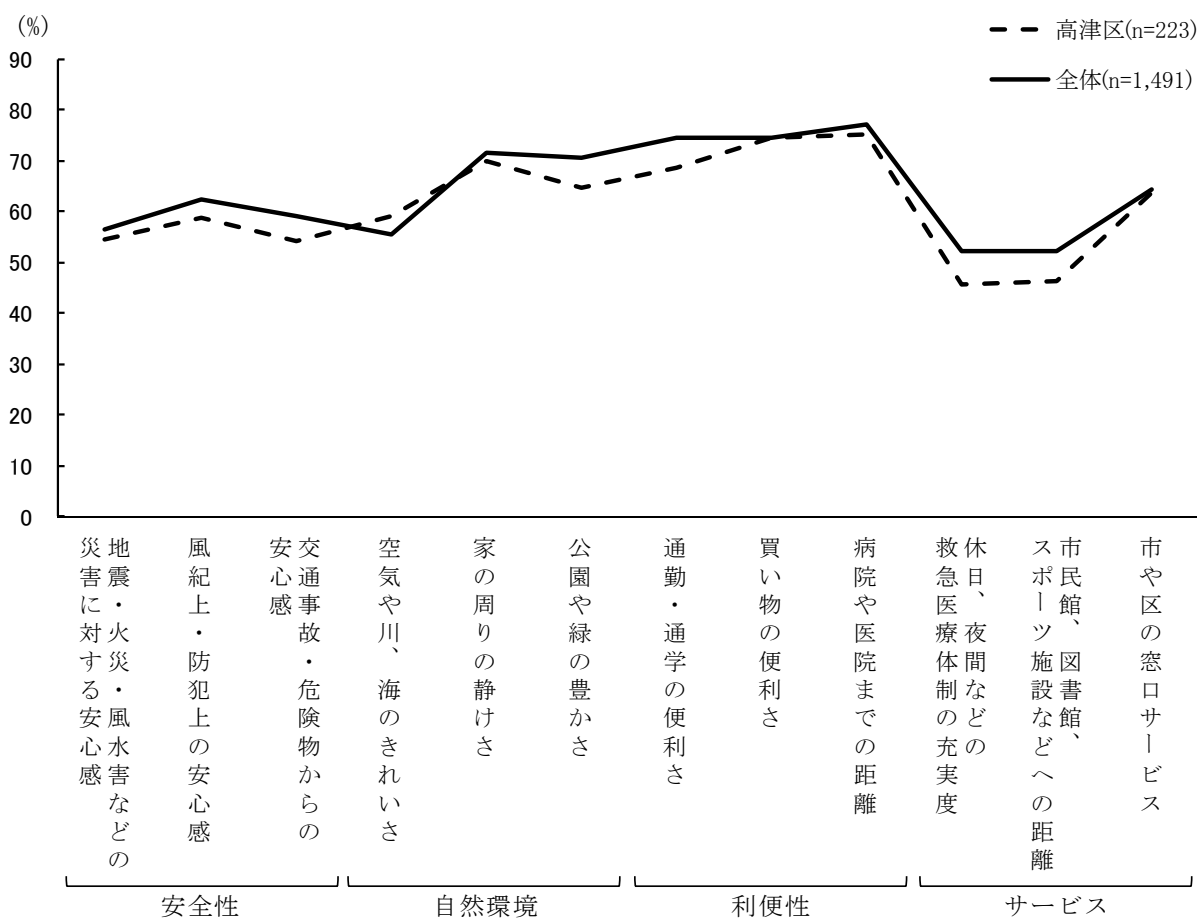


	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
中原区	51.8	73.1	62.2	54.2	71.9	69.9	84.3	85.5	85.5	57.0	63.5	68.3	
全体	56.5	62.4	59.0	55.7	71.6	70.7	74.7	74.7	77.2	52.3	52.2	64.5	

高津区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』の項目では、「空気や川、海のきれいさ」が3.5ポイント上回ったが、「公園や緑の豊かさ」は6.1ポイント下回った。

『安全性』『利便性』『サービス』の項目は、いずれも市全体の満足度と同水準か下回っており、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」が6.6ポイント、「通勤・通学の便利さ」が6.1ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」が6.0ポイント下回った。

【図表 93】生活環境の満足度（【満足】回答者、高津区）

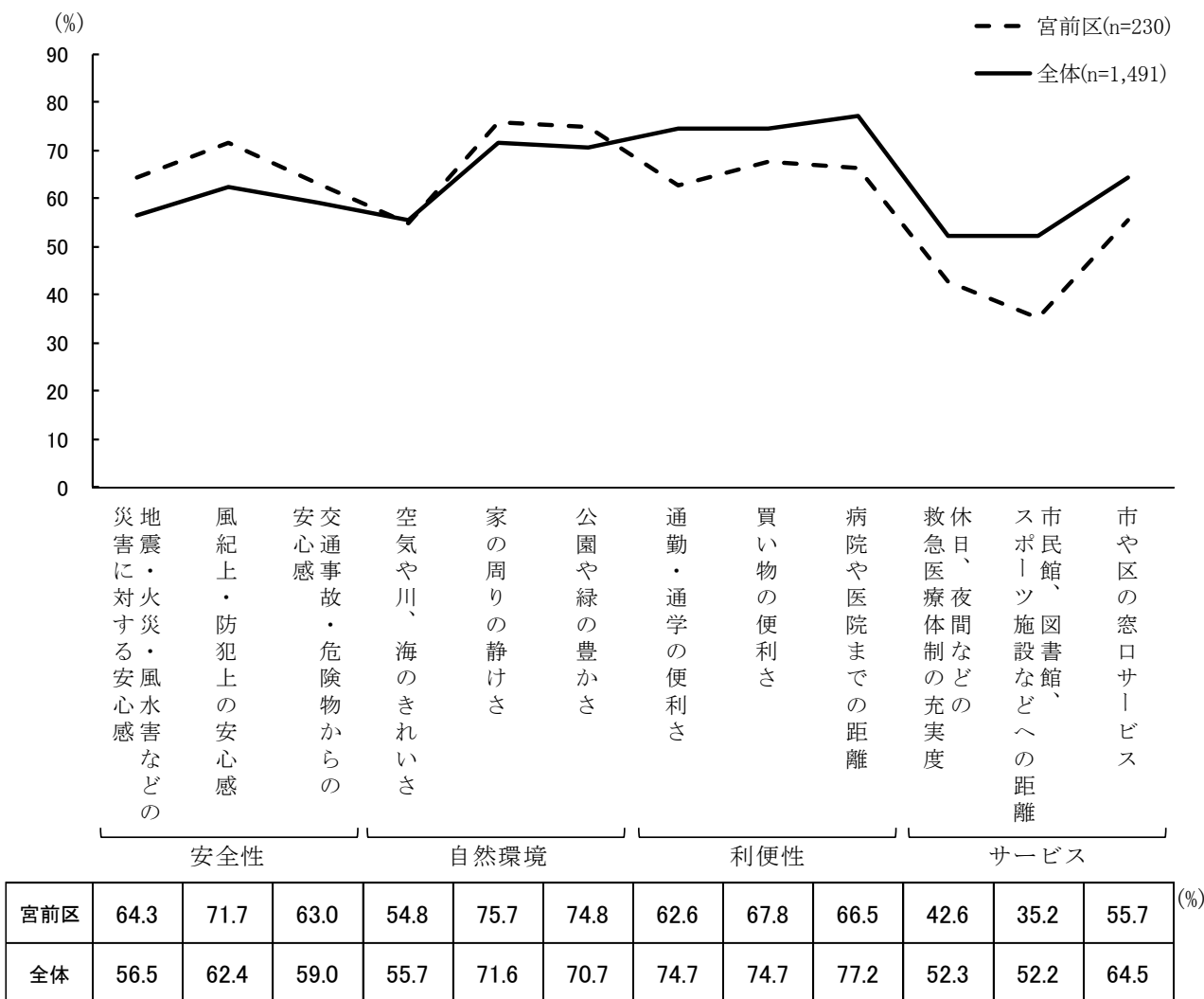


	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス	
高津区	54.7	58.7	54.3	59.2	70.0	64.6	68.6	74.4	75.3	45.7	46.2	63.7	
全体	56.5	62.4	59.0	55.7	71.6	70.7	74.7	74.7	77.2	52.3	52.2	64.5	

宮前区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か上回っており、「風紀上・防犯上の安心感」が9.3ポイント、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が7.8ポイント上回った。

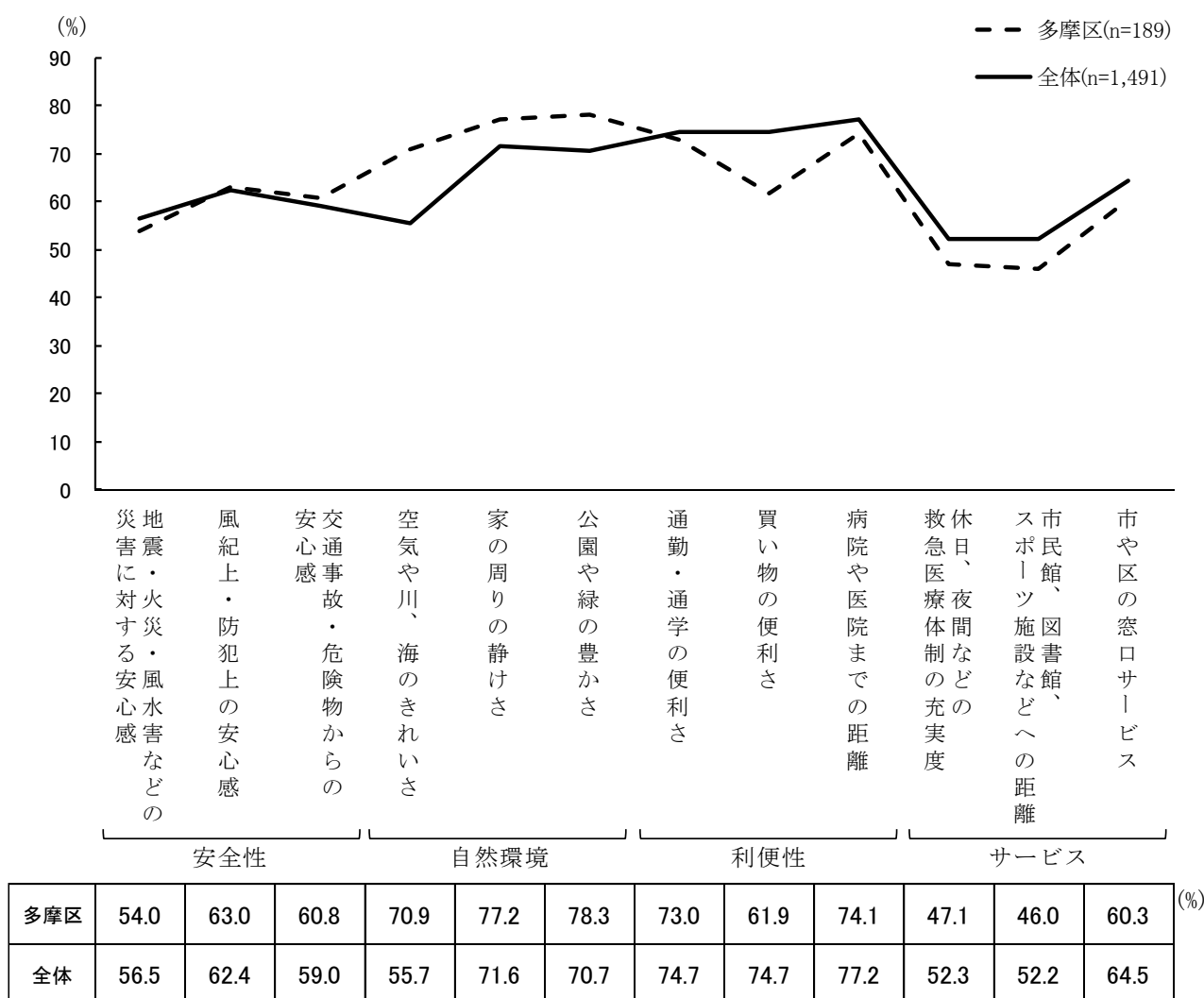
一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」が17.0ポイント、「通勤・通学の便利さ」が12.1ポイント、「病院や医院までの距離」が10.7ポイント下回った。

【図表 94】生活環境の満足度（【満足】回答者、宮前区）



多摩区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回り、「空気や川、海のきれいさ」が15.2ポイント、「公園や緑の豊かさ」が7.6ポイント上回った。一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「買い物の便利さ」で12.8ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」で6.2ポイント下回った。『安全性』では特に目立った点は見られなかった。

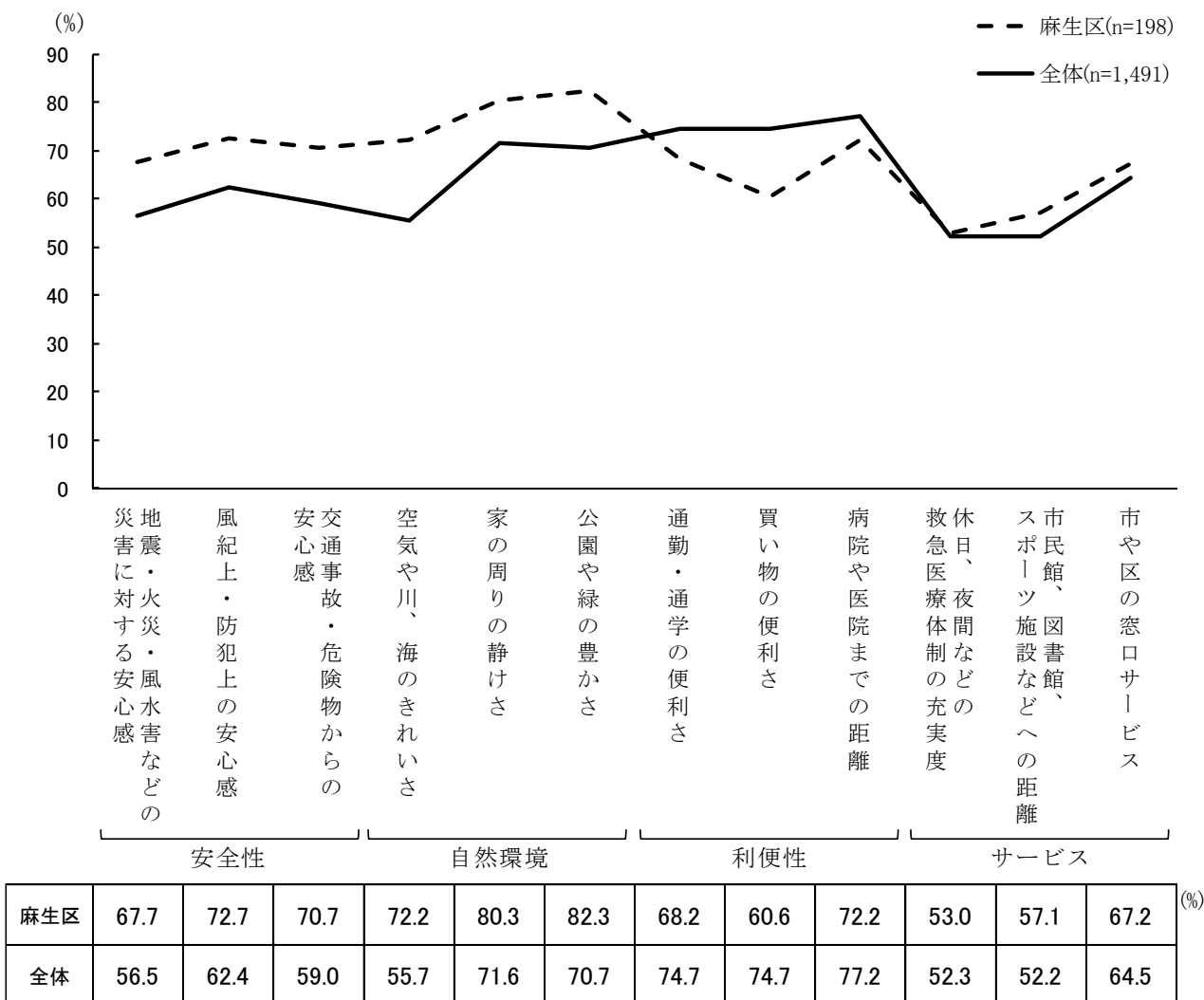
【図表 95】生活環境の満足度（【満足】回答者、多摩区）



麻生区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か上回っており、『安全性』はいずれも10ポイント以上上回っている。また、『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」が16.5ポイント、「公園や緑の豊かさ」が11.6ポイント上回った。

一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「買い物の便利さ」が14.1ポイント、「通勤・通学の便利さ」が6.5ポイント下回った。

【図表 96】生活環境の満足度（【満足】回答者、麻生区）

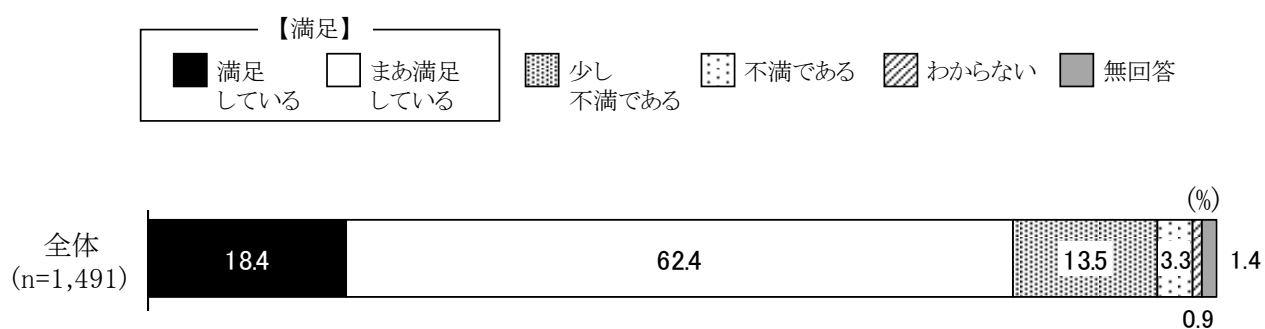


(2) 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

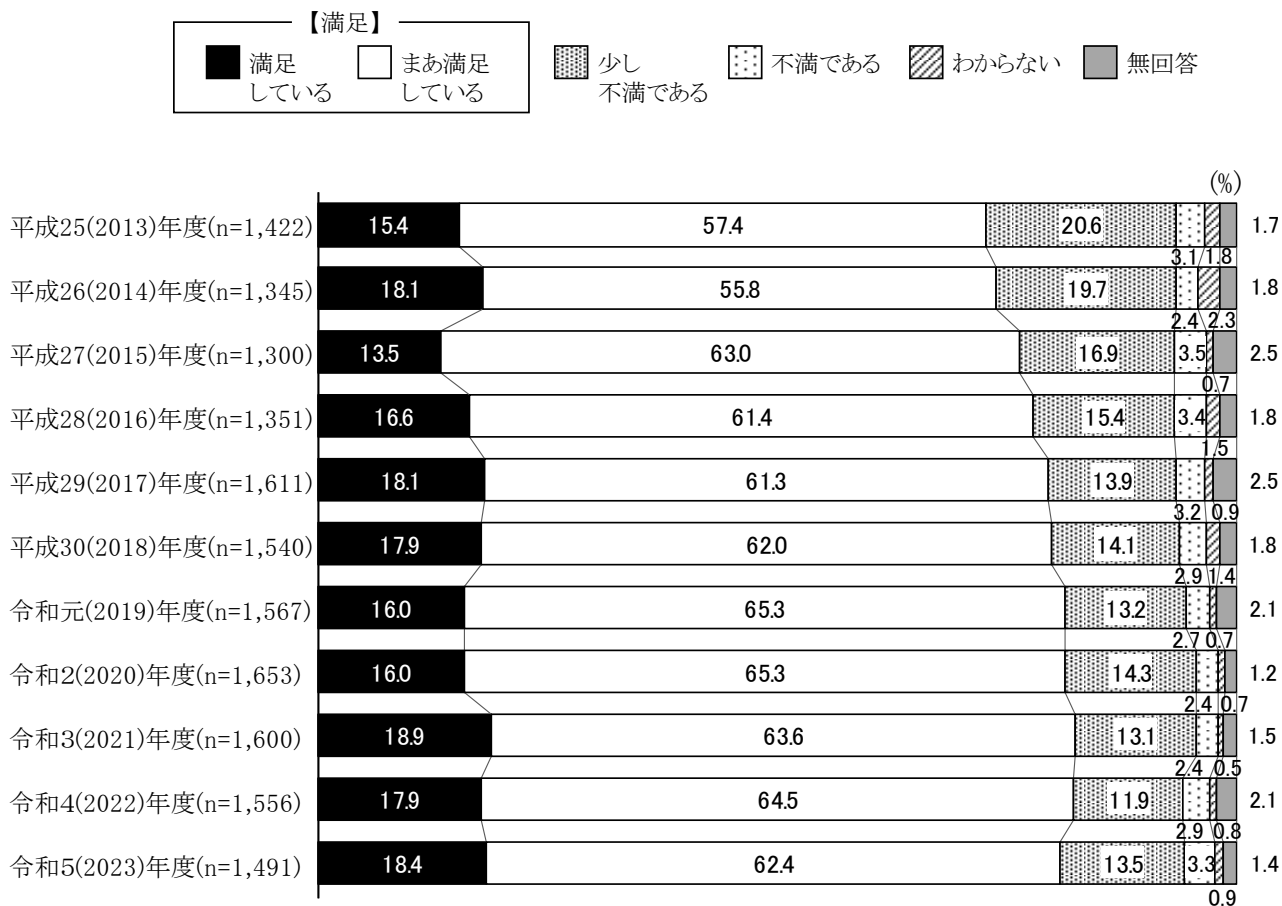
「満足している」(18.4%)と「まあ満足している」(62.4%)を合計した【満足】は80.8%であった。

【図表 97】 総合的な生活環境の満足度



【満足】は、令和元（2019）年度以降ほぼ横ばいで推移しているが、10年前（平成25年度）と比較すると8.0ポイントの増加となっている。

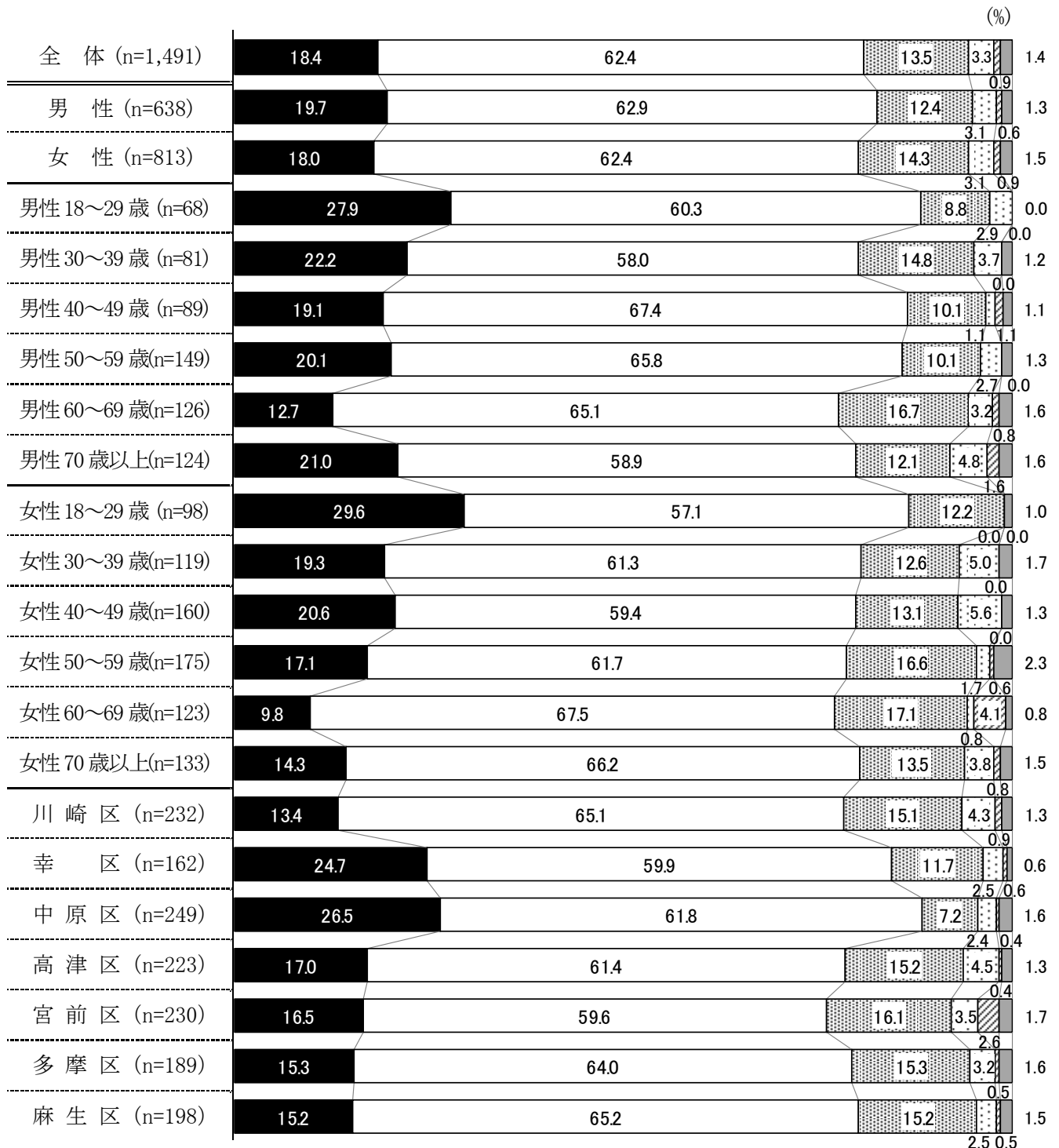
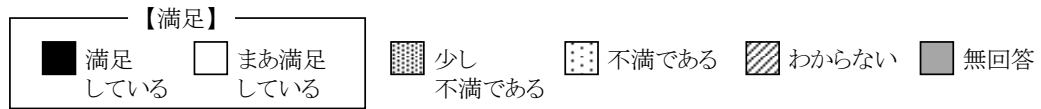
【図表 98】総合的な生活環境の満足度（経年比較）



性／年齢別に見ると、【満足】の割合は、男性では50歳代以下で8割を超え、女性も50～59歳(78.9%)、60～69歳(77.2%)を除いた年代で8割を超えている。

居住区別では、【満足】の割合は中原区(88.4%)が最も高く、宮前区(76.1%)が最も低い。

【図表 99】総合的な生活環境の満足度(性／年齢別、居住区別)



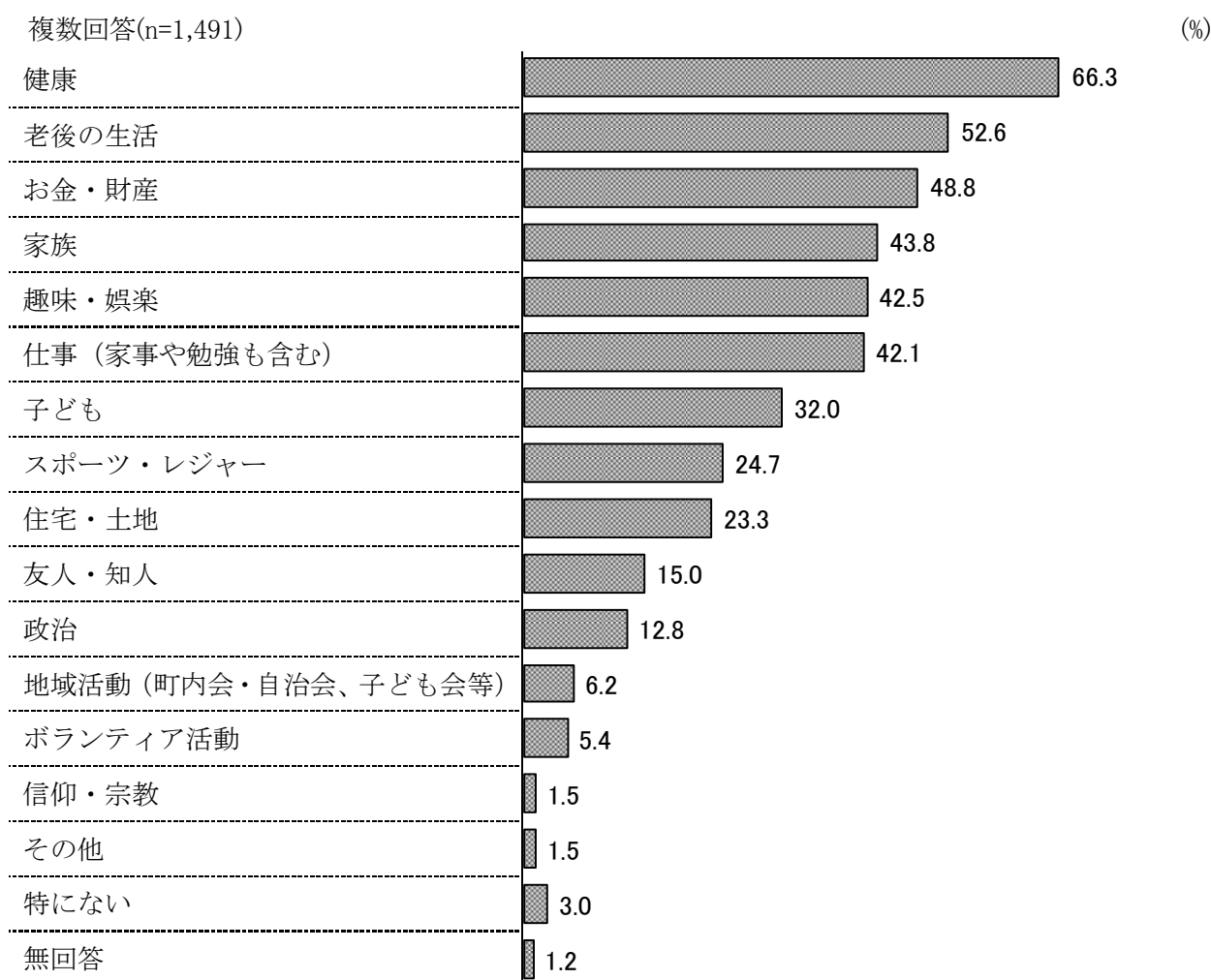
2.3 関心ごとと行動範囲について

(1) 関心を持っていること

問7. あなたが、現在特に関心をお持ちのことは何ですか。

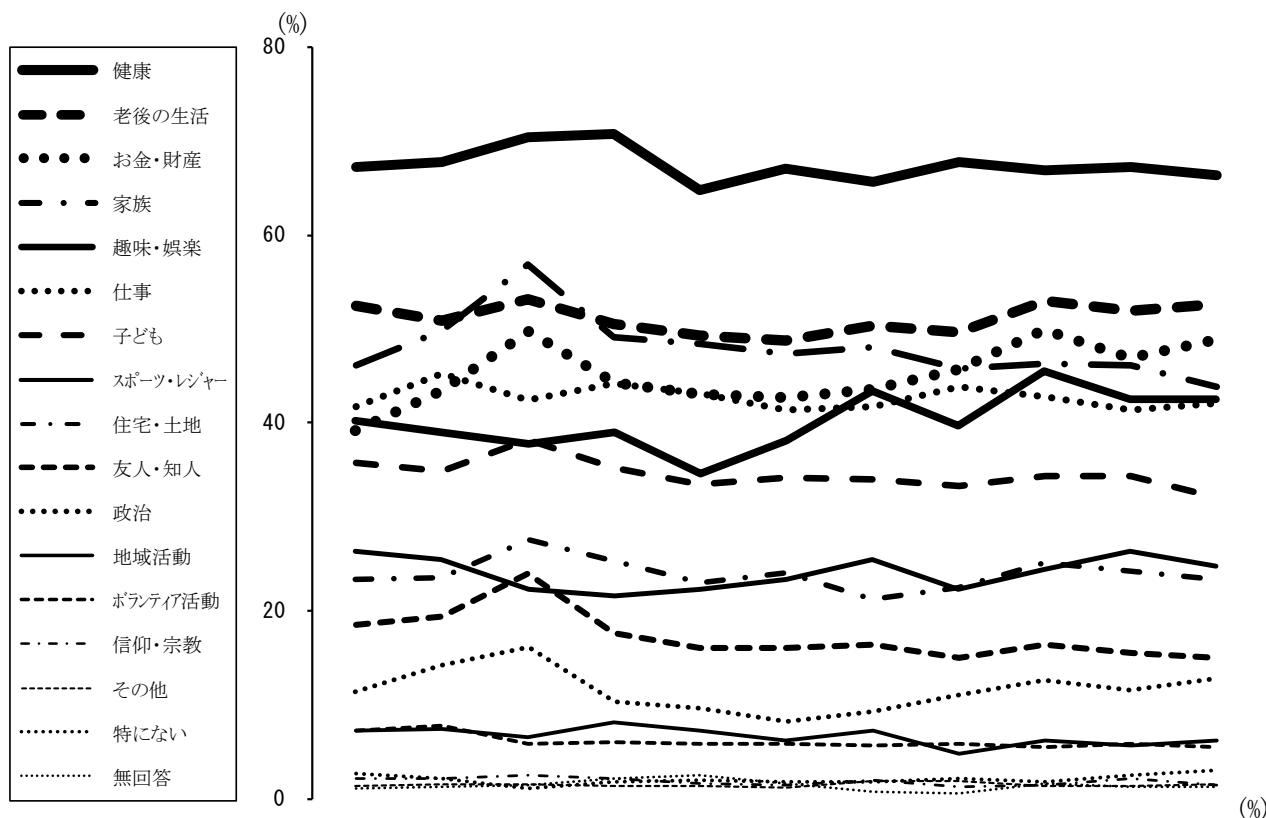
現在特に関心を持っていることを選んでもらったところ、「健康」(66.3%)が最も高く、次いで「老後の生活」(52.6%)、「お金・財産」(48.8%)と続いている。

【図表 100】関心を持っていること（複数回答）



平成25(2013)年度からの推移を見ると、「健康」が最も高く、「老後の生活」と「家族」を加えた3項目が令和2(2020)年度までの関心度の上位3項目であったが、令和3(2021)年度より「お金・財産」が「家族」を上回り、第4位から第3位へと順位が入れ替わっている。

【図表 101】 関心を持っていること（複数回答）
（経年比較）



	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年
健康	67.2	67.8	70.4	70.8	64.8	67.1	65.7	67.8	66.9	67.2	66.3
老後の生活	52.4	50.9	53.1	50.5	49.2	48.8	50.3	49.7	52.9	51.9	52.6
お金・財産	39.2	43.3	49.8	44.3	43.1	42.6	43.5	45.7	49.9	46.9	48.8
家族	46.2	49.8	56.9	49.1	48.4	47.3	48.0	45.8	46.3	46.1	43.8
趣味・娯楽	40.3	39.0	37.7	39.0	34.6	38.1	43.4	39.7	45.5	42.5	42.5
仕事	41.8	45.3	42.5	44.1	43.2	41.3	41.7	43.9	42.7	41.4	42.1
子ども	35.8	34.9	38.2	35.2	33.5	34.2	34.0	33.2	34.3	34.4	32.0
スポーツ・レジャー	26.4	25.5	22.2	21.5	22.2	23.4	25.5	22.2	24.4	26.4	24.7
住宅・土地	23.3	23.5	27.5	25.2	22.9	24.0	21.3	22.5	25.1	24.2	23.3
友人・知人	18.5	19.3	24.0	17.6	16.0	16.0	16.3	14.9	16.3	15.5	15.0
政治	11.4	14.1	16.2	10.3	9.6	8.2	9.3	11.1	12.6	11.6	12.8
地域活動	7.2	7.4	6.6	8.1	7.3	6.2	7.2	4.8	6.2	5.7	6.2
ボランティア活動	7.3	7.8	5.9	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9	5.5	5.8	5.4
信仰・宗教	2.2	2.2	2.5	2.1	1.6	1.4	1.9	1.3	1.4	2.1	1.5
その他	1.3	1.5	1.5	1.3	1.4	1.2	1.9	1.8	1.4	1.3	1.5
特にない	2.6	2.1	1.0	1.7	1.9	1.8	1.8	2.1	1.8	2.4	3.0
無回答	1.1	1.3	1.4	2.1	2.4	1.6	0.8	0.6	1.6	1.3	1.2

性／年齢別に見ると、男性は60歳代以上、女性は50歳代以上で「健康」が7割を超え、「老後の生活」は男性の60～69歳と女性の60歳代以上で7割を超えている。また、「趣味・娯楽」は男女ともに18～29歳で6割を超えて最も高くなっている。

【図表 102】 関心を持っていること（性／年齢別）

（%）

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,491)	(638)	(68)	(81)	(89)	(149)	(126)	(124)
健康	66.3	65.7	38.2	50.6	61.8	61.7	84.1	79.0
老後の生活	52.6	48.4	5.9	23.5	38.2	60.4	72.2	56.5
お金・財産	48.8	47.5	61.8	58.0	58.4	43.6	46.8	29.8
家族	43.8	41.1	29.4	38.3	51.7	45.0	41.3	36.3
趣味・娯楽	42.5	41.7	66.2	44.4	41.6	38.3	39.7	32.3
仕事(家事や勉強も含む)	42.1	37.6	60.3	49.4	52.8	41.6	28.6	10.5
子ども	32.0	27.0	16.2	49.4	58.4	22.8	13.5	13.7
スポーツ・レジャー	24.7	28.8	32.4	34.6	36.0	28.9	24.6	21.8
住宅・土地	23.3	23.0	26.5	32.1	31.5	18.8	25.4	11.3
友人・知人	15.0	12.9	26.5	16.0	12.4	8.1	11.1	10.5
政治	12.8	14.4	11.8	14.8	12.4	11.4	15.1	20.2
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	6.2	6.7	4.4	3.7	5.6	4.7	7.9	12.1
ボランティア活動	5.4	4.9	0.0	1.2	5.6	3.4	10.3	5.6
信仰・宗教	1.5	1.3	0.0	1.2	0.0	3.4	0.8	0.8
その他	1.5	0.5	0.0	0.0	1.1	0.0	0.8	0.8
特にない	3.0	3.4	4.4	3.7	5.6	2.7	2.4	3.2
無回答	1.2	1.1	0.0	1.2	0.0	0.7	1.6	2.4

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,491)	(813)	(98)	(119)	(160)	(175)	(123)	(133)
健康	66.3	67.8	35.7	55.5	65.0	80.0	74.8	82.0
老後の生活	52.6	56.2	13.3	37.8	51.9	68.0	75.6	76.7
お金・財産	48.8	50.6	59.2	71.4	55.0	56.0	36.6	26.3
家族	43.8	46.6	33.7	62.2	53.8	47.4	43.9	35.3
趣味・娯楽	42.5	44.0	60.2	44.5	43.8	41.1	44.7	35.3
仕事(家事や勉強も含む)	42.1	46.6	57.1	65.5	61.9	49.1	35.0	11.3
子ども	32.0	36.7	15.3	67.2	65.6	29.7	19.5	14.3
スポーツ・レジャー	24.7	21.6	19.4	19.3	26.9	18.3	22.0	23.3
住宅・土地	23.3	23.6	19.4	38.7	28.8	25.7	19.5	8.3
友人・知人	15.0	17.0	22.4	20.2	12.5	15.4	14.6	19.5
政治	12.8	11.6	8.2	9.2	8.8	6.3	14.6	23.3
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	6.2	5.9	2.0	7.6	2.5	2.9	8.9	12.0
ボランティア活動	5.4	5.9	6.1	1.7	4.4	6.9	8.1	8.3
信仰・宗教	1.5	1.5	1.0	2.5	0.6	1.1	1.6	2.3
その他	1.5	2.2	0.0	0.8	4.4	1.7	4.9	0.8
特にない	3.0	2.3	4.1	0.8	2.5	1.1	1.6	4.5
無回答	1.2	1.2	1.0	0.8	1.3	1.7	1.6	0.8

(2) 行動範囲

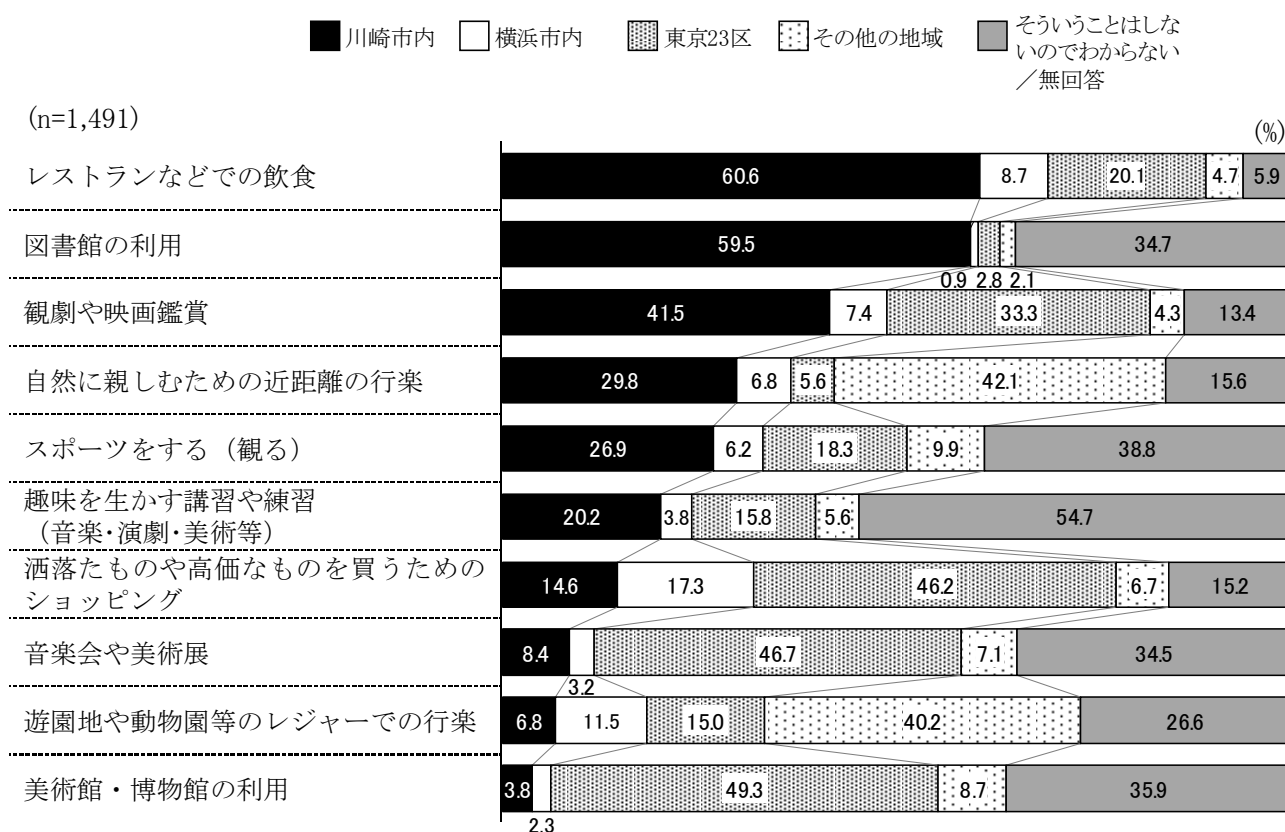
問8. あなたは、行楽や文化施設の利用・買い物などをされる場合、主にどこに行かれますか。それぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。

川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も高いのは「レストランなどでの飲食」(60.6%)で、次いで、「図書館の利用」(59.5%)、「観劇や映画鑑賞」(41.5%)と続いている。

『川崎市内』以外で利用率が最も高いのは、『東京23区』の「美術館・博物館の利用」(49.3%)であり、次いで「音楽会や美術展」(46.7%)、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(46.2%)と続いている。

上記以外については、「自然に親しむための近距離の行楽」と「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」では『その他の地域』がそれぞれ42.1%、40.2%で最も高く、「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」と「スポーツをする(観る)」では『そういうことはしないのでわからない/無回答』がそれぞれ54.7%、38.8%で最も高かった。

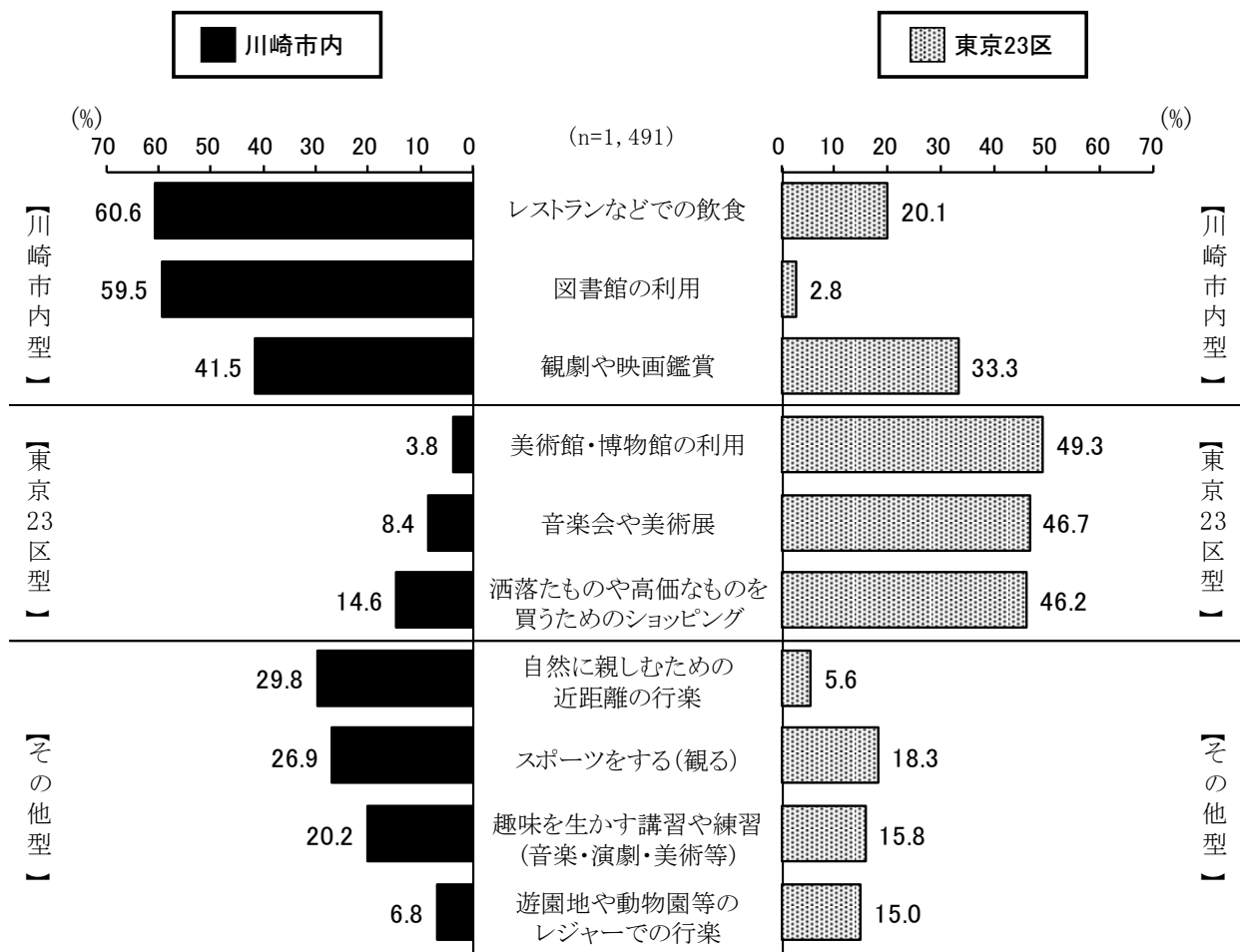
【図表 103】行動範囲



115 ページの【図表 103】をもとに、川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が高いもの、『東京 23 区』が高いもの、この2つ以外のエリアが高いものの3種類で整理すると次のようになる。

- 【川崎市内型】 レストランなどでの飲食
図書館の利用
観劇や映画鑑賞
- 【東京 23 区型】 美術館・博物館の利用
音楽会や美術展
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング
- 【その他型】 自然に親しむための近距離の行楽
スポーツをする（観る）
趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）
遊園地や動物園等のレジャーでの行楽

【図表 104】 行動範囲（『川崎市内』と『東京 23 区』との比較）

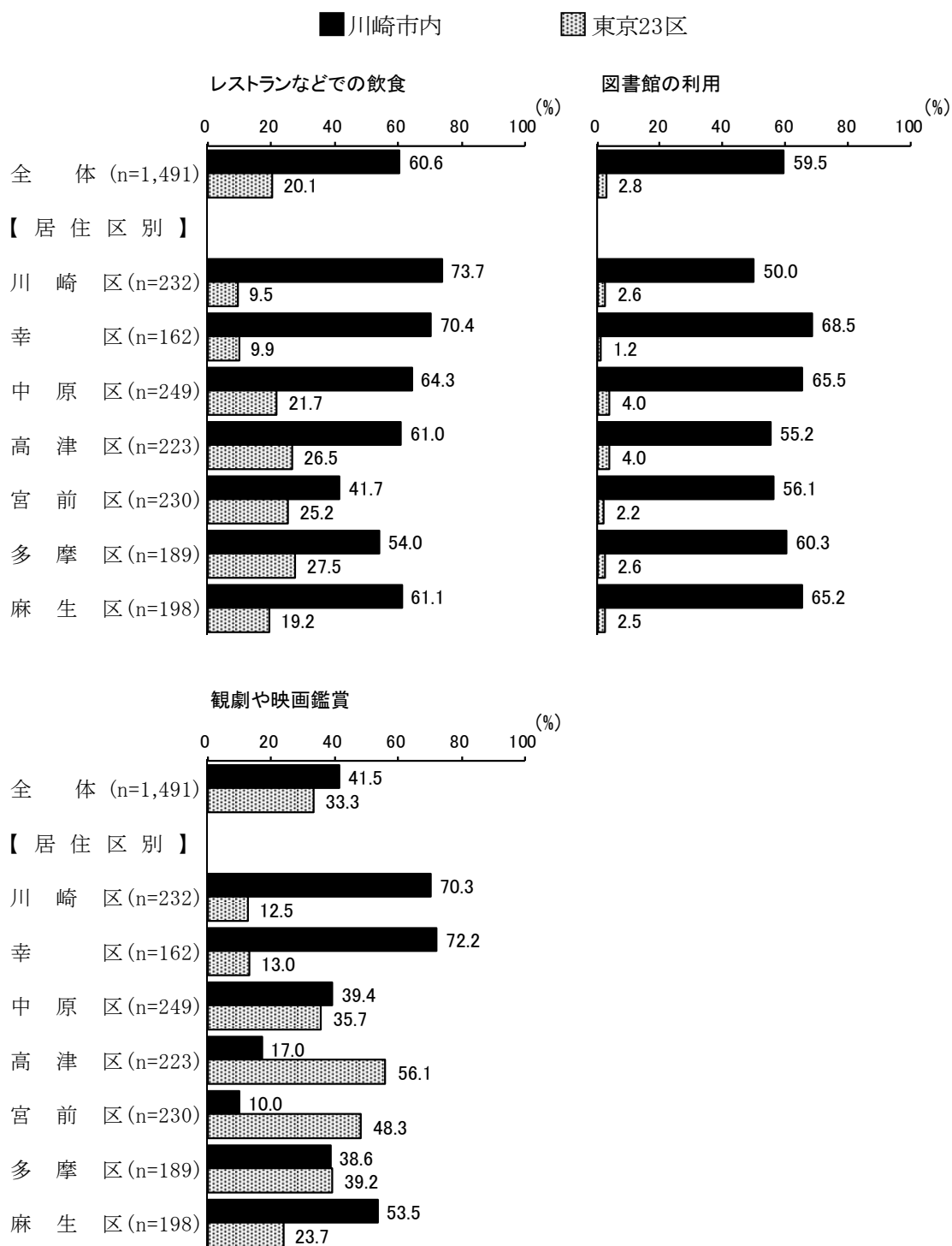


【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「レストランなどでの飲食」は『川崎市内』での利用率は川崎区(73.7%)が最も高く、『東京23区』での利用率は多摩区(27.5%)、高津区(26.5%)、宮前区(25.2%)が25%を超えている。

「図書館の利用」は『川崎市内』での利用率は幸区(68.5%)が最も高く、『東京23区』での利用率は最も高い中原区と高津区でも4.0%に留まった。

「観劇や映画鑑賞」は『川崎市内』での利用率は幸区(72.2%)が最も高く、高津区と宮前区、では、『川崎市内』よりも『東京23区』の利用率の方が高かった。また、多摩区は『川崎市内』と『東京23区』の利用率がほぼ同程度であった。

【図表 105】行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【川崎市内型】

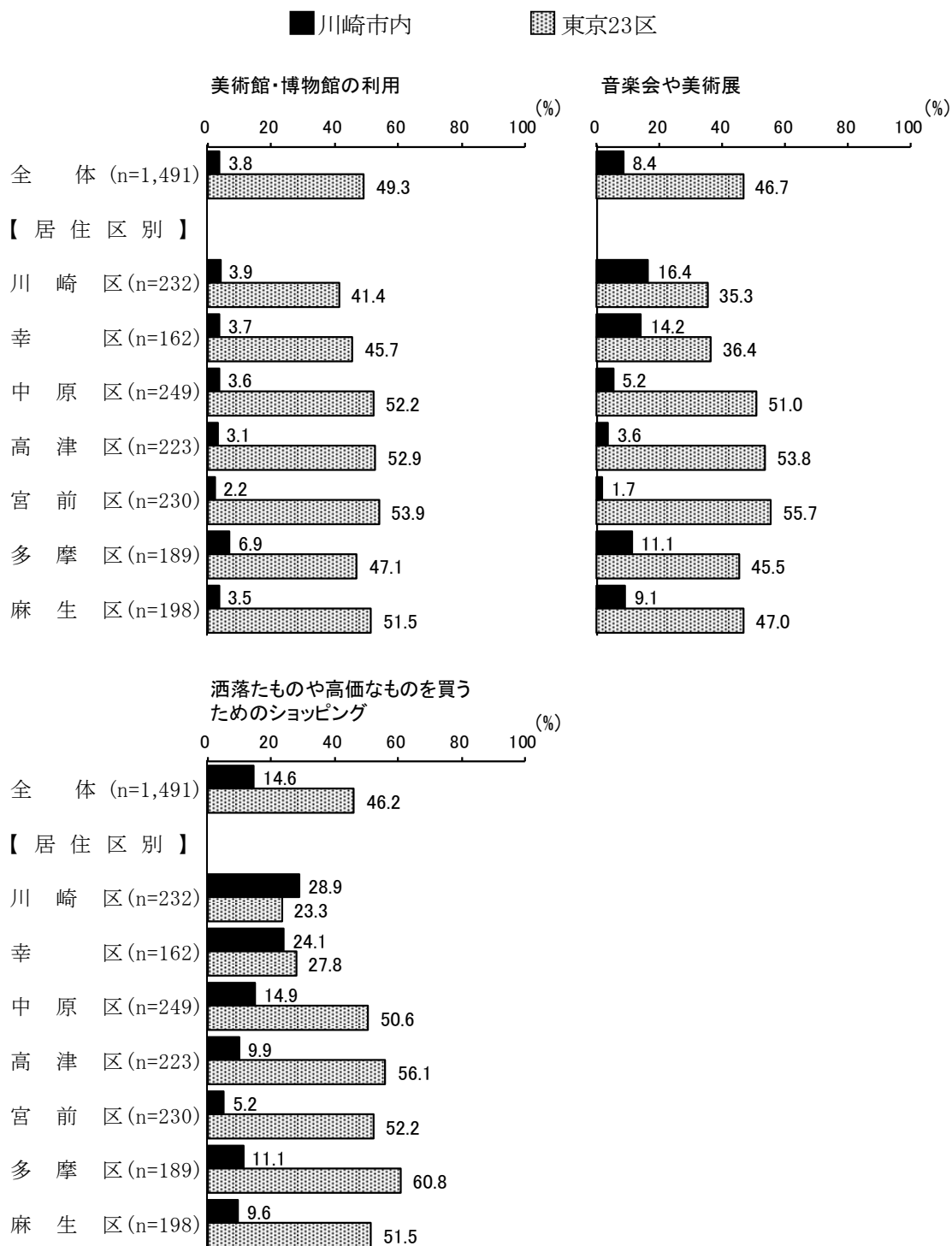


【東京23区型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は『東京23区』での利用率は宮前区（53.9%）が最も高く、『川崎市市内』での利用率はいずれの居住区においても1割未満であった。

「音楽会や美術展」は、『東京23区』での利用率は宮前区（55.7%）が最も高く、『川崎市市内』での利用率は川崎区（16.4%）が最も高かった。

「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は『東京23区』での利用率は多摩区（60.8%）が最も高く、『川崎市市内』での利用率は川崎区（28.9%）が最も高かった。

【図表 106】 行動範囲（『川崎市市内』と『東京23区』）との比較、居住区別）【東京23区型】



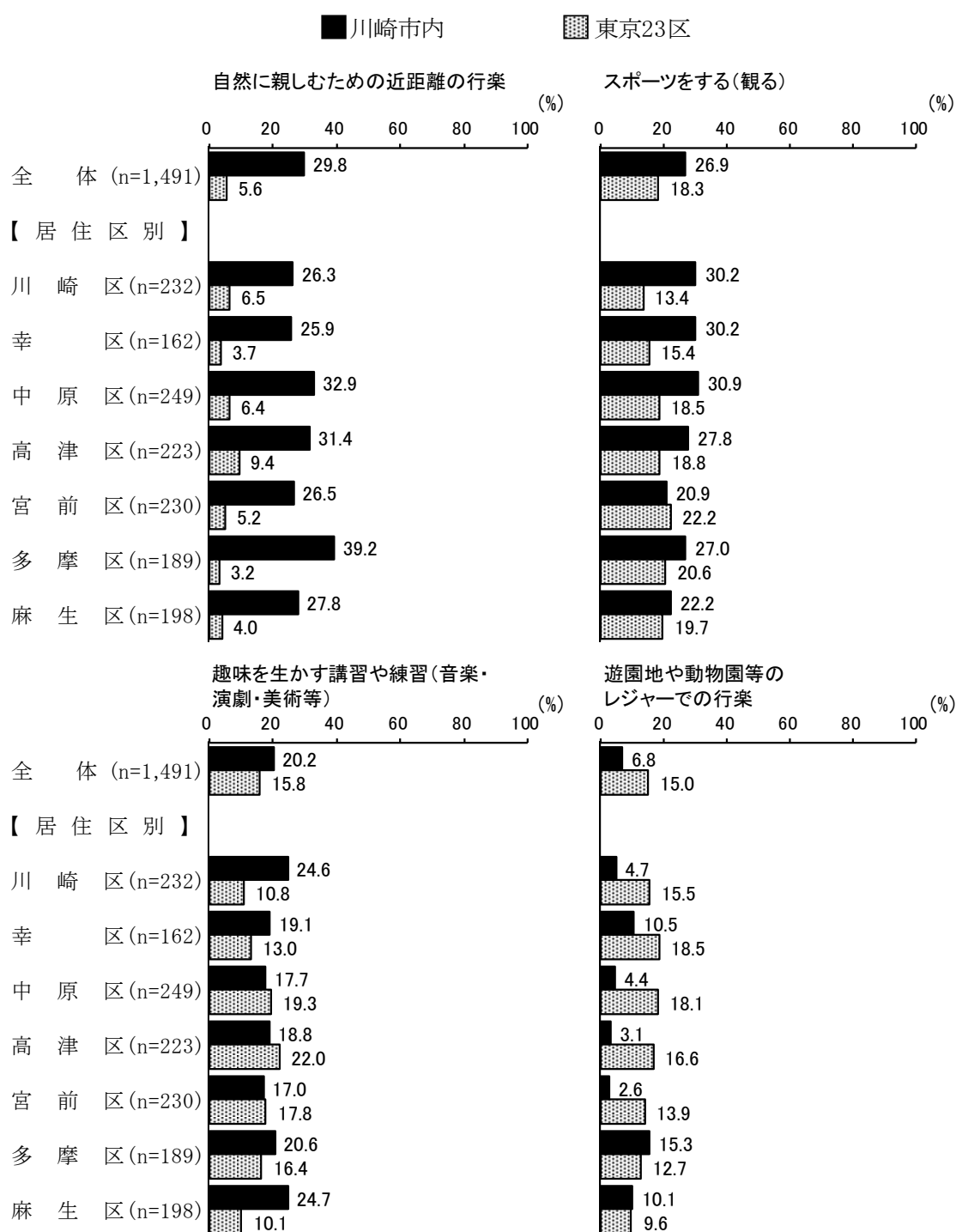
【川崎市内型】と【東京23区型】に分類されない『その他の地域』もしくは『そういうことはしないのでわからない／無回答』の回答率が高い【その他型】4項目を居住区別で比較すると、「自然に親しむための近距離の行楽」は『川崎市内』での利用率は多摩区(39.2%)が最も高く、『東京23区』での利用率は高津区(9.4%)が最も高かった。

「スポーツをする(観る)」は『川崎市内』での利用率は中原区、川崎区、幸区で約30%と比較的高く、『東京23区』での利用率は宮前区(22.2%)が最も高かった。

「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は『川崎市内』での利用率は麻生区と川崎区が約25%と比較的高く、『東京23区』での利用率は高津区(22.0%)が最も高かった。

「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は『川崎市内』での利用率は多摩区(15.3%)が最も高く、『東京23区』での利用率は幸区(18.5%)が最も高かった。

【図表 107】 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別)【その他型】



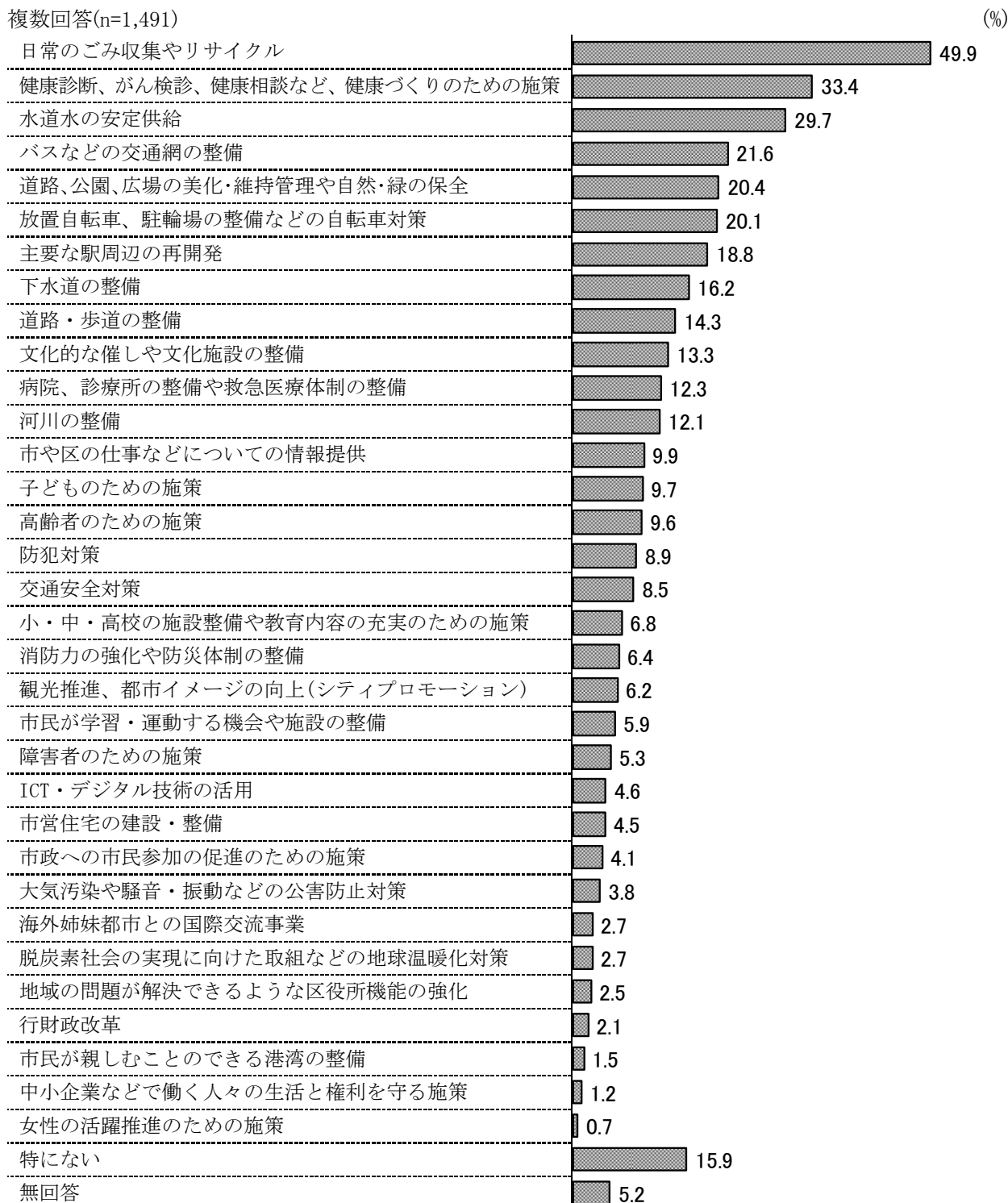
2.4 市政に対する評価と要望について

(1) 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

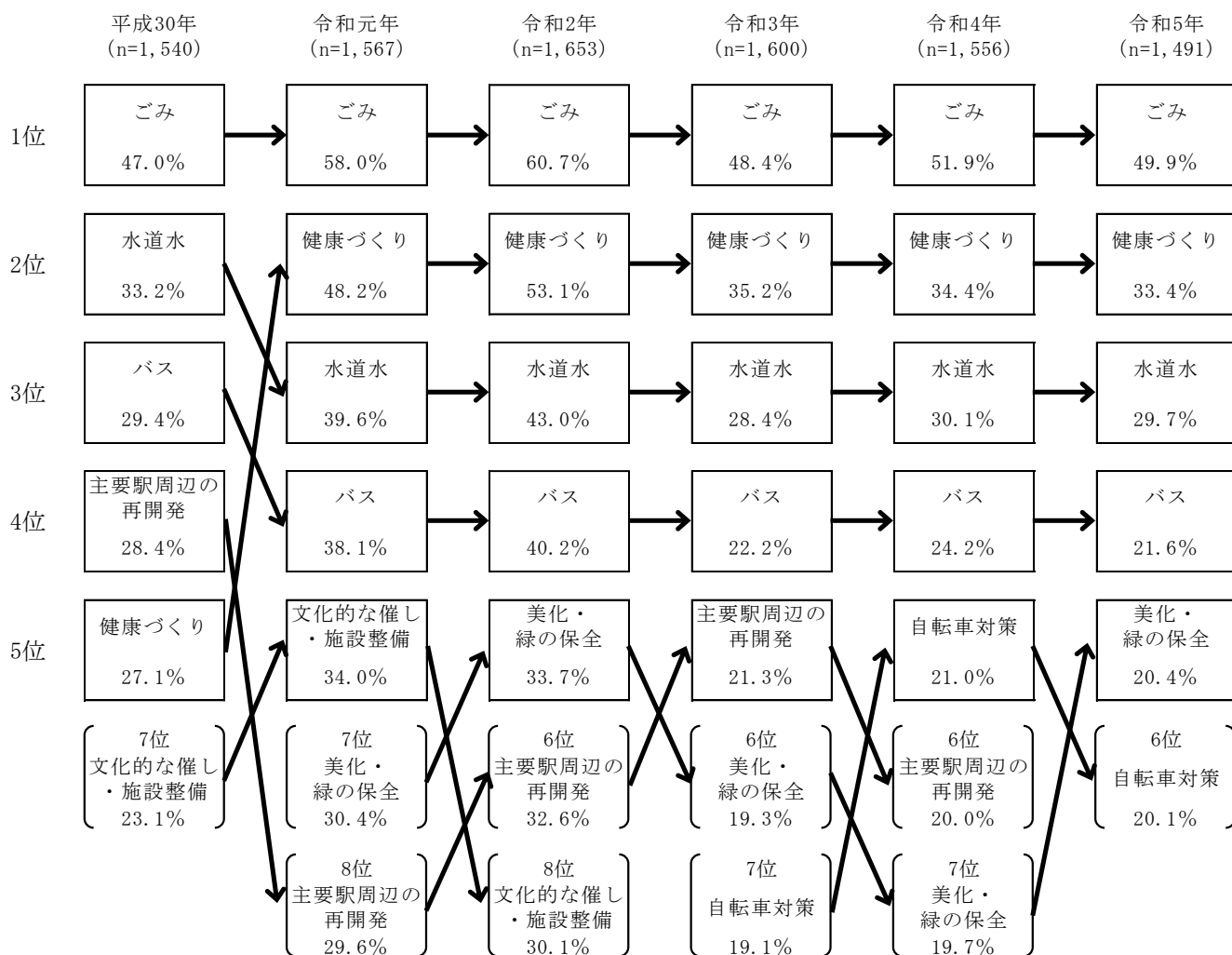
「日常のごみ収集やリサイクル」(49.9%)が最も高く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(33.4%)、「水道水の安定供給」(29.7%)と続いている。

【図表 108】 市政の仕事でよくやっていると思うこと (複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「日常のごみ収集やリサイクル」は全て1位で、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」、「水道水の安定供給」、「バスなどの交通網の整備」の4項目は令和元年度以降同順位となっている。

【図表 109】 市政の仕事でよくやっていると思うこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）

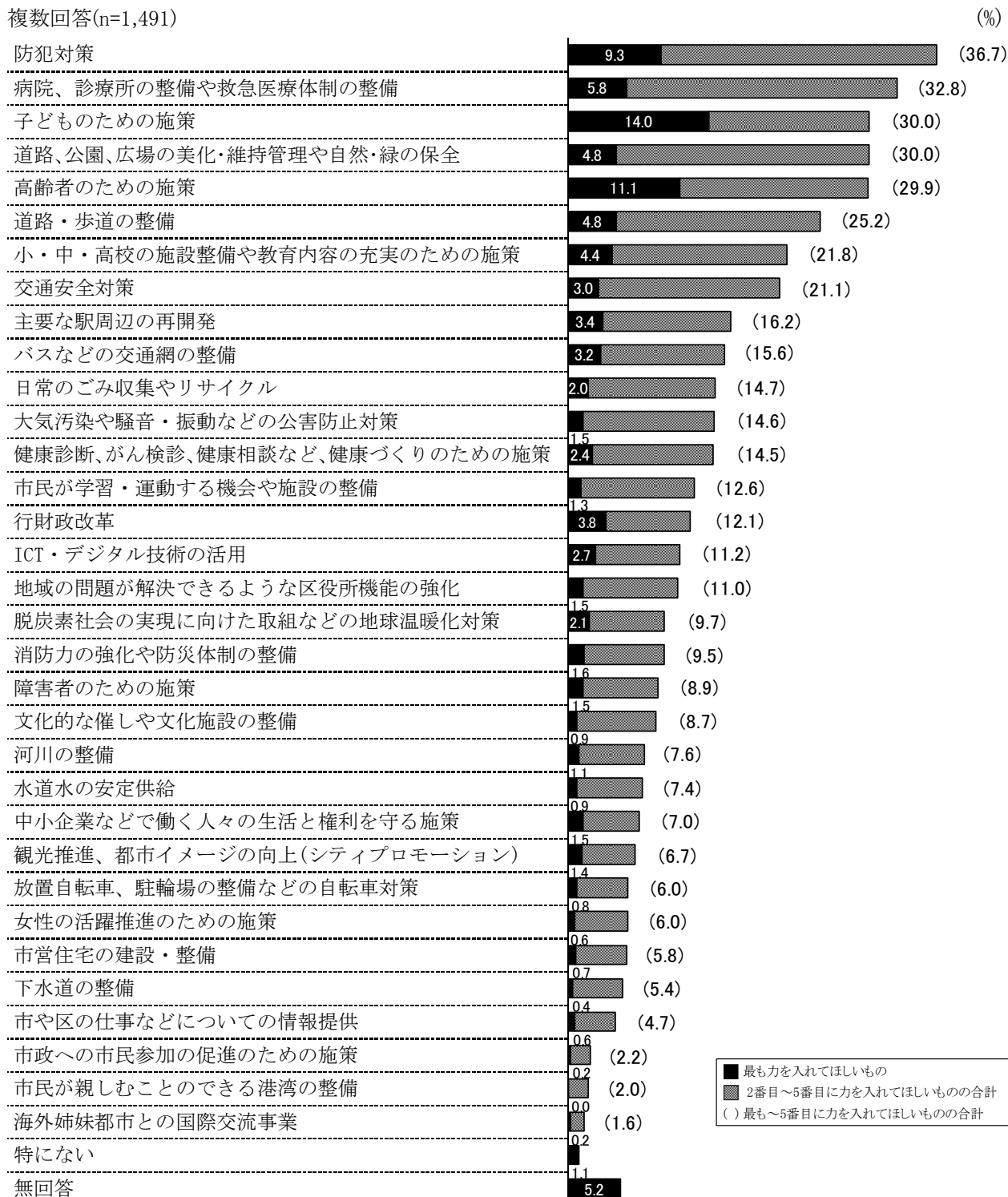


(2) 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問10. 問9の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に5つ選んでください。

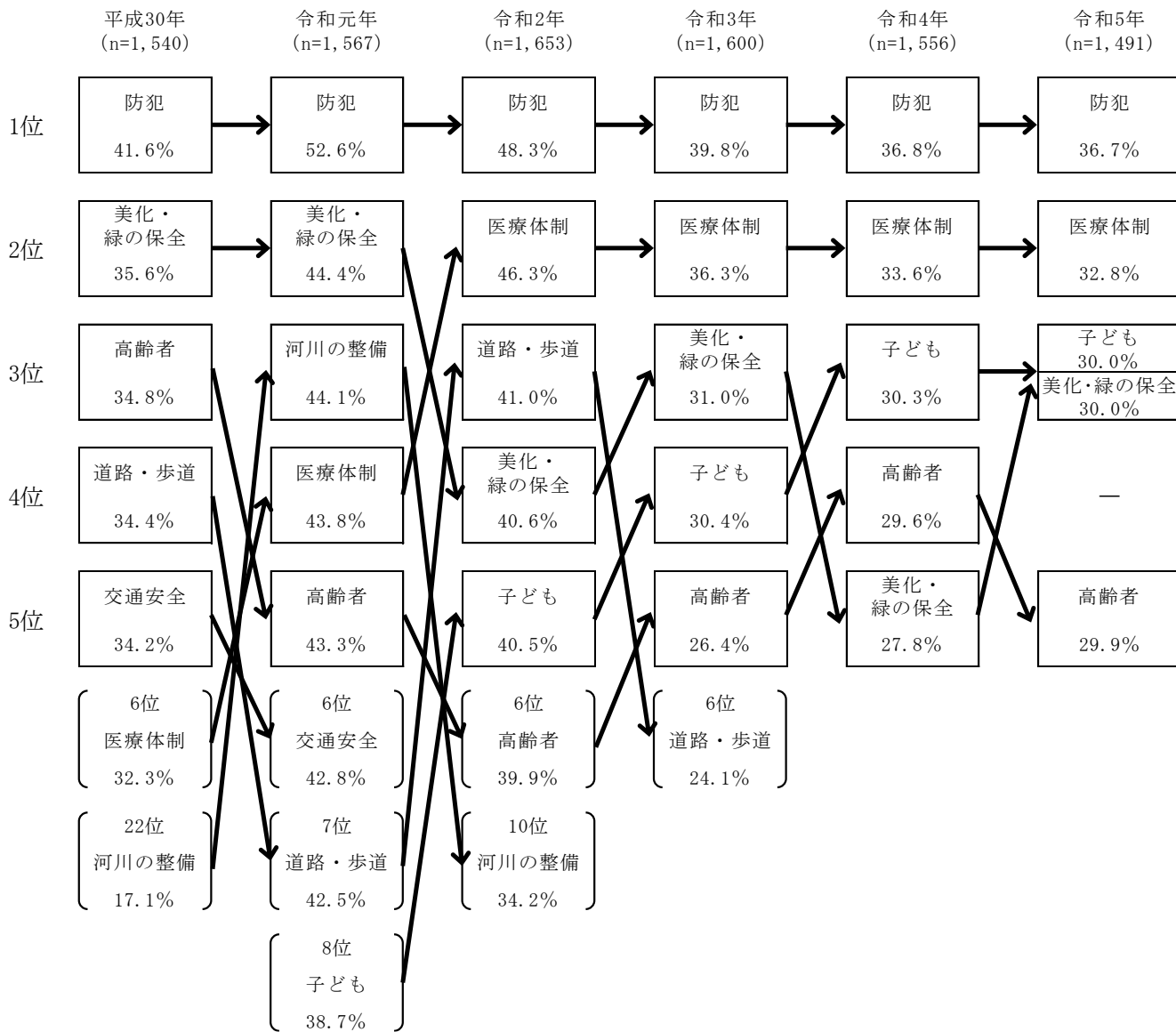
「最も力を入れてほしいもの」～「5番目に力を入れてほしいもの」の合計では「防犯対策」(36.7%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(32.8%)、「子どものための施策」「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」(ともに30.0%)の順であるが、「最も力を入れてほしいもの」だけで見ると、「子どものための施策」(14.0%)が最も高くなっている。

【図表 110】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと (複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「防犯対策」は全て1位で、上位5位は令和3年度以降同じ項目となっている。

【図表 111】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）



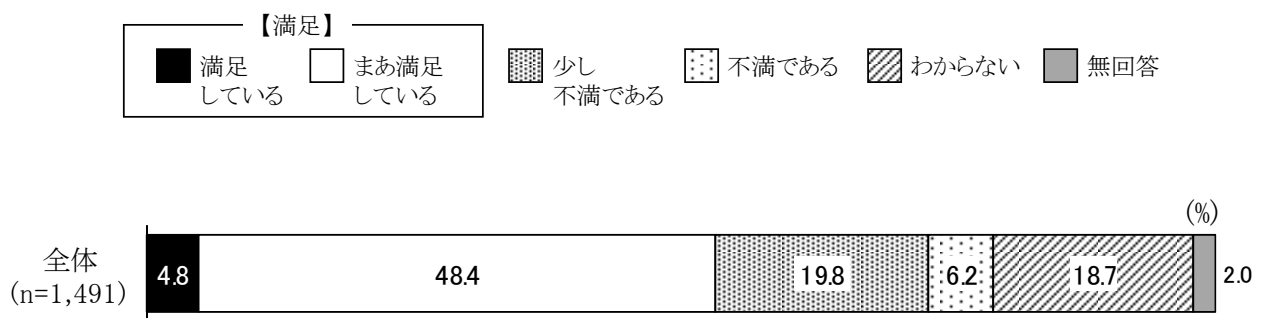
※令和2年度までは選択肢に制限を設けない複数回答にて実施

(3) 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

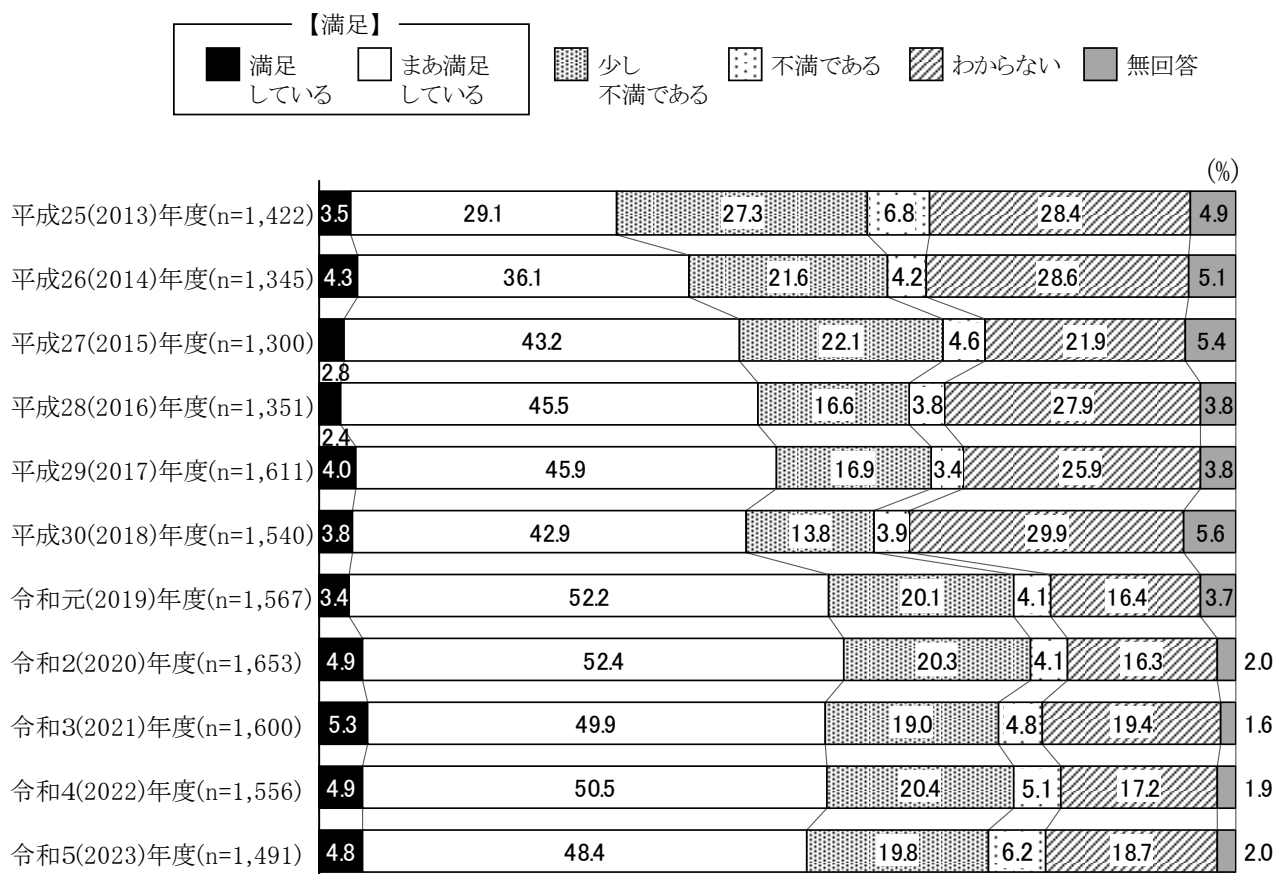
「満足している」(4.8%)と「まあ満足している」(48.4%)を合計した【満足】は53.3%であった。

【図表 112】 施策や事業の総合的な満足度



【満足】は、5年前（平成30年度）と比較して6.6ポイント、10年前（平成25年度）と比較して20.7ポイントの増加となったが、令和元（2019）年度以降はほぼ横ばいで推移している。

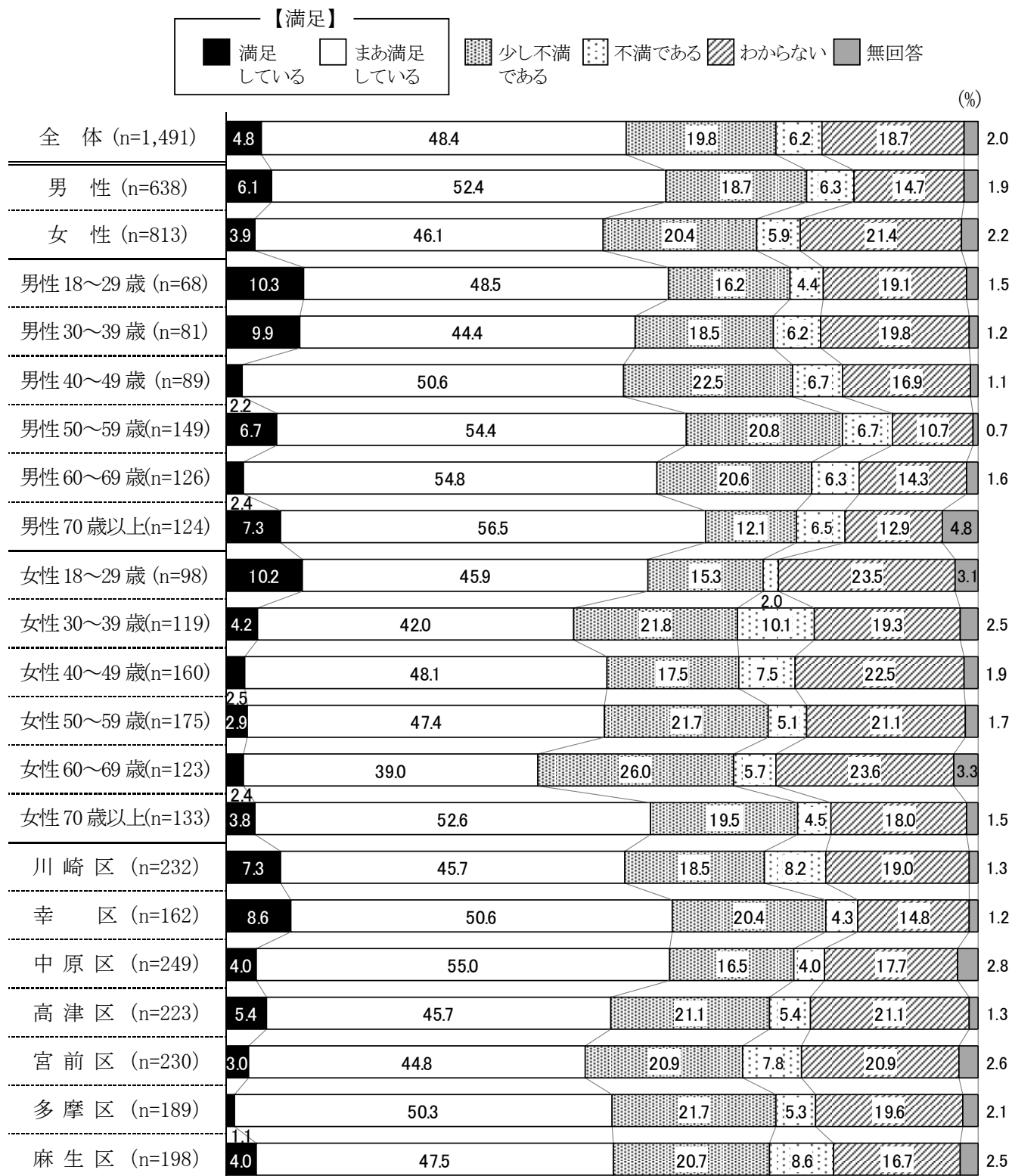
【図表 113】 施策や事業の総合的な満足度（経年比較）



性／年齢別に見ると、【満足】の割合は、男性は70歳以上(63.7%)が最も高く、50～59歳(61.1%)でも6割を超えている。女性は70歳以上(56.4%)と18～29歳(56.1%)がともに5割台半ばとなっている。一方、男性は40～49歳(52.8%)、女性は60～69歳(41.5%)で【満足】が最も低くなっている。

居住区別では、【満足】の割合は、幸区(59.3%)と中原区(59.0%)が約6割と高く、宮前区(47.8%)が最も低い。

【図表 114】 施策や事業の総合的な満足度（性／年齢別、居住区別）



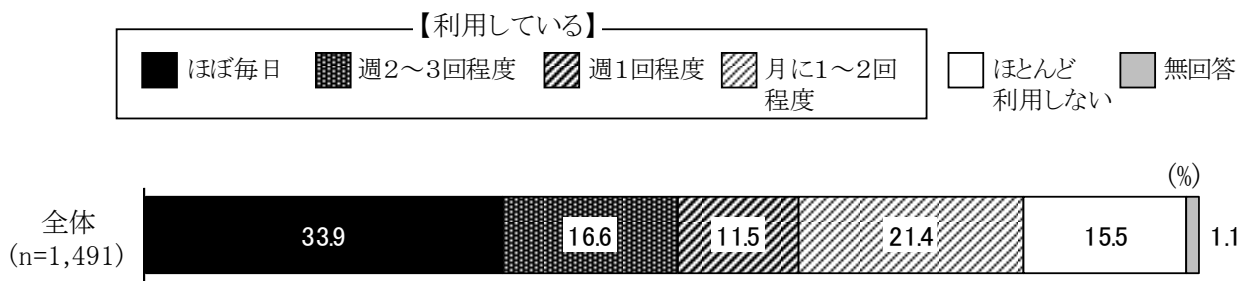
2.5 川崎市の都市交通について

(1) 鉄道の利用頻度

問 12. あなたは普段、どの程度鉄道を利用していますか。

「ほぼ毎日」が 33.9%と最も高く、「週2～3回程度」(16.6%)、「週1回程度」(11.5%)、「月に1～2回程度」(21.4%)を合計した【利用している】の割合は 83.4%となっている。一方で、「ほとんど利用しない」は 15.5%であった。

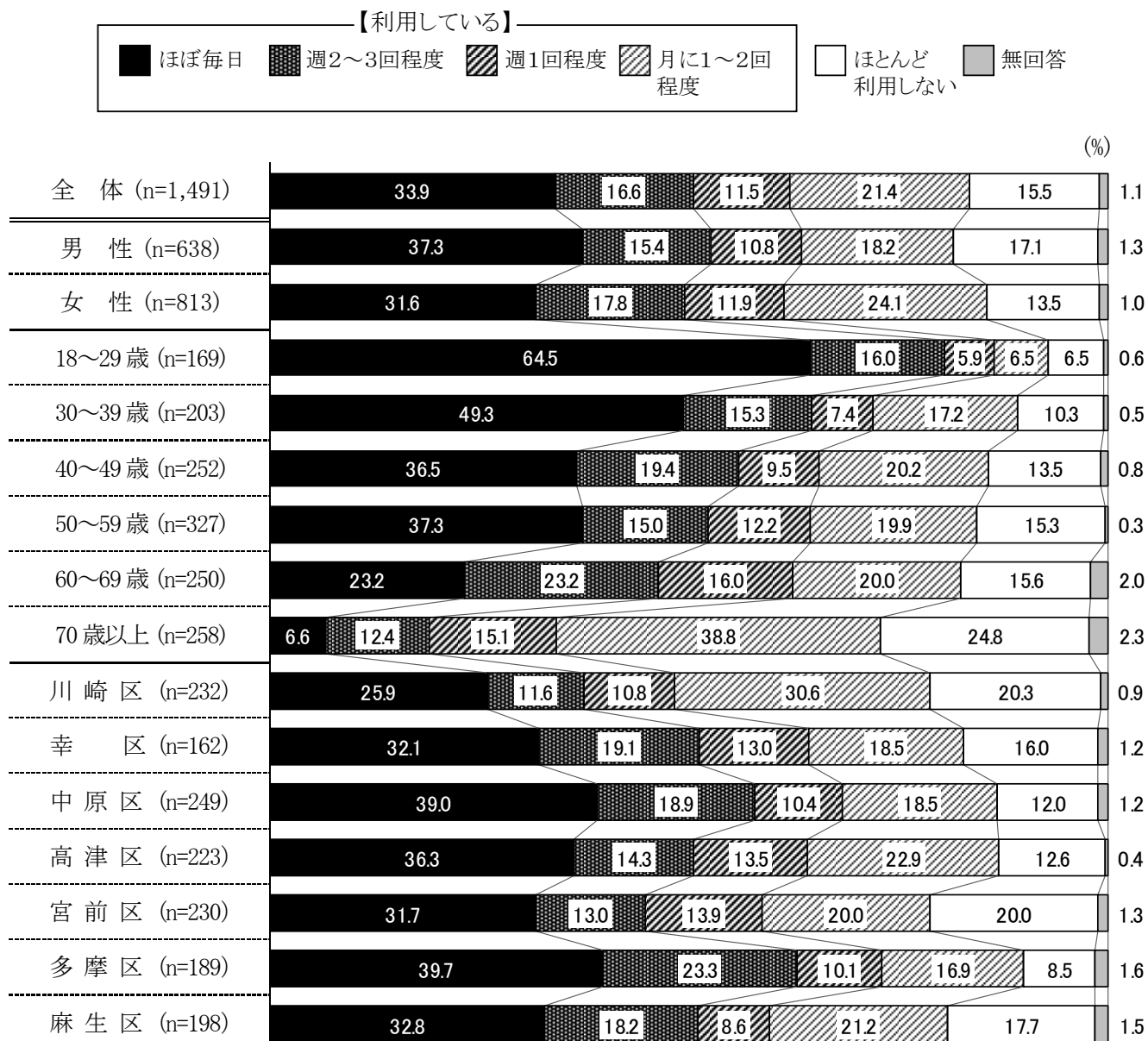
【図表 115】 鉄道の利用頻度



年齢別に見ると、【利用している】は18～29歳が92.9%と最も高く、年齢が上がるほど割合が低くなり、70歳以上では72.9%となっている。

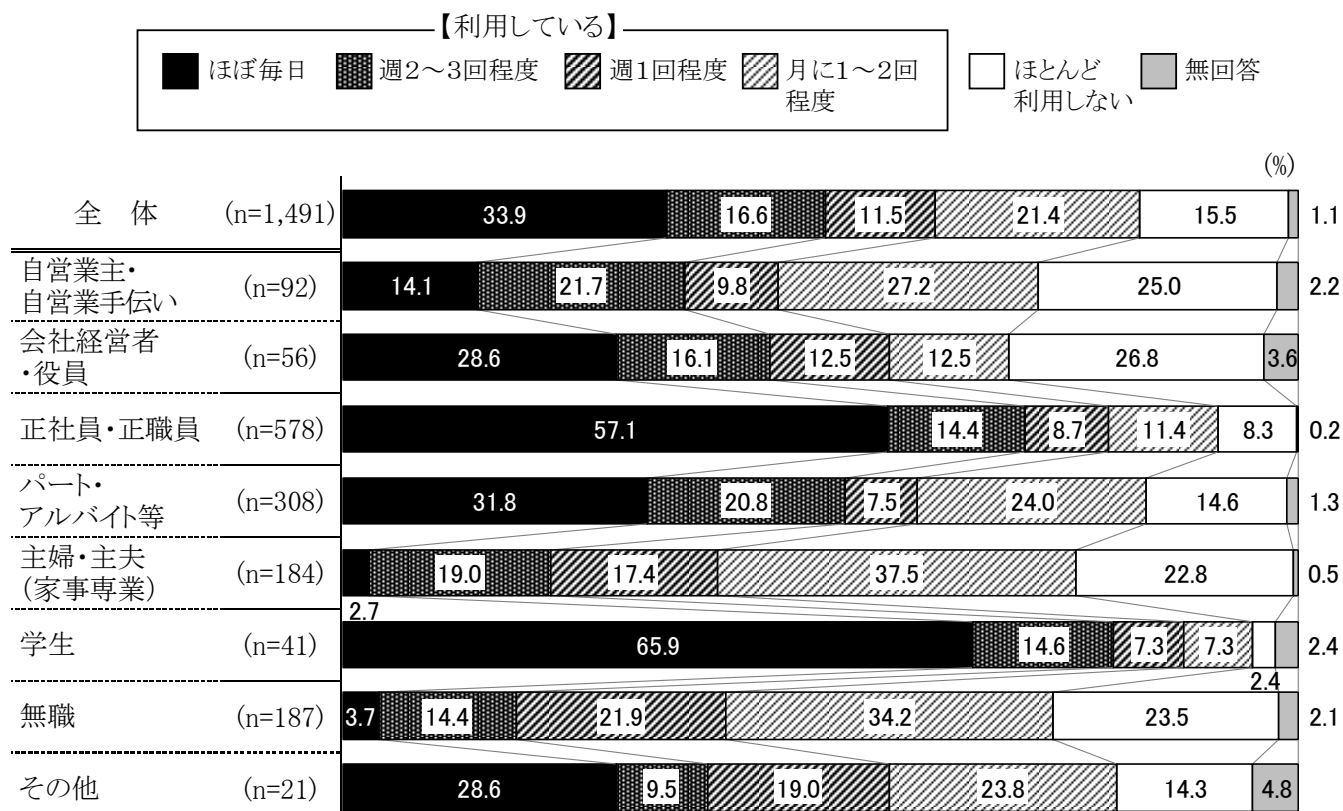
居住区別に見ると、【利用している】は多摩区(89.9%)が約9割と最も高く、川崎区(78.9%)と宮前区(78.7%)では8割を下回った。

【図表 116】 鉄道の利用頻度 (性別、年齢別、居住区別)



職業別に見ると、「ほぼ毎日」の割合は、「学生」(65.9%)と「正社員・正職員」(57.1%)が5割を超え、「主婦・主夫(家事専業)」と「無職(収入が年金のみの方を含む)」では1割を下回っている。また、【利用している】の割合は、「学生」(95.1%)と「正社員・正職員」(91.5%)が9割を超えて高く、「会社などの経営者・役員」(69.6%)が最も低い。

【図表 117】 鉄道の利用頻度(職業別)



※「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

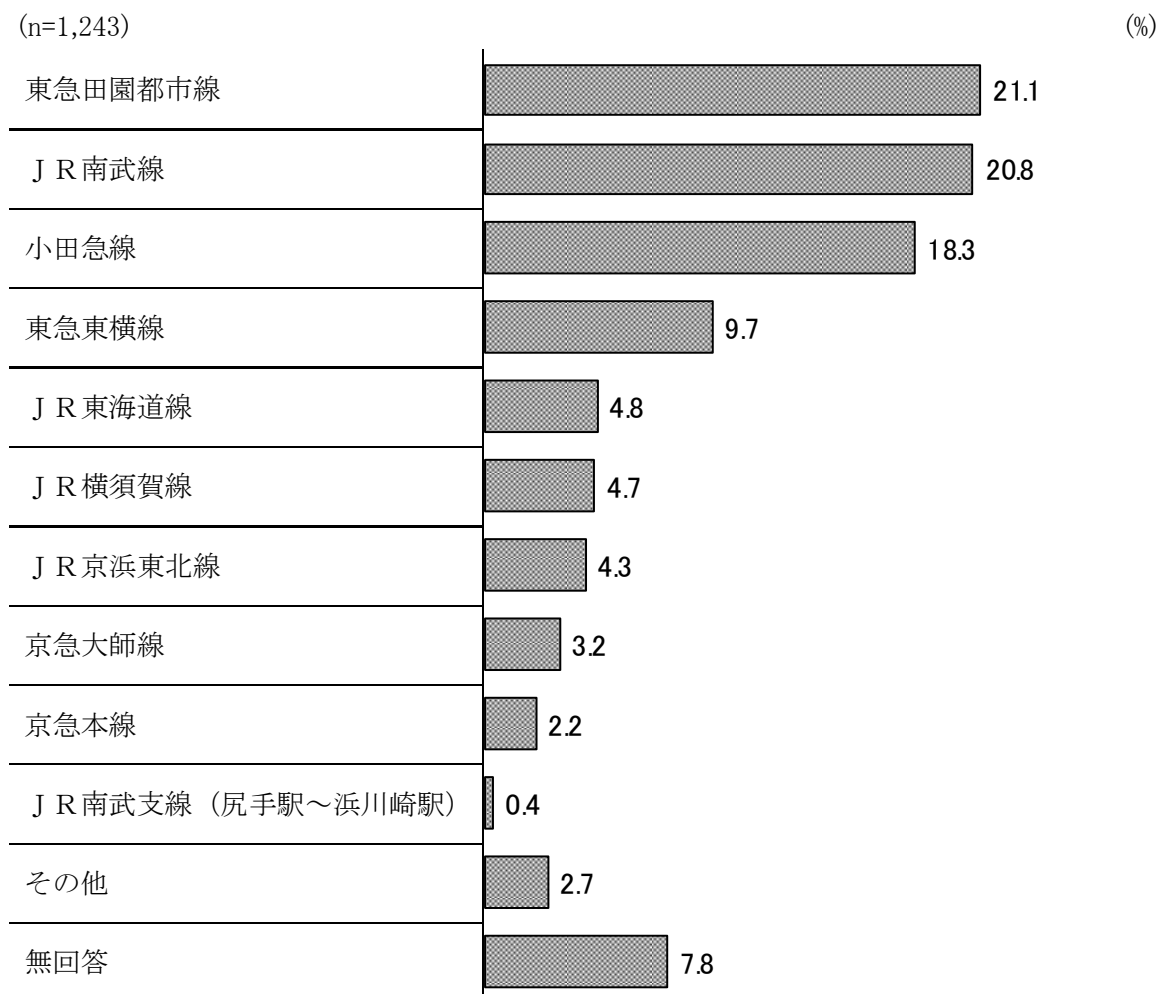
(2) 最もよく利用する鉄道路線と利用目的

問 13. 問 12 で「1. ほぼ毎日」～「4. 月に1～2回程度」と回答した方にうかがいます。
あなたが最もよく利用する市内の鉄道路線と鉄道を利用する主な目的を教えてください。
利用頻度の多いケースを想定して、A（市内の鉄道路線）、B（利用目的）それぞれから
最もあてはまるものを1つ選んでください。

① 鉄道路線

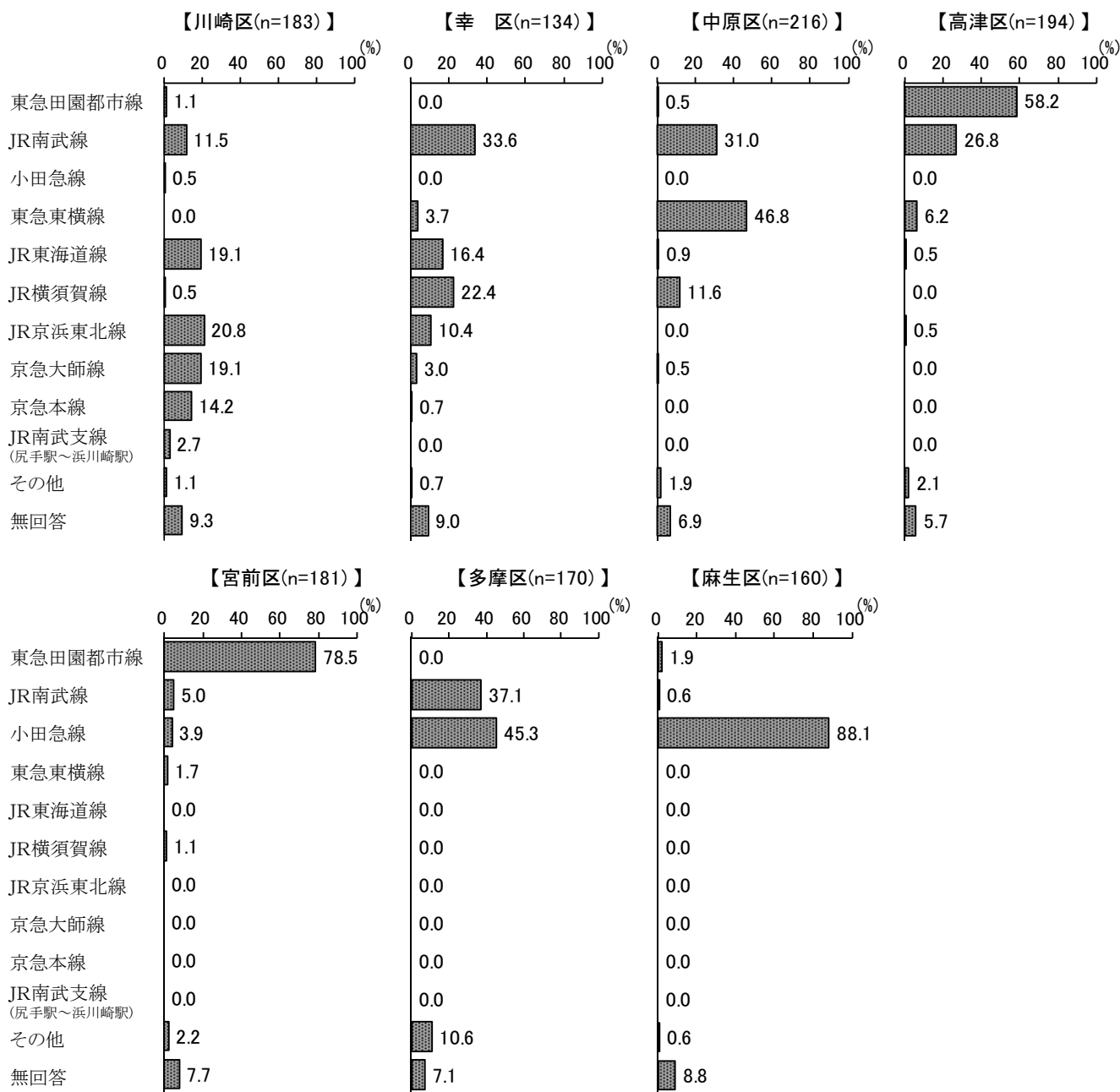
鉄道を【利用している】（「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計）人に、最もよく利用する市内の鉄道路線についてたずねたところ、「東急田園都市線」が21.1%と最も高く、次いで「JR南武線」（20.8%）、「小田急線」（18.3%）、「東急東横線」（9.7%）と続いている。

【図表 118】最もよく利用する鉄道路線



居住区別に見ると、川崎区は「JR京浜東北線」が最も高く、「JR東海道線」と「京急大師線」も同水準となっている。幸区は「JR南武線」が最も高く、中原区は「東急東横線」、高津区と宮前区は「東急田園都市線」が最も高い。多摩区と麻生区は「小田急線」が最も高い。

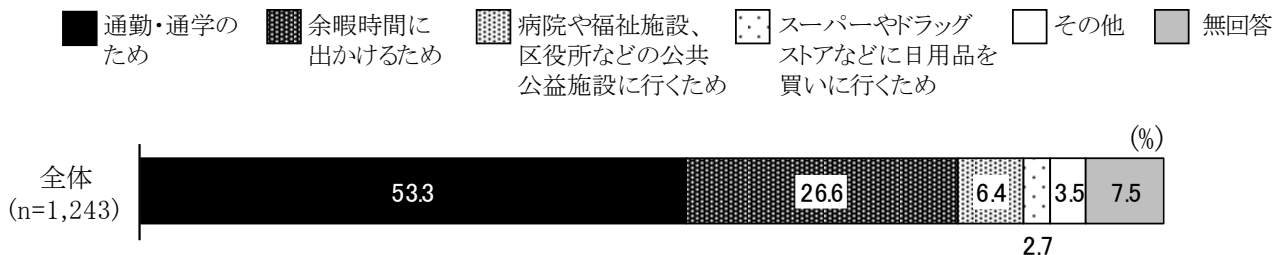
【図表 119】最もよく利用する鉄道路線（居住区別）



② 利用目的

鉄道を【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計) 人に、鉄道を利用する主な理由についてたずねたところ、「通勤・通学のため」が53.3%と最も高く、次いで「余暇時間に出かけるため」(26.6%)、「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」(6.4%)と続いている。

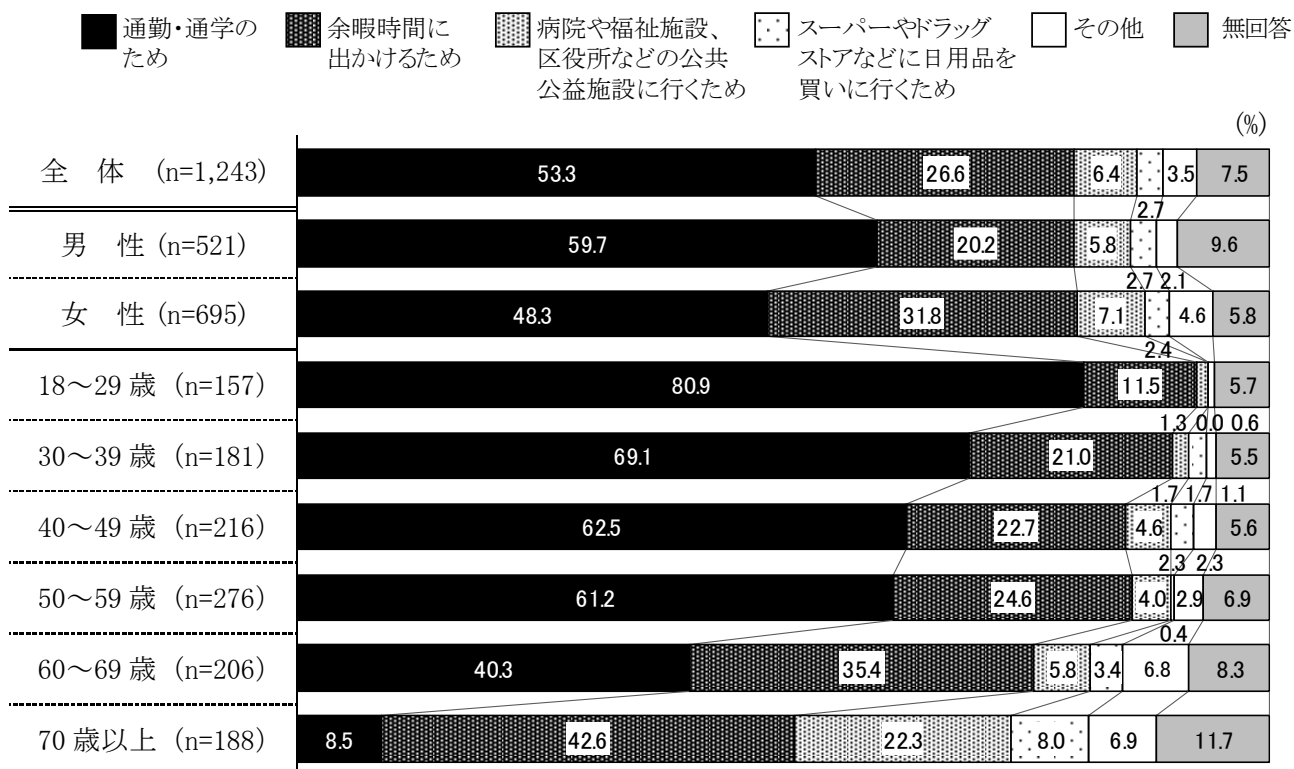
【図表 120】 鉄道を利用する主な目的



性別に見ると、「通勤・通学のため」は女性よりも男性の方が高く、「余暇時間に出かけるため」は男性よりも女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「通勤・通学のため」は年齢が上がるほど割合が低くなり、「余暇時間に出かけるため」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 121】 鉄道を利用する主な目的 (性別、年齢別)



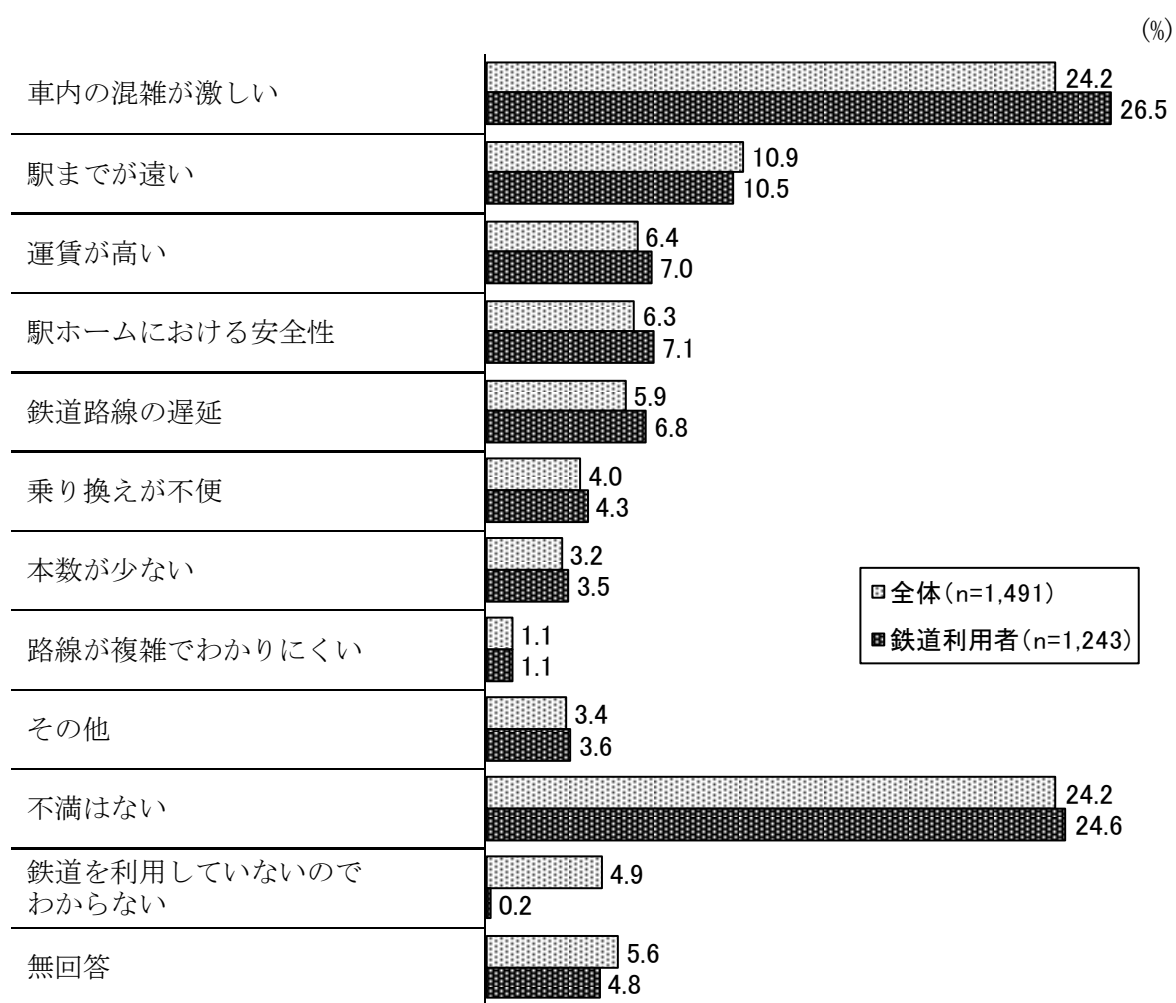
(3) 市内の鉄道利用において不満に感じる点

問 14. 市内の鉄道の利用において、あなたが最も不満に感じている点は何ですか。

全体では、「車内の混雑が激しい」が24.2%と最も高く、次いで「駅までが遠い」(10.9%)、「運賃が高い」(6.4%)と続いている。一方で、約4分の1が「不満はない」(24.2%)と回答している。

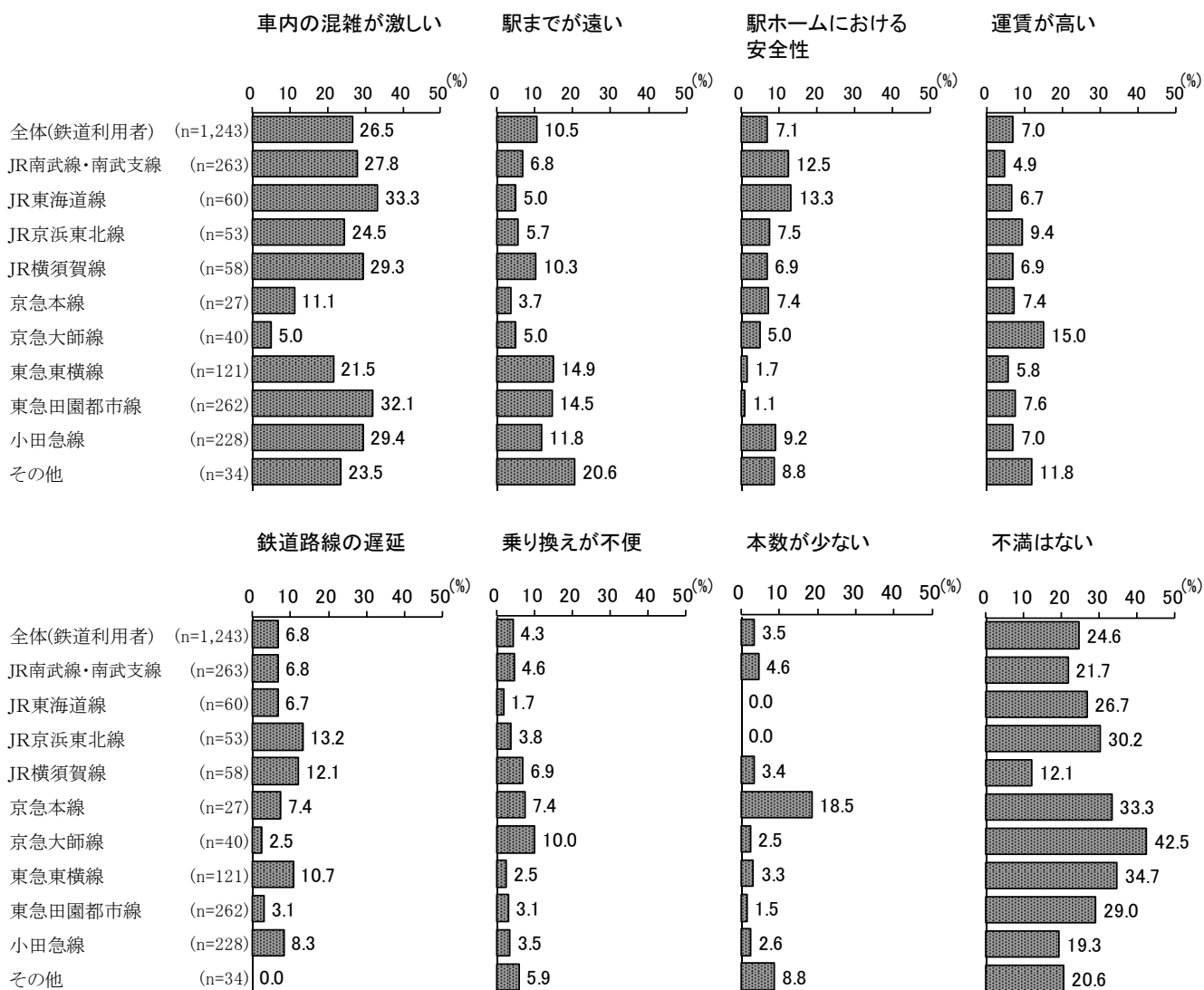
鉄道を【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計)人だけについて見ても、各項目の割合や順位に大きな差は見られない。

【図表 122】市内の鉄道利用において最も不満に感じる点



問13の最もよく利用する鉄道路線別に見ると、「車内の混雑が激しい」は「JR東海道線」(33.3%)と「東急田園都市線」(32.1%)利用者が3割を超えて比較的高く、「京急大師線」(5.0%)利用者が最も低い。「駅ホームにおける安全性」は「JR東海道線」(13.3%)と「JR南武線・南武支線」(12.5%)利用者が1割を超えて比較的高い。また、「運賃が高い」と「乗り換えが不便」は「京急大師線」利用者が最も高いが、「不満はない」でも「京急大師線」利用者が42.5%と最も高くなっている。

【図表 123】市内の鉄道利用において最も不満に感じる事《上位8項目》
(鉄道利用者／最もよく利用する鉄道路線別)



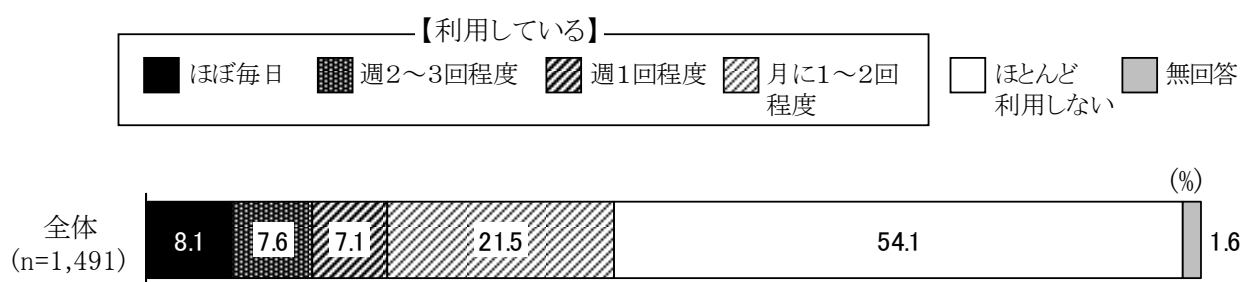
※「京急本線」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

(4) 市内の路線バスの利用頻度

問 15. あなたは普段、どの程度市内の路線バスを利用していますか。(自宅からの利用には限りません)

「ほとんど利用しない」が 54.1%と半数を超えている。【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計)は 44.3%であり、そのうち「月に1～2回程度」(21.5%)が最も高い。

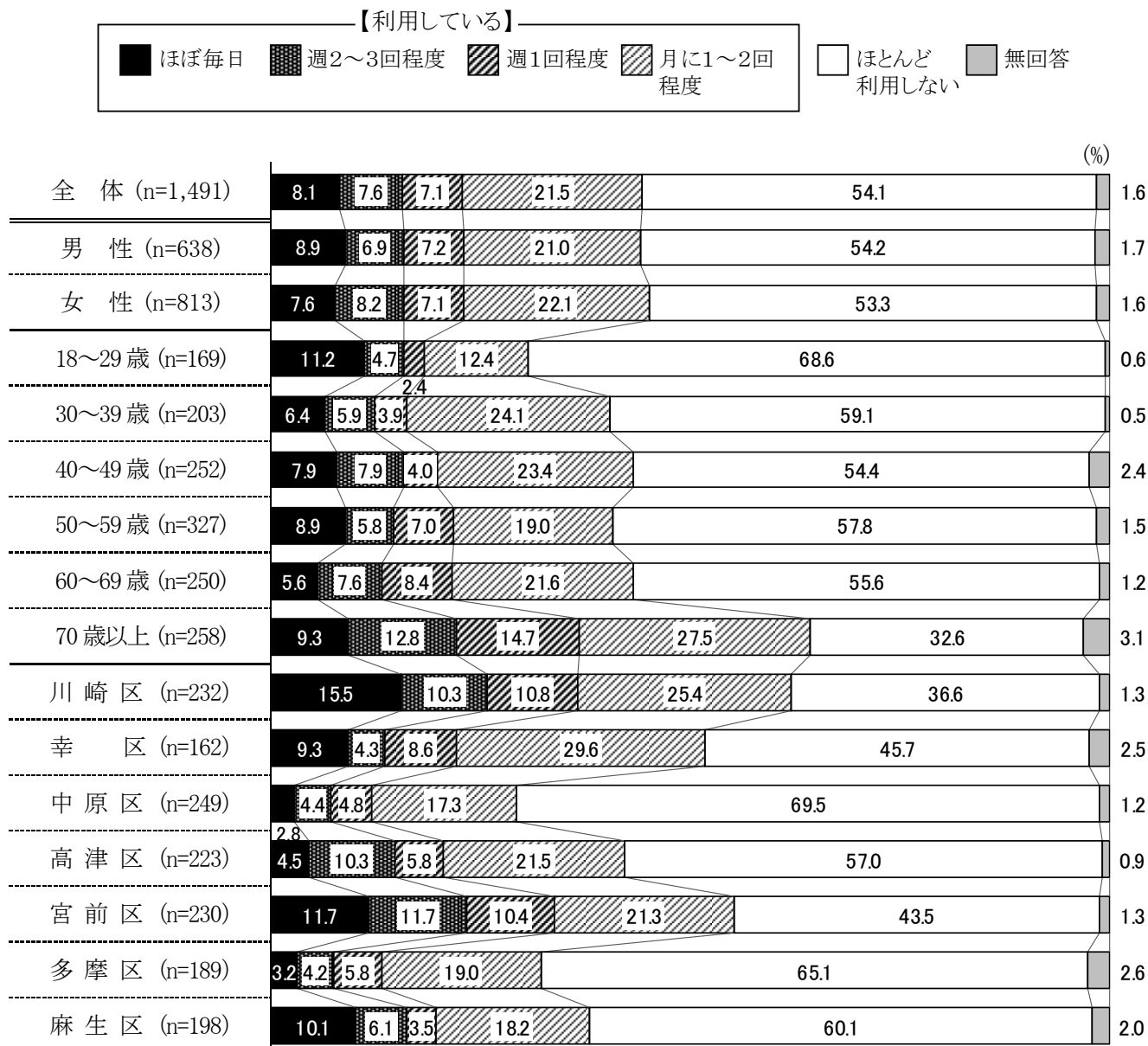
【図表 124】市内の路線バスの利用頻度



年齢別に見ると、【利用している】は70歳以上(64.3%)が6割を超えて最も高く、18~29歳(30.8%)が約3割と最も低い。

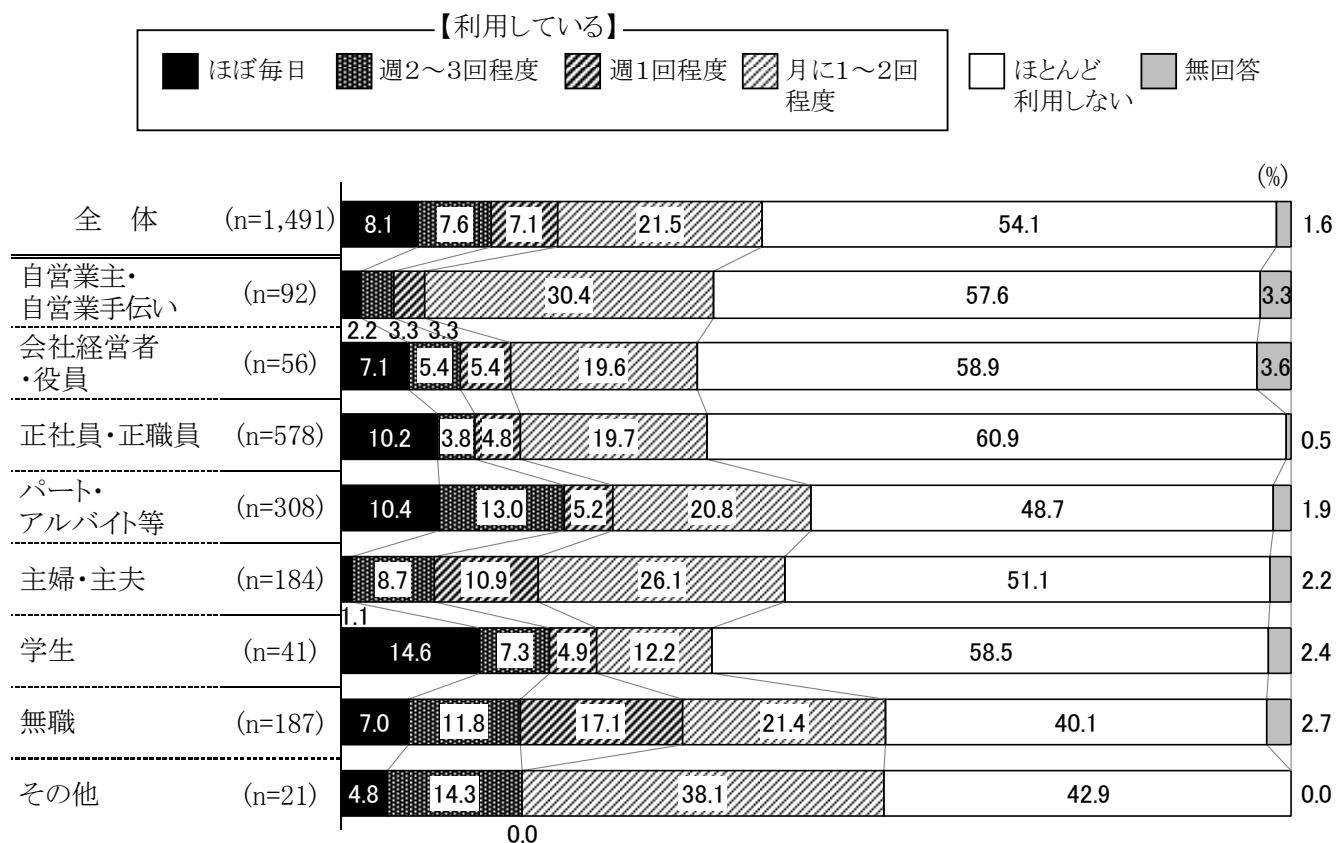
居住区別に見ると、【利用している】は川崎区(62.1%)、宮前区(55.2%)、幸区(51.9%)では5割を超えているが、中原区(29.3%)では3割を下回った。

【図表 125】市内の路線バスの利用頻度（性別、年齢別、居住区別）



職業別に見ると、【利用している】は「無職（収入が年金のみの方を含む）」（57.2%）が5割を超えて最も高く、次いで「パート・アルバイト・嘱託社員・派遣社員（正社員・正職員以外）」（49.4%）、「主婦・主夫（家事専業）」（46.7%）と続いている。

【図表 126】市内の路線バスの利用頻度（職業別）



※「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

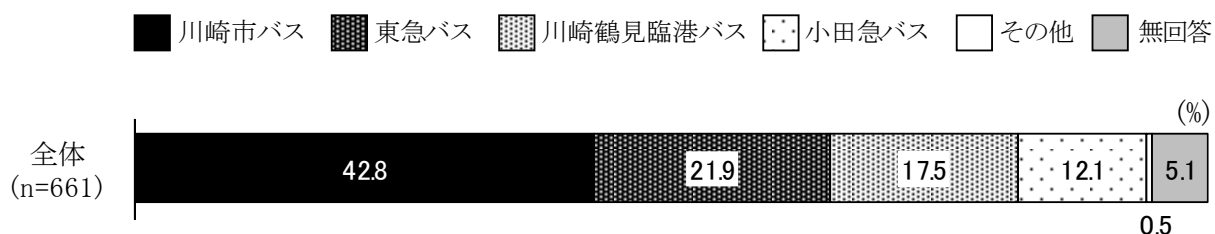
(5) 最もよく利用するバス会社と利用目的

問 16. 問 15 で「1. ほぼ毎日」～「4. 月に1～2回程度」と回答した方にうかがいます。
 あなたが最もよく利用する市内のバス会社とバスを利用する主な目的を教えてください。
 利用頻度の多いケースを想定して、A（バス会社）、B（利用目的）それぞれから最もあてはまるものを1つ選んでください。

① バス会社

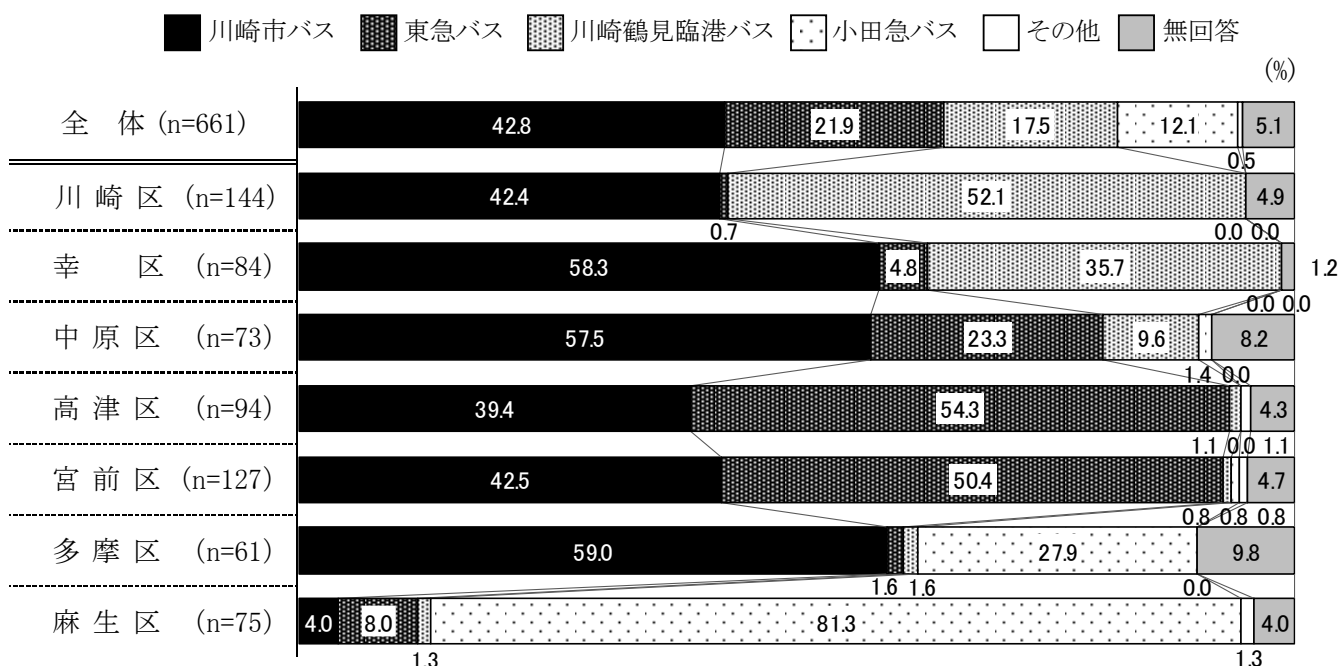
市内の路線バスを【利用している】（「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計）人に、最もよく利用するバス会社についてたずねたところ、「川崎市バス」が42.8%と最も高く、次いで「東急バス」（21.9%）、「川崎鶴見臨港バス」（17.5%）、「小田急バス」（12.1%）と続いている。

【図表 127】 最もよく利用する市内のバス会社



居住区別に見ると、幸区、中原区、多摩区では「川崎市バス」が最も高く、宮前区と高津区では「東急バス」が最も高くなっている。また、川崎区では「川崎鶴見臨港バス」が最も高く、麻生区では「小田急バス」が8割を超えて最も高い。

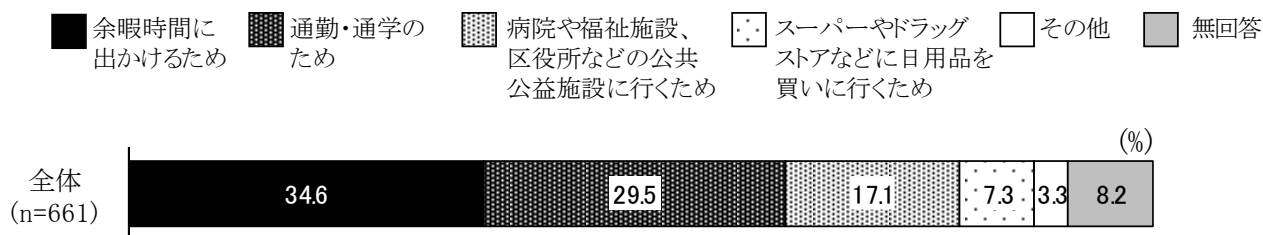
【図表 128】 最もよく利用する市内のバス会社（居住区別）



② 利用目的

市内の路線バスを【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計) 人に、バスを利用する主な理由についてたずねたところ、「余暇時間に出かけるため」が34.6%と最も高く、次いで「通勤・通学のため」(29.5%)、「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」(17.1%)と続いている。

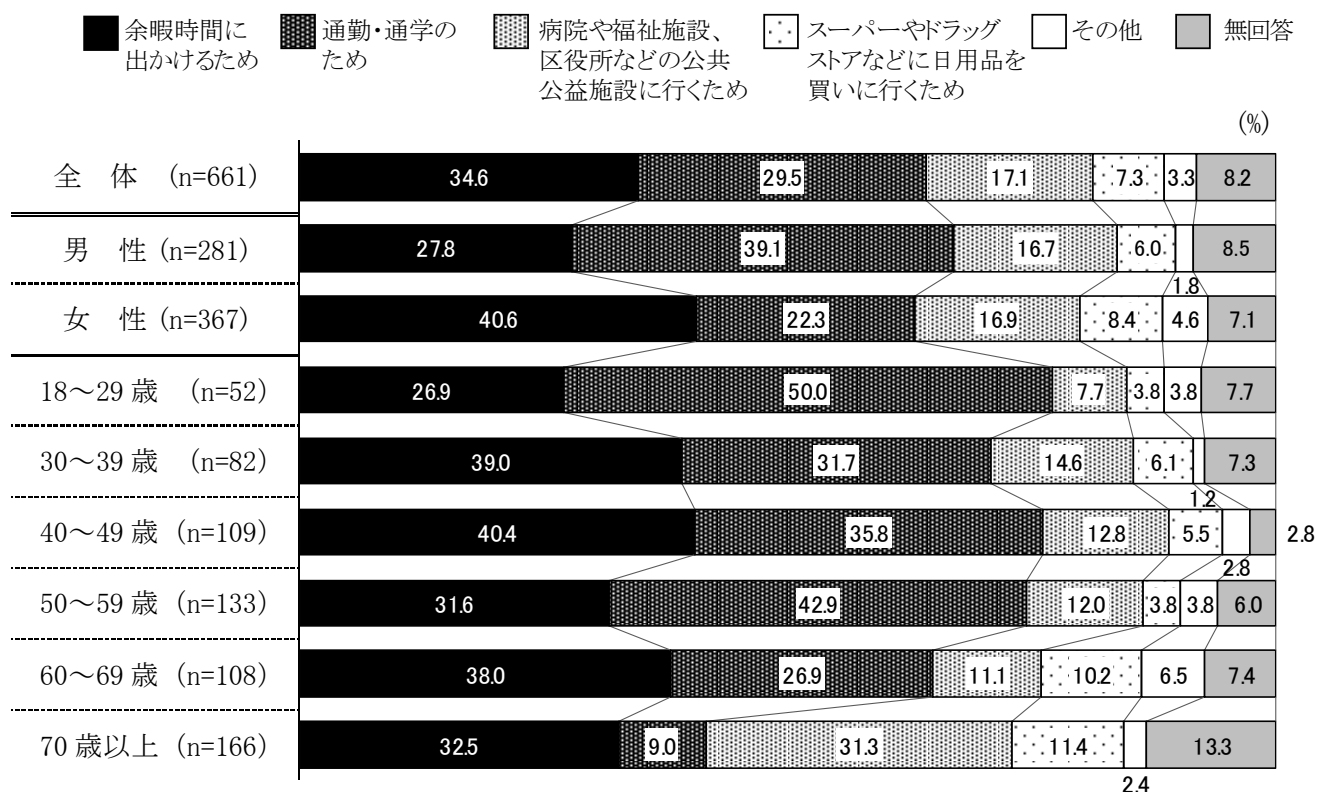
【図表 129】バスを利用する主な目的



性別に見ると、「余暇時間に出かけるため」は男性よりも女性の方が高く、「通勤・通学のため」は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「余暇時間に出かけるため」は30～39歳、40～49歳、60～69歳が3割後半から約4割と比較的高く、「通勤・通学のため」は18～29歳が5割と最も高い。また、「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」は70歳以上が3割を超えて高くなっている。

【図表 130】バスを利用する主な目的(性別、年齢別)



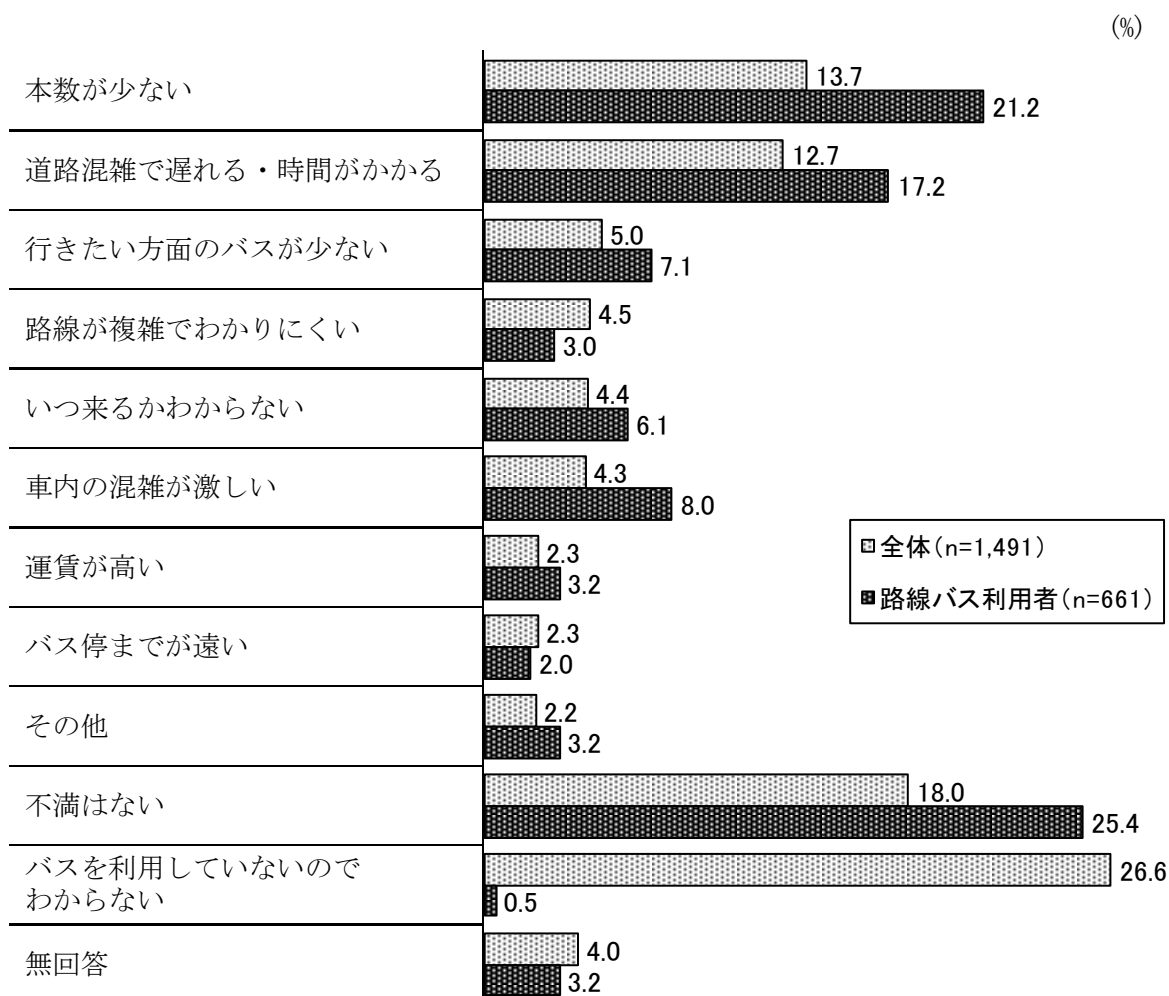
(6) 市内の路線バス利用において不満に感じること

問 17. 市内の路線バス利用において、あなたが最も不満に感じている点は何ですか。

全体で見ると、「本数が少ない」が13.7%と最も高く、次いで「道路混雑で遅れる・時間がかかる」(12.7%)、「行きたい方面のバスが少ない」(5.0%)と続いている。一方で、18.0%が「不満はない」と回答している。

市内の路線バスを【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計)人だけについて見ると、「本数が少ない」が7.5ポイント、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」が4.5ポイント全体よりも高く、「不満はない」も7.4ポイント高くなっている。また、全体では6番目に高い「車内の混雑が激しい」が【利用している】人では3番目に高い項目となっている。

【図表 131】 市内の路線バス利用において最も不満に感じること

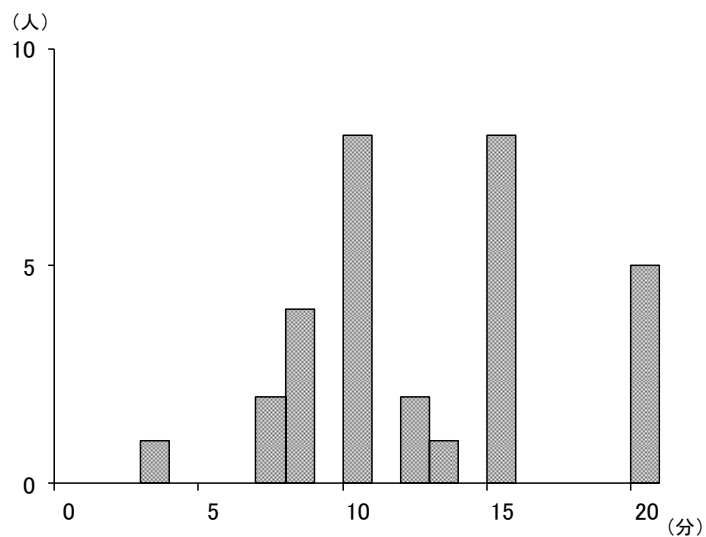


バス停までの所要時間

「バス停までが遠い」と回答した人にバス停までの所要時間をたずねたところ、「10分以内」の回答が44.1%、「15分以内」が76.5%となっている。平均は12.5分であった。

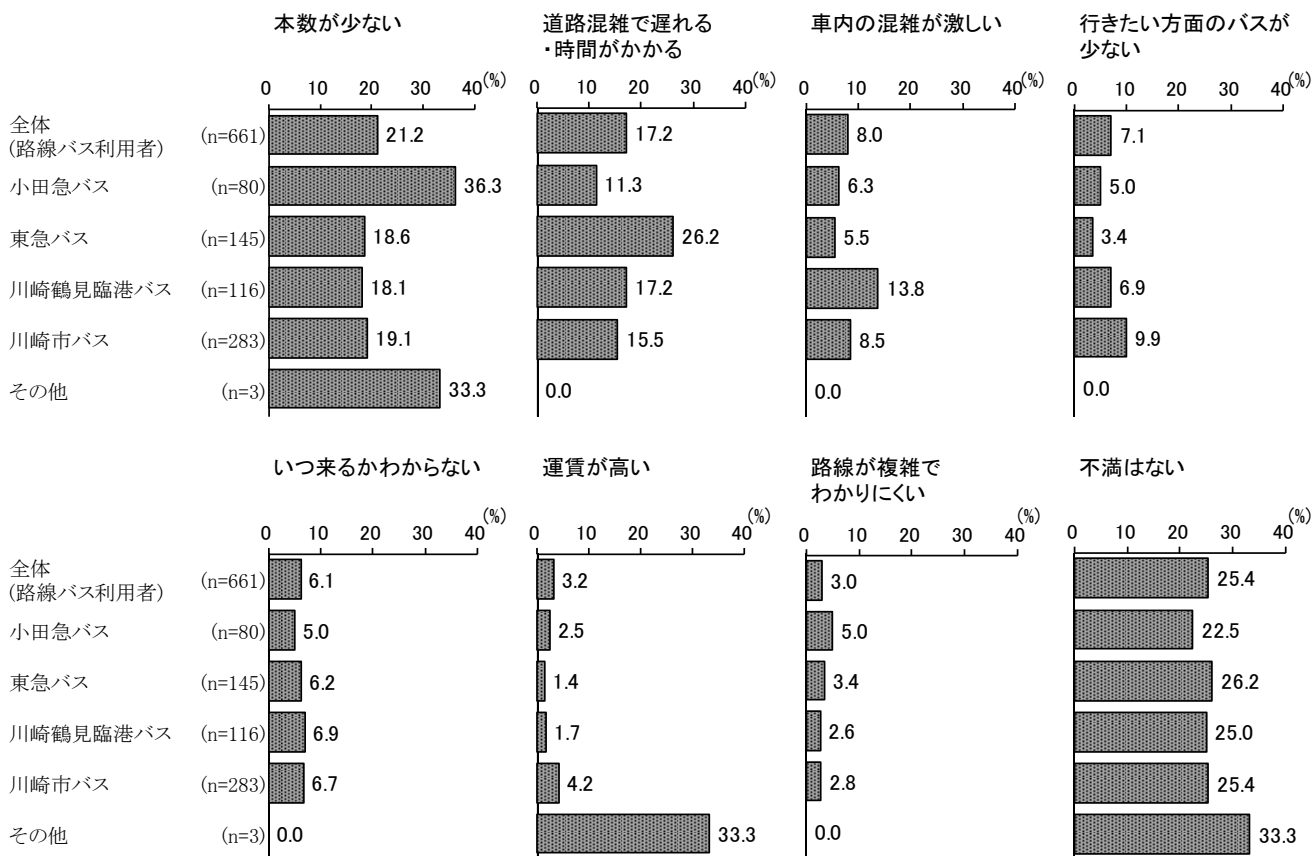
【図表 132】バス停までの所要時間 [「バス停までが遠い」と回答した人]

所要時間(分)	回答数	累積%
1分	0	0.0
2分	0	0.0
3分	1	2.9
4分	0	2.9
5分	0	2.9
6分	0	2.9
7分	2	8.8
8分	4	20.6
9分	0	20.6
10分	8	44.1
11分	0	44.1
12分	2	50.0
13分	1	52.9
14分	0	52.9
15分	8	76.5
16分	0	76.5
17分	0	76.5
18分	0	76.5
19分	0	76.5
20分	5	91.2
無回答	3	100.0
合計	34	



問16の最もよく利用するバス会社別に見ると、「本数が少ない」は「小田急バス」(36.3%)利用者が最も高く、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」は「東急バス」(26.2%)利用者が最も高い。また、「車内の混雑が激しい」は「川崎鶴見臨港バス」(13.8%)利用者が最も高くなっている。

【図表 133】市内の鉄道利用において最も不満に感じる事《上位8項目》
(市内の路線バス利用者／最もよく利用するバス会社別)



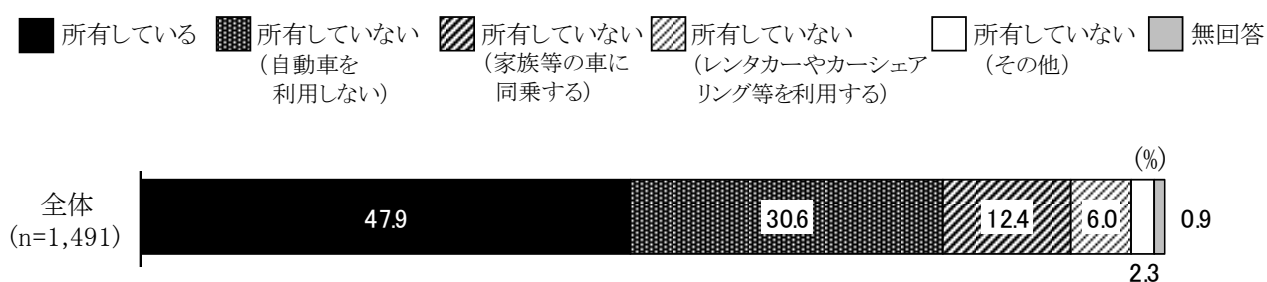
※「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

(7) 自動車の所有状況

問 18. あなたは、自動車を所有していますか。

「所有している」が47.9%と最も高く、次いで「所有していない(自動車を利用しない)」(30.6%)、「所有していない(家族等の車に同乗する)」(12.4%)、「所有していない(レンタカーやカーシェアリング等を利用する)」(6.0%)と続いている。

【図表 134】 自動車の所有状況

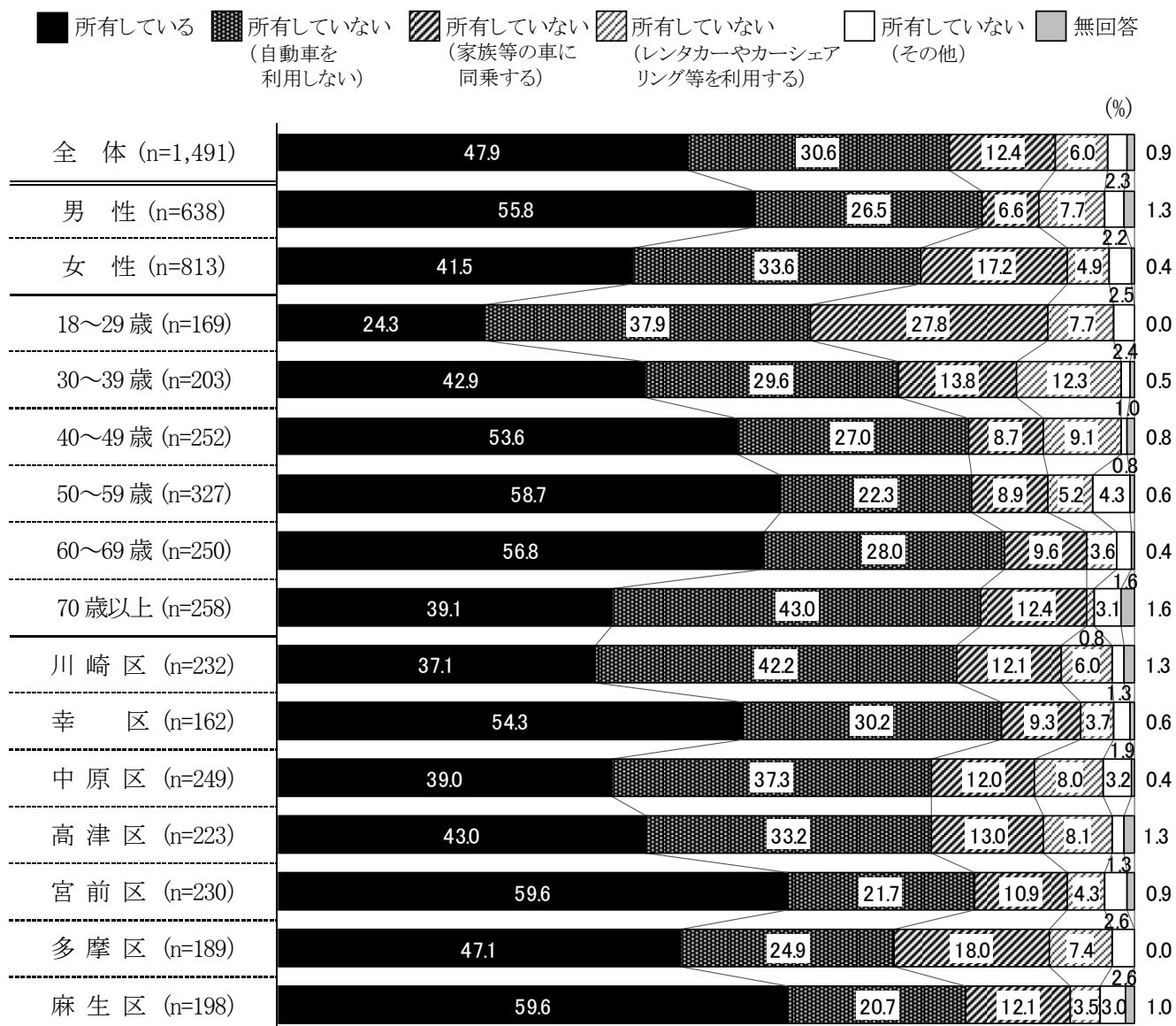


性別に見ると、「所有している」は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「所有している」は40歳代～60歳代が5割を超えて高く、18～29歳(24.3%)が最も低い。

居住区別に見ると、「所有している」は宮前区、麻生区(ともに59.6%)が約6割と高く、次いで幸区(54.3%)、多摩区(47.1%)と続き、川崎区(37.1%)が最も低い。

【図表 135】自動車の所有状況(性別、年齢別、居住区別)

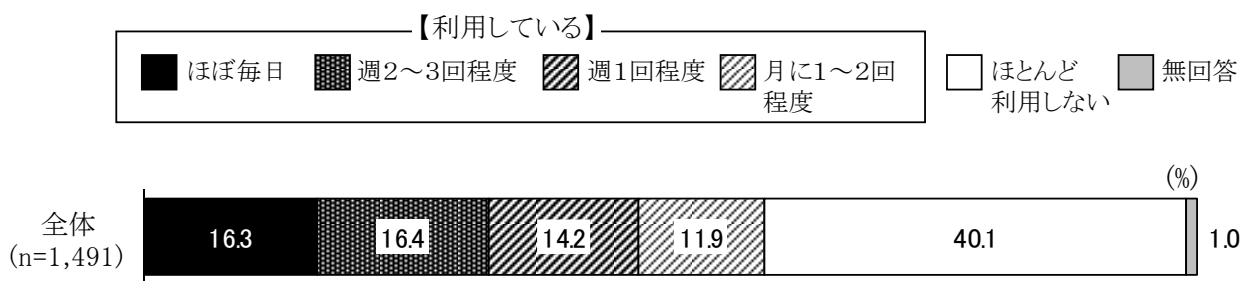


(8) 自動車の利用頻度

問 19. あなたは普段、どの程度自動車を利用していますか。

「ほとんど利用しない」が 40.1%と 4 割を占めている。【利用している】(「ほぼ毎日」、「週 2～3 回程度」、「週 1 回程度」、「月に 1～2 回程度」の合計) は 58.9%であり、その内訳は「週 2～3 回程度」(16.4%)、「ほぼ毎日」(16.3%)、「週 1 回程度」(14.2%)、「月に 1～2 回程度」(11.9%) となっている。

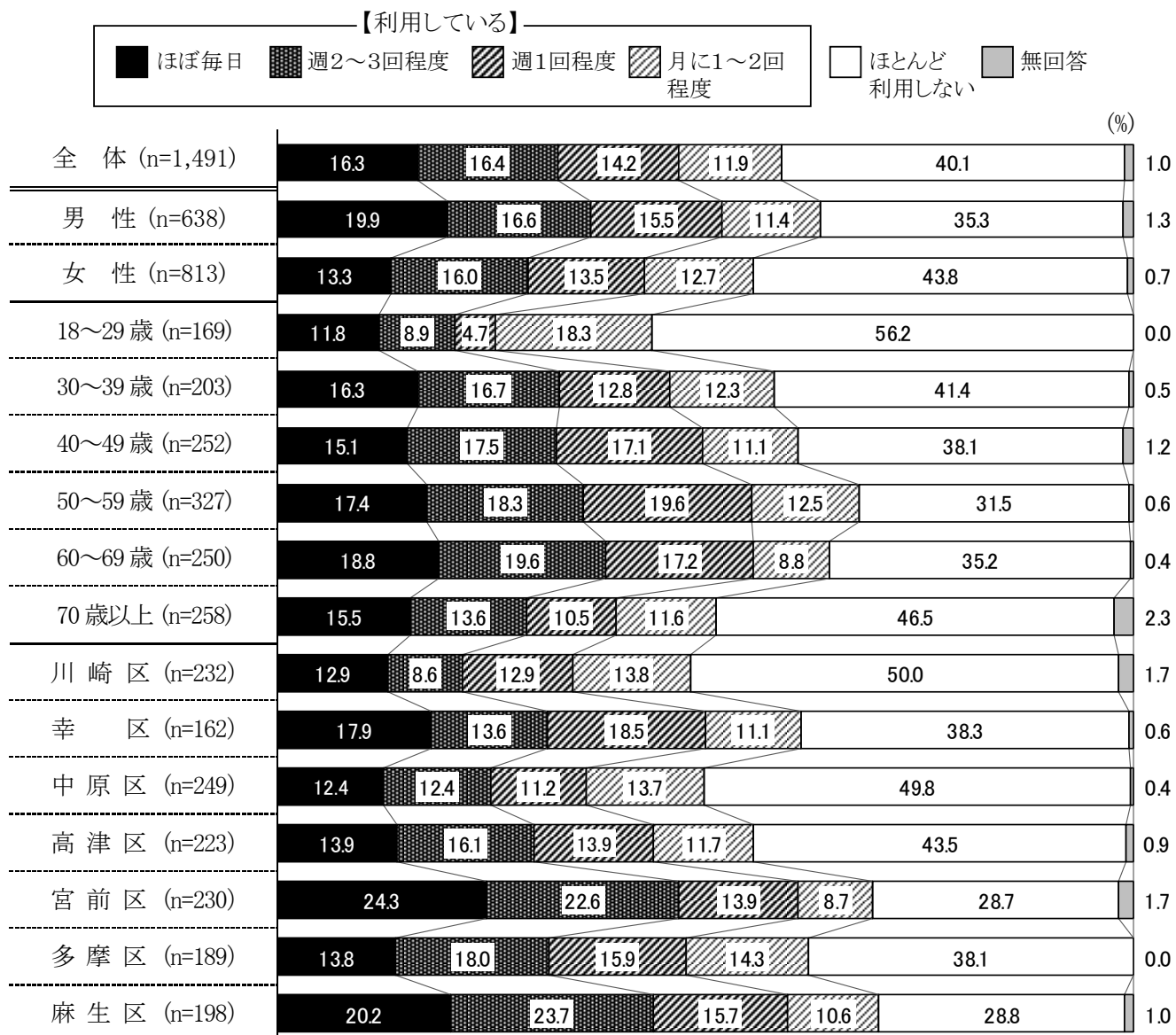
【図表 136】 自動車の利用頻度



性別に見ると、【利用している】は女性 (55.5%) よりも男性 (63.5%) の方が高くなっている。
 年齢別に見ると、【利用している】は50～59歳 (67.9%) が最も高く、60～69歳 (64.4%)、40～49歳 (60.7%) でも6割を超えているが、18～29歳 (43.8%) では4割台と最も低い。

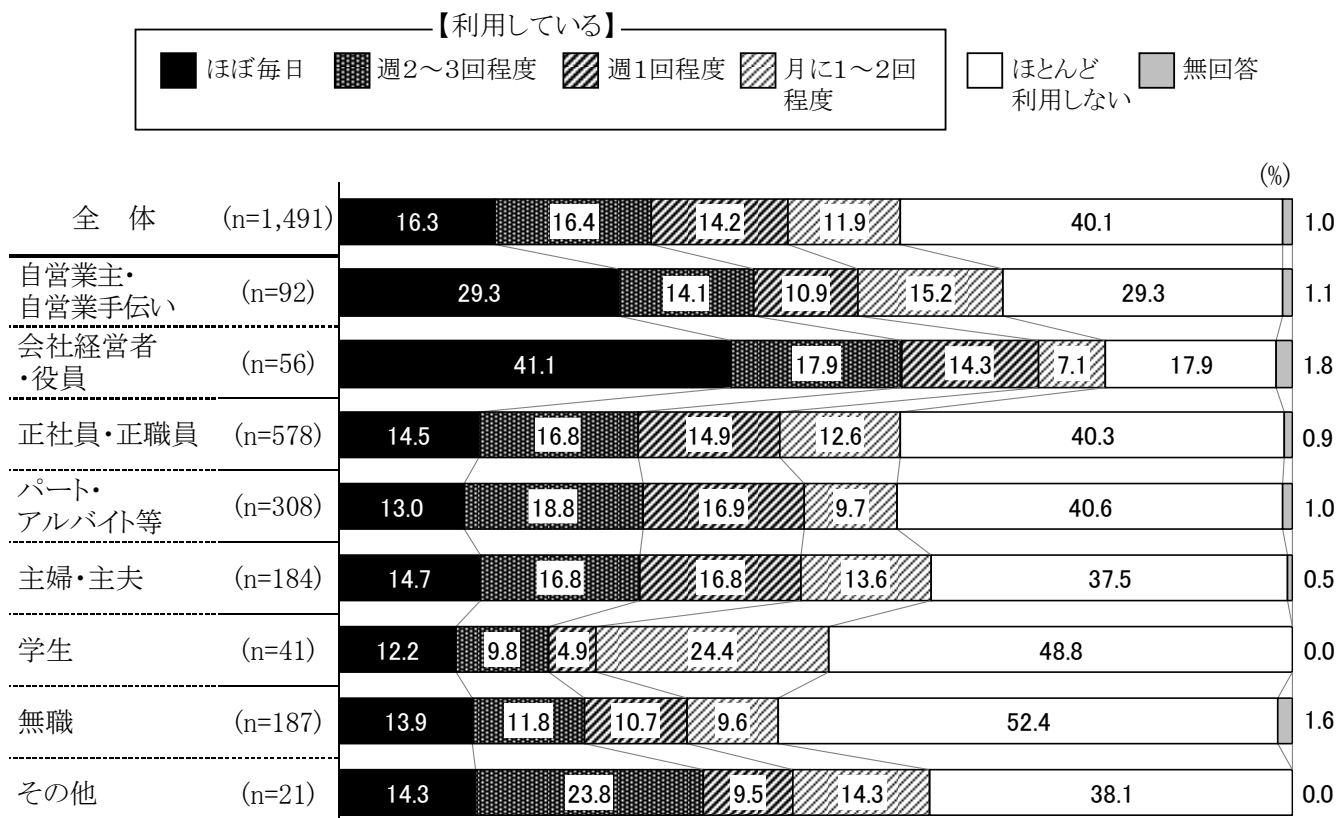
居住区別に見ると、【利用している】は麻生区 (70.2%) と宮前区 (69.6%) が約7割と高く、多摩区 (61.9%) と幸区 (61.1%) も6割を超えているが、中原区 (49.8%) と川崎区 (48.3%) では5割を下回った。

【図表 137】 自動車の利用頻度 (性別、年齢別、居住区別)



職業別に見ると、【利用している】は「会社経営者・役員」(80.4%)が約8割と最も高く、次いで「自営業主・自営業手伝い」(69.6%)、「主婦・主夫(家事専業)」(62.0%)と続いている。

【図表 138】自動車の利用頻度(職業別)



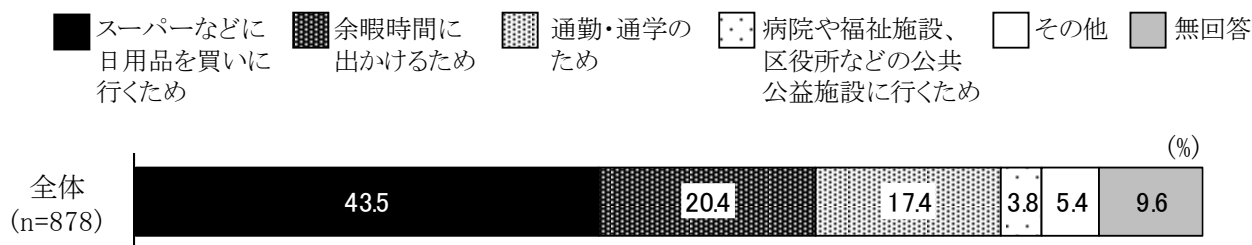
※「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

(9) 自動車の利用目的

問 20. 問 19 で「1. ほぼ毎日」～「4. 月に1～2回程度」と回答した方にうかがいます。
あなたが自動車を利用する主な目的を教えてください。

自動車を【利用している】（「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計）人に、自動車を利用する主な理由についてたずねたところ、「スーパーなどに日用品を買いに行くため」が43.5%と最も高く、次いで「余暇時間に出かけるため」（20.4%）、「通勤・通学のため」（17.4%）、「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」（3.8%）と続いている。

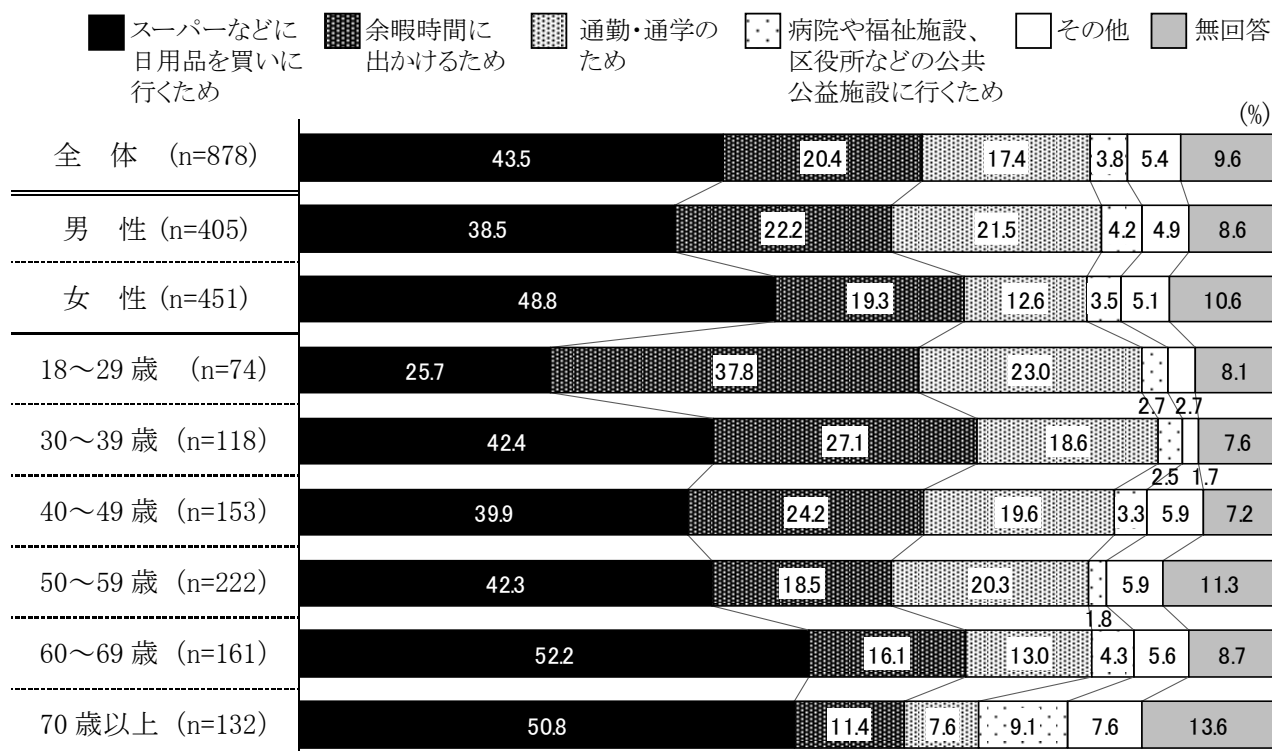
【図表 139】自動車を利用する主な目的



性別に見ると、「スーパーなどに日用品を買いに行くため」は男性よりも女性の方が高く、「通勤・通学のため」は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「スーパーなどに日用品を買いに行くため」は18～29歳(25.7%)では2割台と低いですが、30歳代～50歳代では概ね4割以上、60歳代以上では5割を超えている。「余暇時間に出かけるため」は18～29歳が37.8%と最も高く、年齢が上がるほど低くなっている。

【図表 140】自動車を利用する主な目的（性別、年齢別）



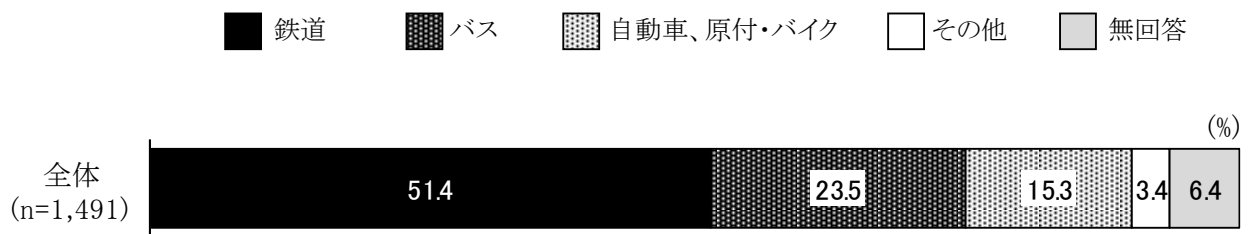
(10) 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所

問 21. あなたが普段利用する交通手段（A）を想定し、自宅から目的地への交通利便性を考えた時、今よりもアクセスが向上する（行きやすくなる）と良いと思う場所（B）はどこですか。A（交通手段）、B（場所）それぞれから最もあてはまるものを1つ選んでください。

① 普段利用する交通手段

「鉄道」が51.4%と最も高く、次いで「バス」(23.5%)、「自動車、原付・バイク」(15.3%)と続いている。

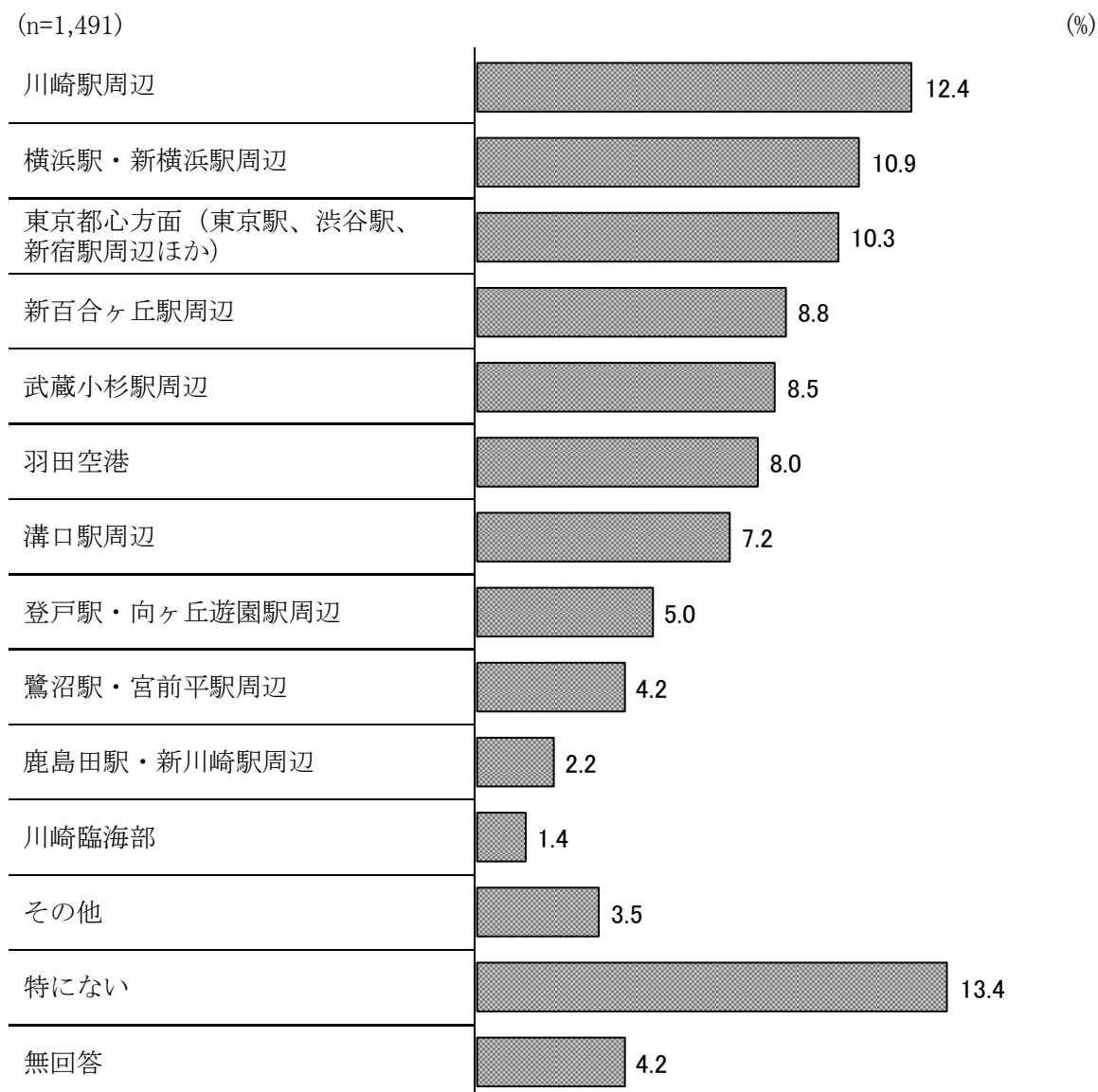
【図表 141】 普段利用する交通手段



② 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所

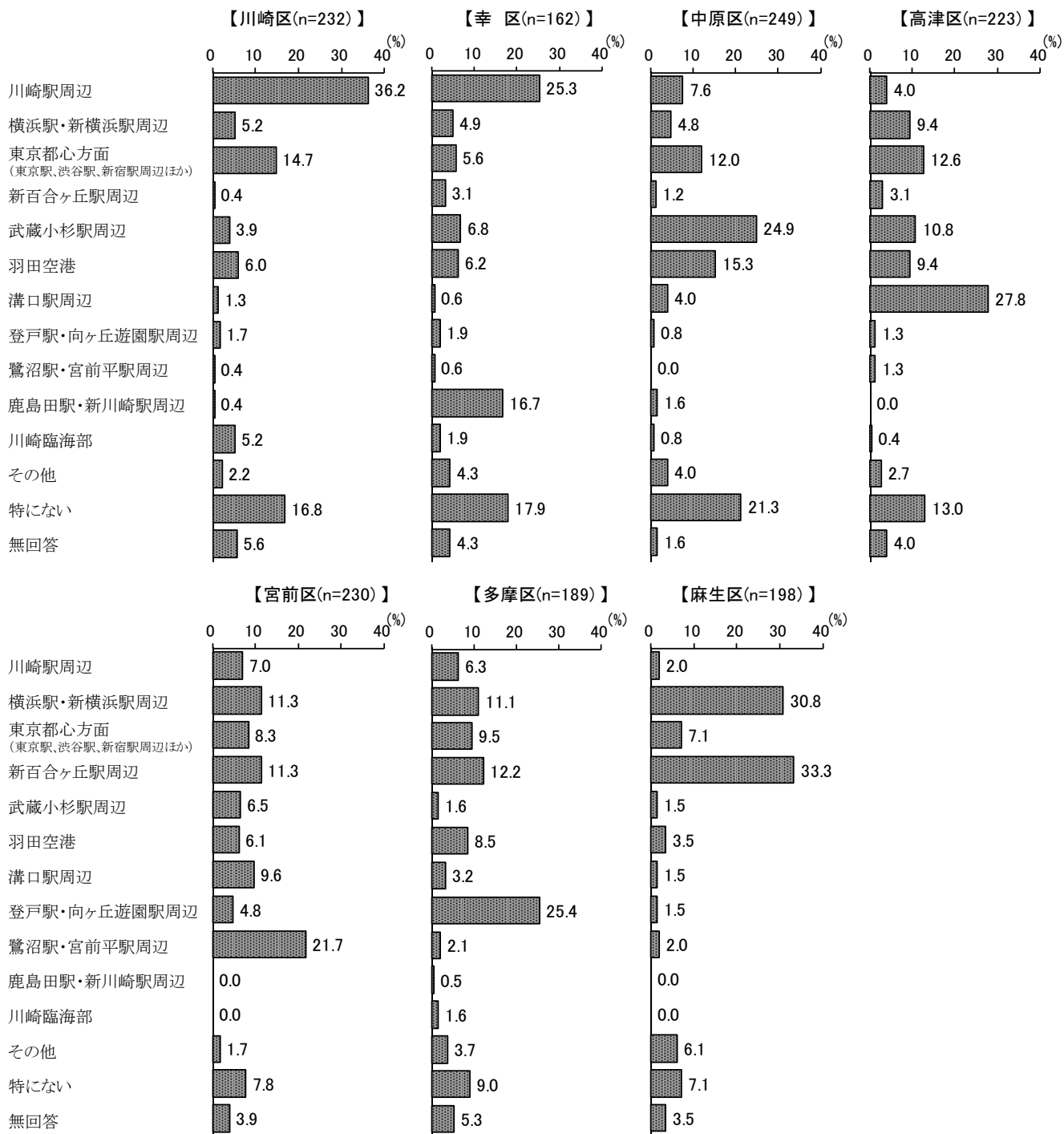
「川崎駅周辺」が12.4%と最も高く、次いで「横浜駅・新横浜駅周辺」(10.9%)、「東京都心方面(東京駅、渋谷駅、新宿駅周辺ほか)」(10.3%)、「新百合ヶ丘駅周辺」(8.8%)と続いている。

【図表 142】 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所



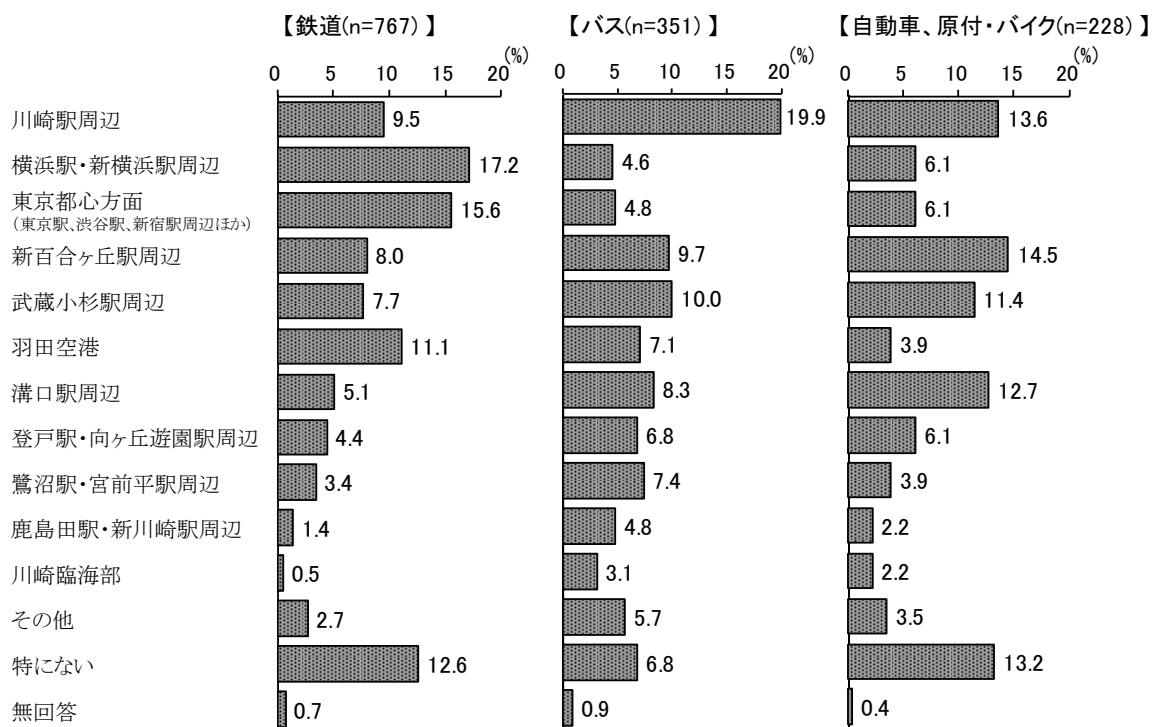
居住区別に見ると、川崎区と幸区では「川崎駅周辺」が最も高く、中原区では「武蔵小杉駅周辺」、高津区では「溝口駅周辺」、宮前区では「鷺沼駅・宮前平駅周辺」、多摩区では「登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺」が最も高くなっている。麻生区では「新百合ヶ丘駅周辺」と「横浜駅・新横浜駅周辺」がともに3割を超えて高くなっている。

【図表 143】今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所（居住区別）



①の普段利用する交通手段別に見ると、普段「鉄道」を利用する人は「横浜駅・新横浜駅周辺」(17.2%)が最も高く、次いで「東京都心方面(東京駅、渋谷駅、新宿駅周辺ほか)」(15.6%)となっている。普段「バス」を利用する人は「川崎駅周辺」(19.9%)が最も高く、「自動車、原付・バイク」を利用する人は「新百合ヶ丘駅周辺」(14.5%)、「川崎駅周辺」(13.6%)、「溝口駅周辺」(12.7%)が高くなっている。

【図表 144】今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所(普段利用する交通手段別)

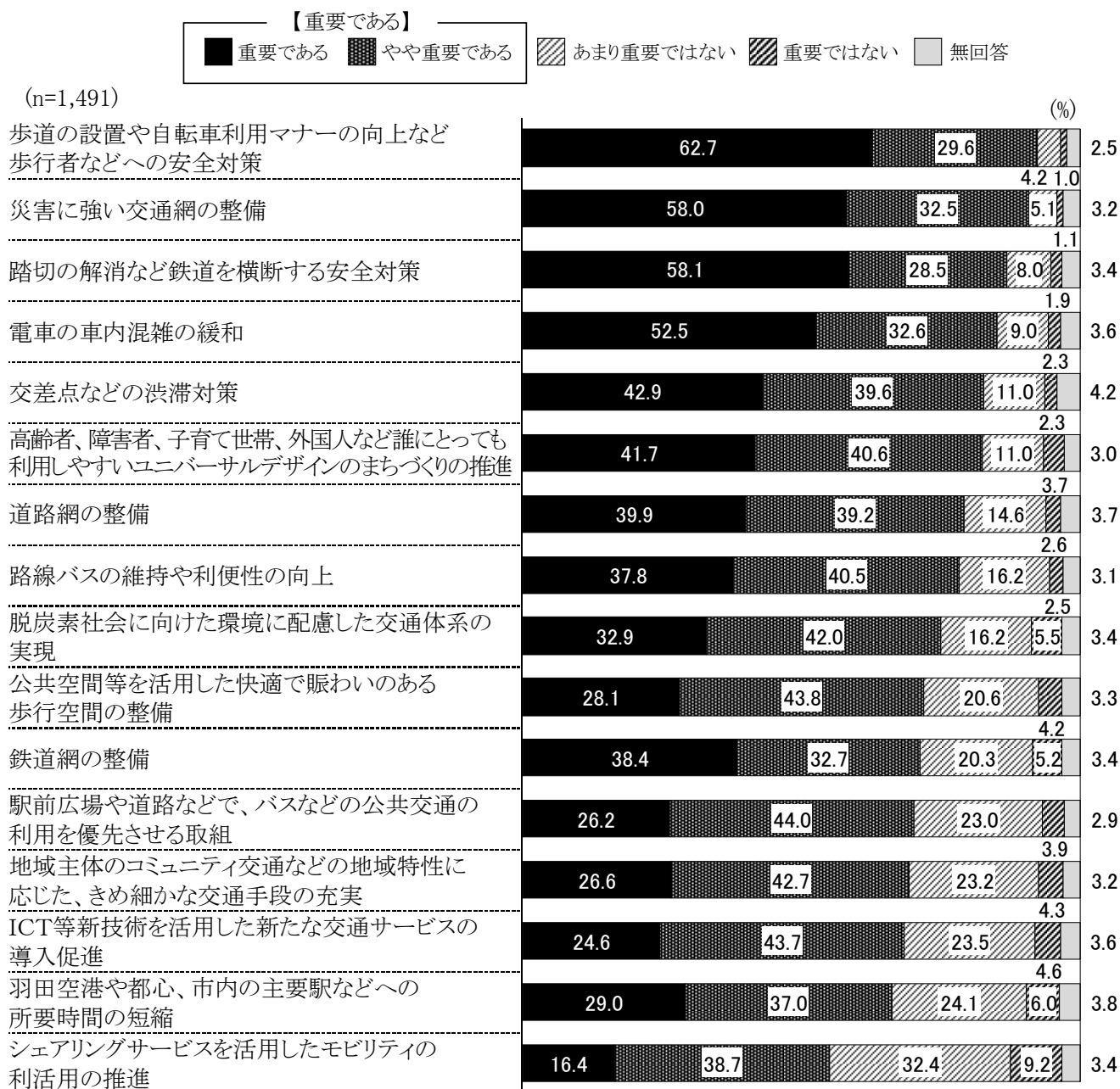


(11) 市の交通政策について

問 22. あなたは、今後の交通政策において、次の取組についてそれぞれどの程度重要だと考えますか。

「重要である」と「やや重要である」を合計した【重要である】の割合は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策」が92.3%と最も高く、次いで「災害に強い交通網の整備」(90.5%)、「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策」(86.7%)、「電車の車内混雑の緩和」(85.1%)と続いている。

【図表 145】市の交通政策について

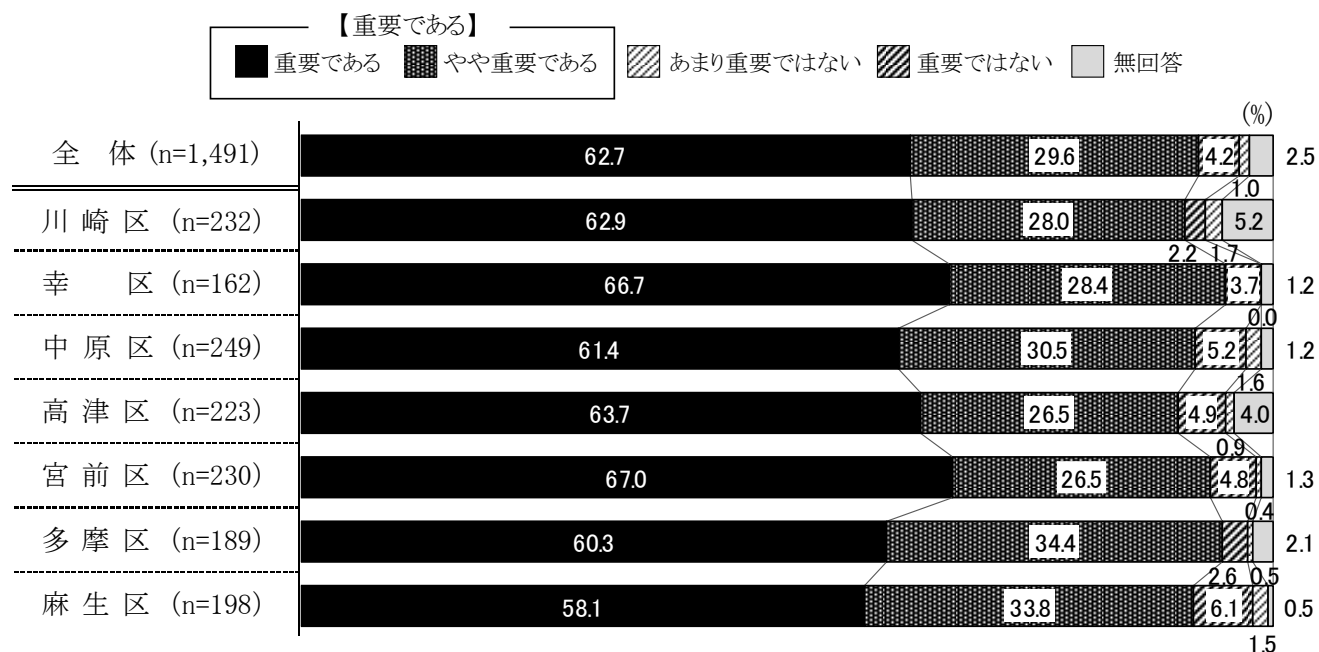


① 歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策

全体では、「重要である」(62.7%)と「やや重要である」(29.6%)を合計した【重要である】の割合は92.3%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は全ての居住区において9割を超えている。

【図表 146】市の交通政策について①（居住区別）

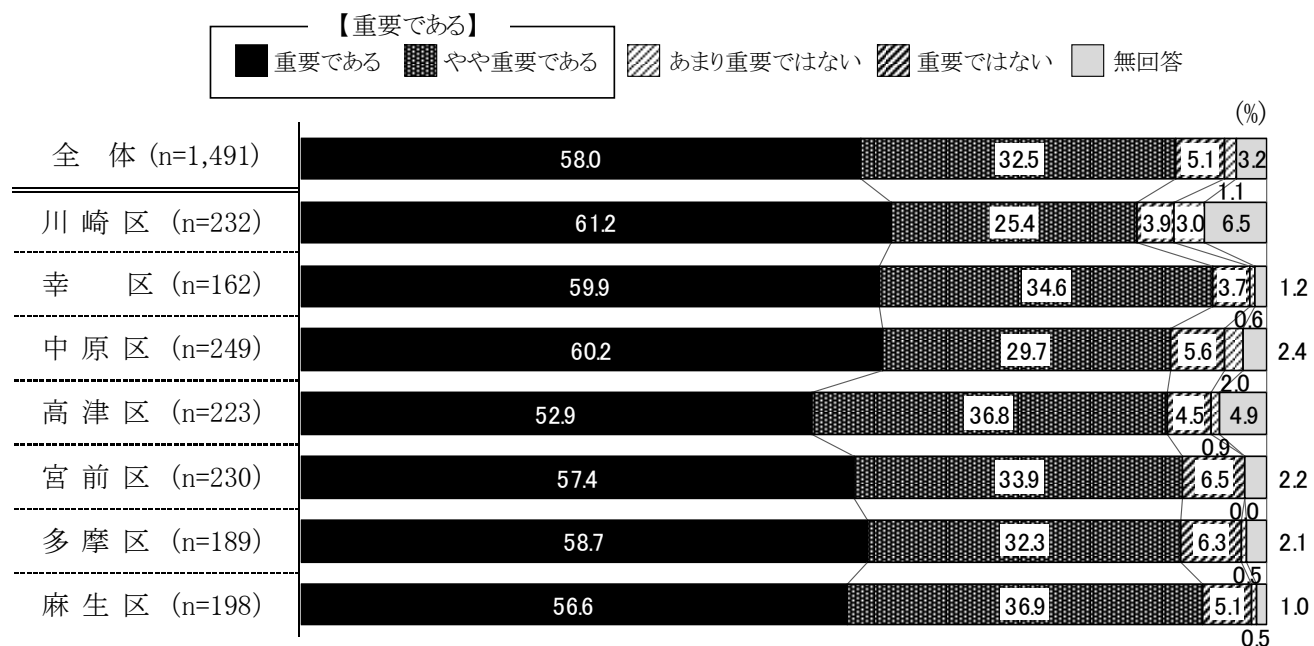


② 災害に強い交通網の整備

全体では、「重要である」(58.0%)と「やや重要である」(32.5%)を合計した【重要である】の割合は90.5%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は川崎区(86.6%)と高津区(89.7%)を除いた居住区で9割を超えている。

【図表 147】市の交通政策について②（居住区別）

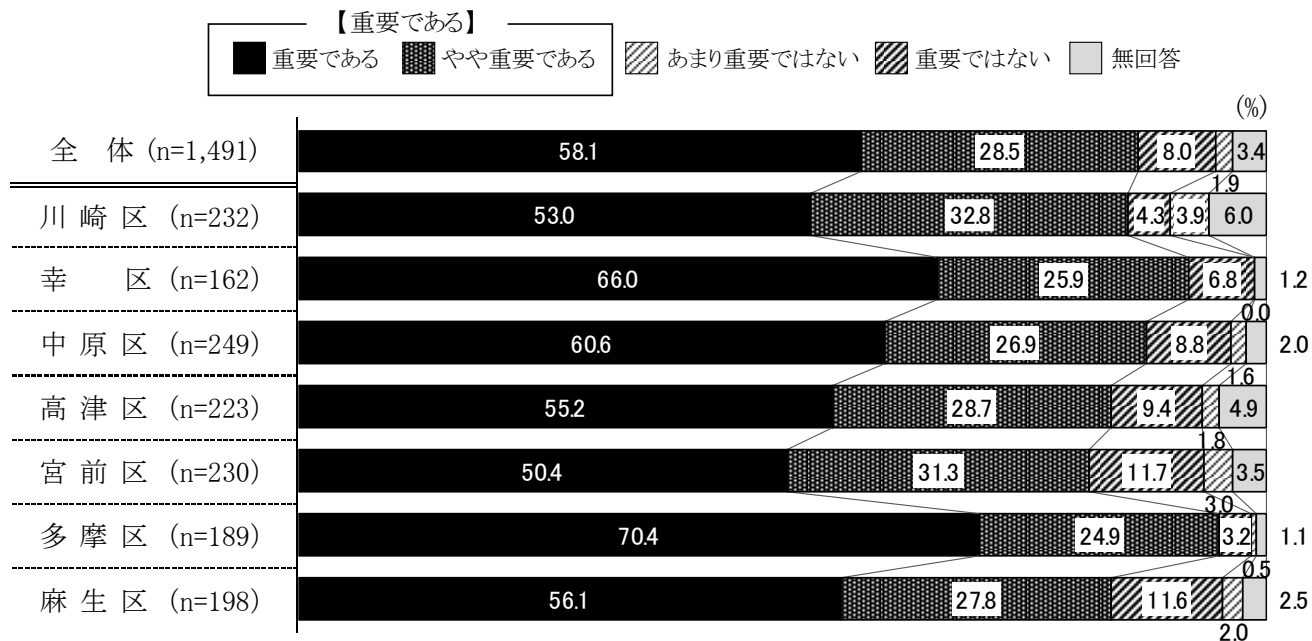


③ 踏切の解消など鉄道を横断する安全対策

全体では、「重要である」(58.1%)と「やや重要である」(28.5%)を合計した【重要である】の割合は86.7%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は多摩区(95.2%)と幸区(92.0%)が9割を超えて高く、宮前区(81.7%)が最も低い。

【図表 148】市の交通政策について③(居住区別)

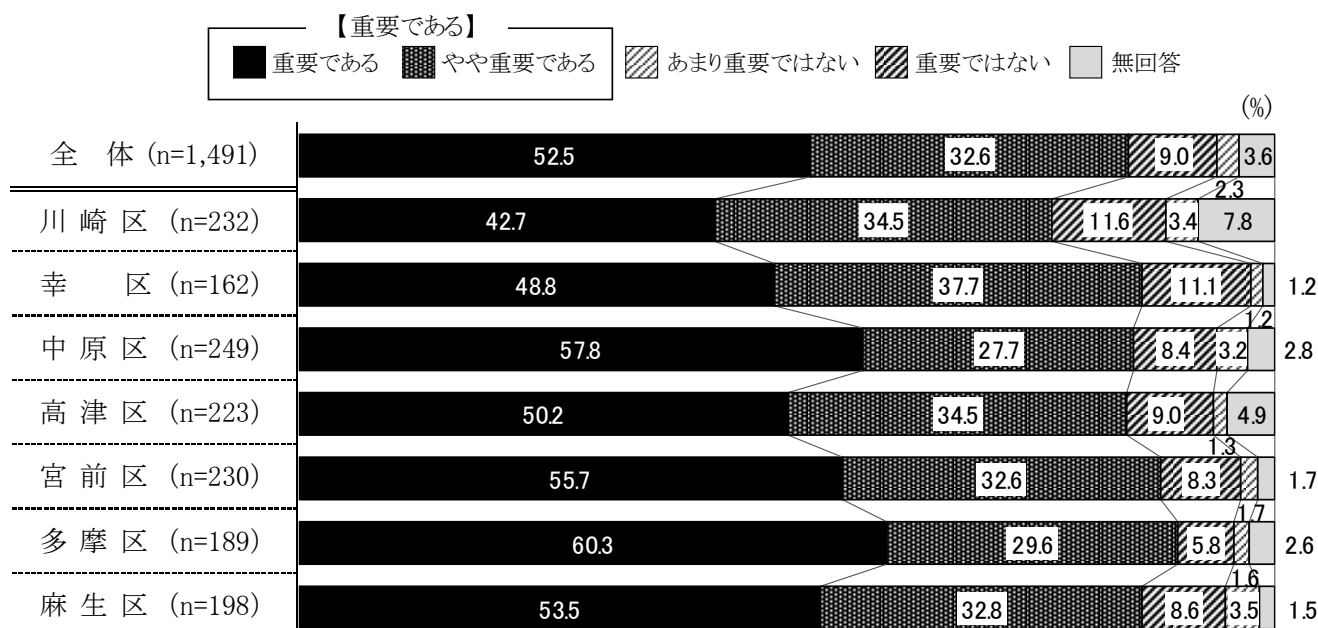


④ 電車の車内混雑の緩和

全体では、「重要である」(52.5%)と「やや重要である」(32.6%)を合計した【重要である】の割合は85.1%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は多摩区(89.9%)が最も高く、川崎区(77.2%)が最も低い。

【図表 149】市の交通政策について④(居住区別)

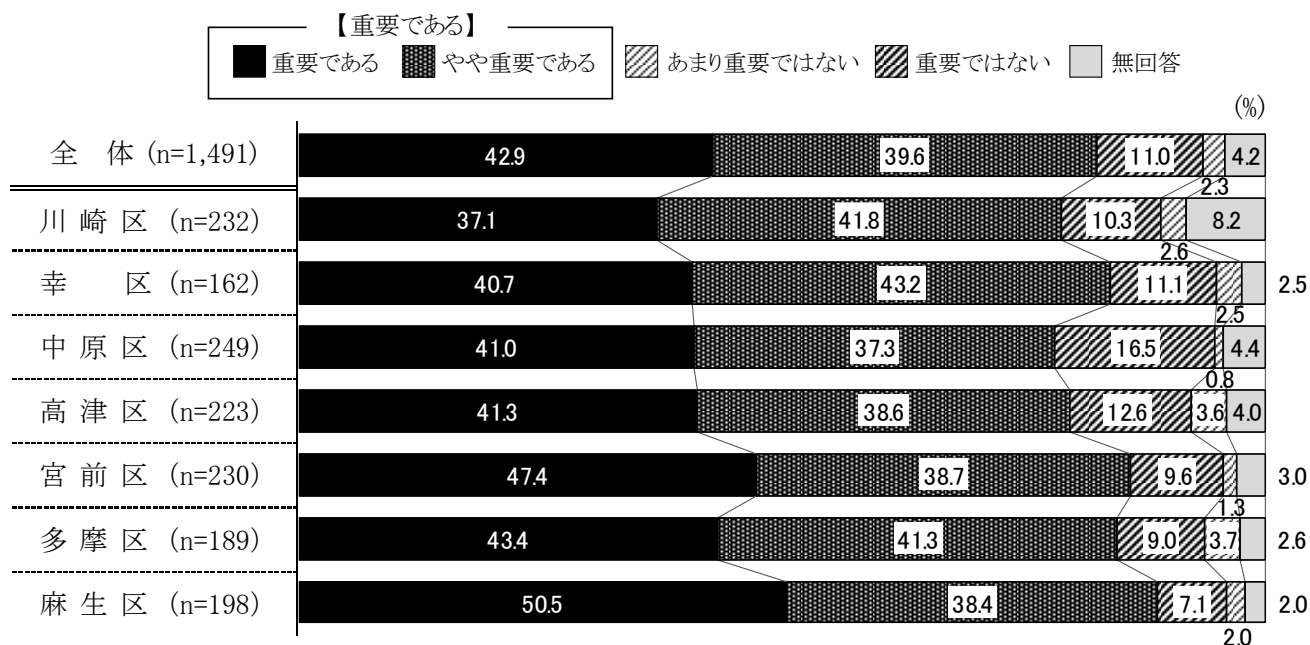


⑤ 交差点などの渋滞対策

全体では、「重要である」(42.9%)と「やや重要である」(39.6%)を合計した【重要である】の割合は82.5%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は麻生区(88.9%)が最も高く、中原区(78.3%)が最も低い。

【図表 150】市の交通政策について⑤(居住区別)

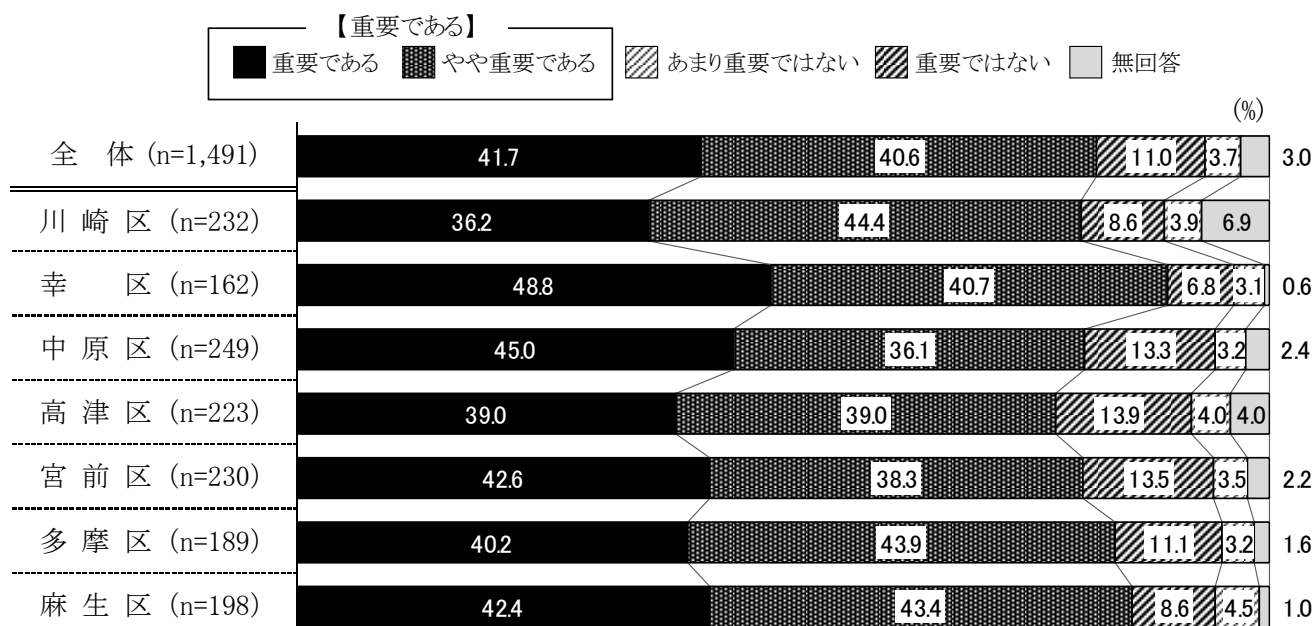


⑥ 高齢者、障害者、子育て世帯、外国人など誰にとっても利用しやすいユニバーサルデザインのまちづくりの推進

全体では、「重要である」(41.7%)と「やや重要である」(40.6%)を合計した【重要である】の割合は82.3%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区(89.5%)が最も高く、高津区(78.0%)が最も低い。

【図表 151】市の交通政策について⑥(居住区別)

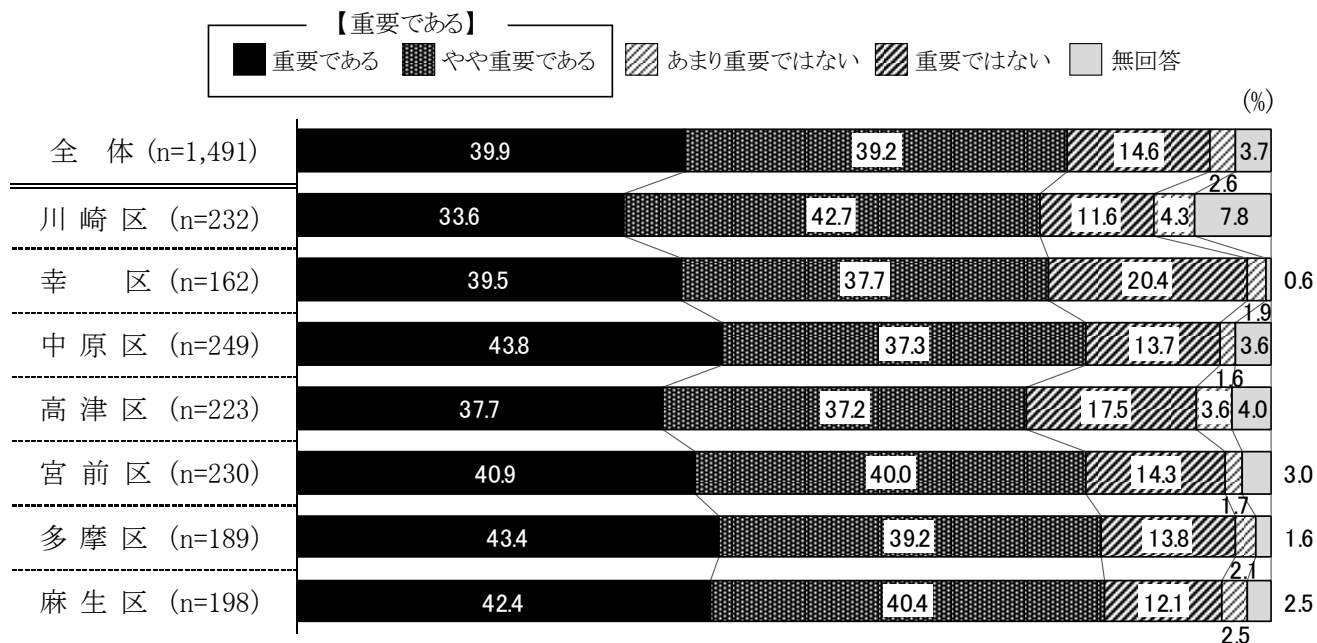


⑦ 道路網の整備

全体では、「重要である」(39.9%)と「やや重要である」(39.2%)を合計した【重要である】の割合は79.1%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は麻生区(82.8%)が最も高く、高津区(74.9%)が最も低い。

【図表 152】市の交通政策について⑦(居住区別)

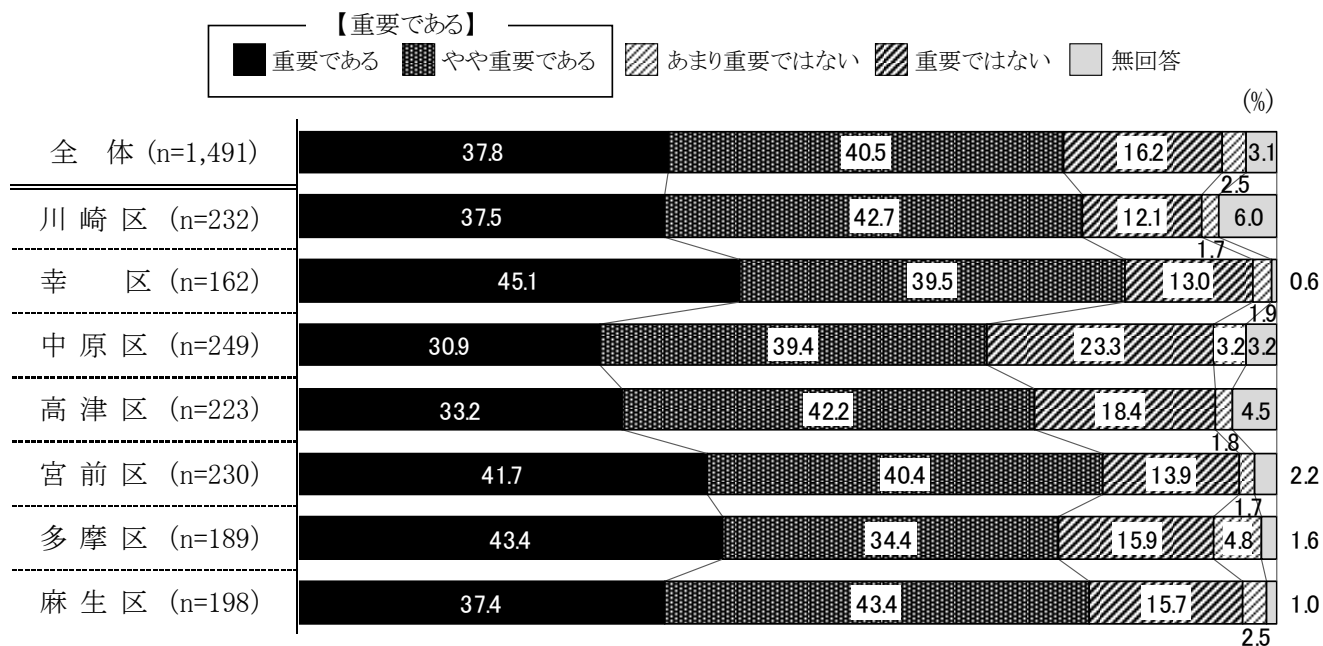


⑧ 路線バスの維持や利便性の向上

全体では、「重要である」(37.8%)と「やや重要である」(40.5%)を合計した【重要である】の割合は78.3%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区(84.6%)が最も高く、中原区(70.3%)が最も低い。

【図表 153】市の交通政策について⑧(居住区別)

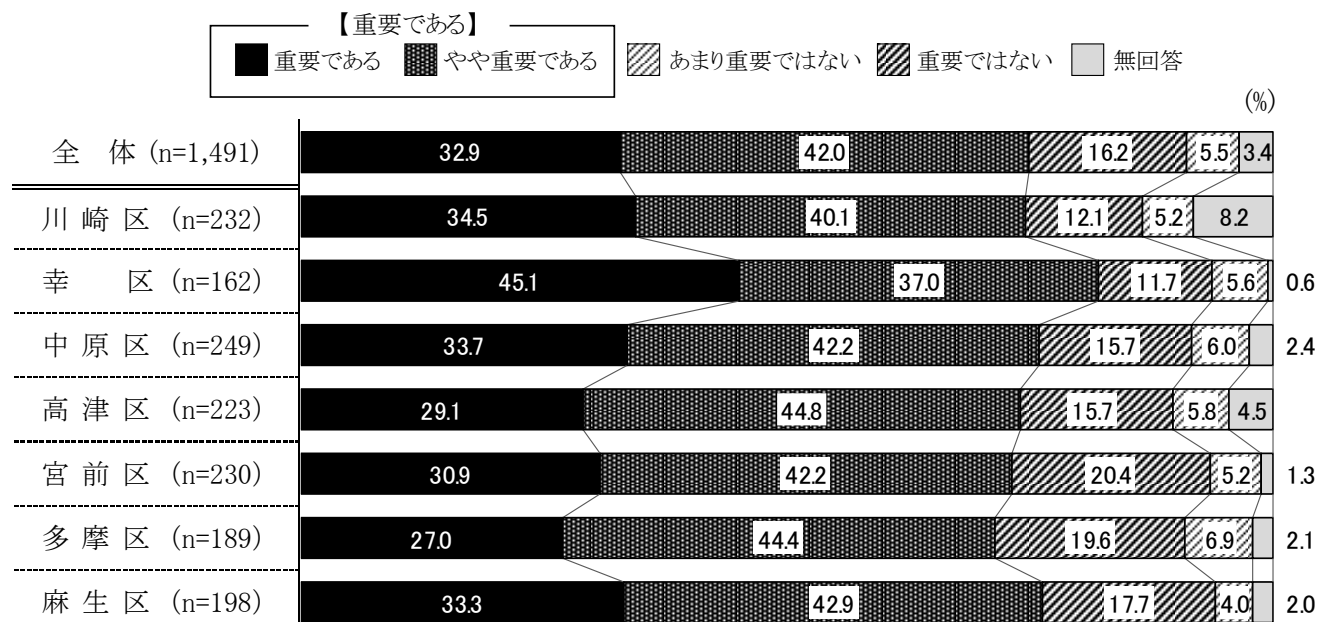


⑨ 脱炭素社会に向けた環境に配慮した交通体系の実現

全体では、「重要である」(32.9%)と「やや重要である」(42.0%)を合計した【重要である】の割合は74.9%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区(82.1%)が最も高く、多摩区(71.4%)が最も低い。

【図表 154】市の交通政策について⑨(居住区別)

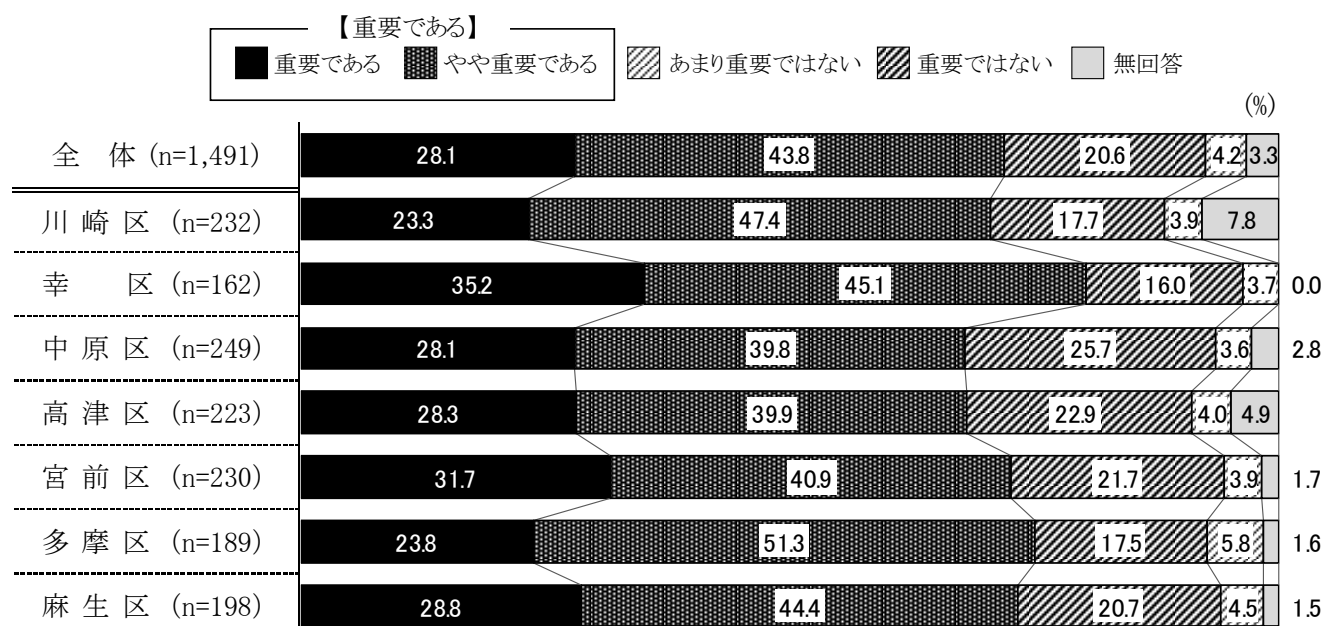


⑩ 公共空間等を活用した快適で賑わいのある歩行空間の整備

全体では、「重要である」(28.1%)と「やや重要である」(43.8%)を合計した【重要である】の割合は71.9%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区(80.2%)が約8割と最も高く、中原区(67.9%)と高津区(68.2%)では7割を下回った。

【図表 155】市の交通政策について⑩(居住区別)

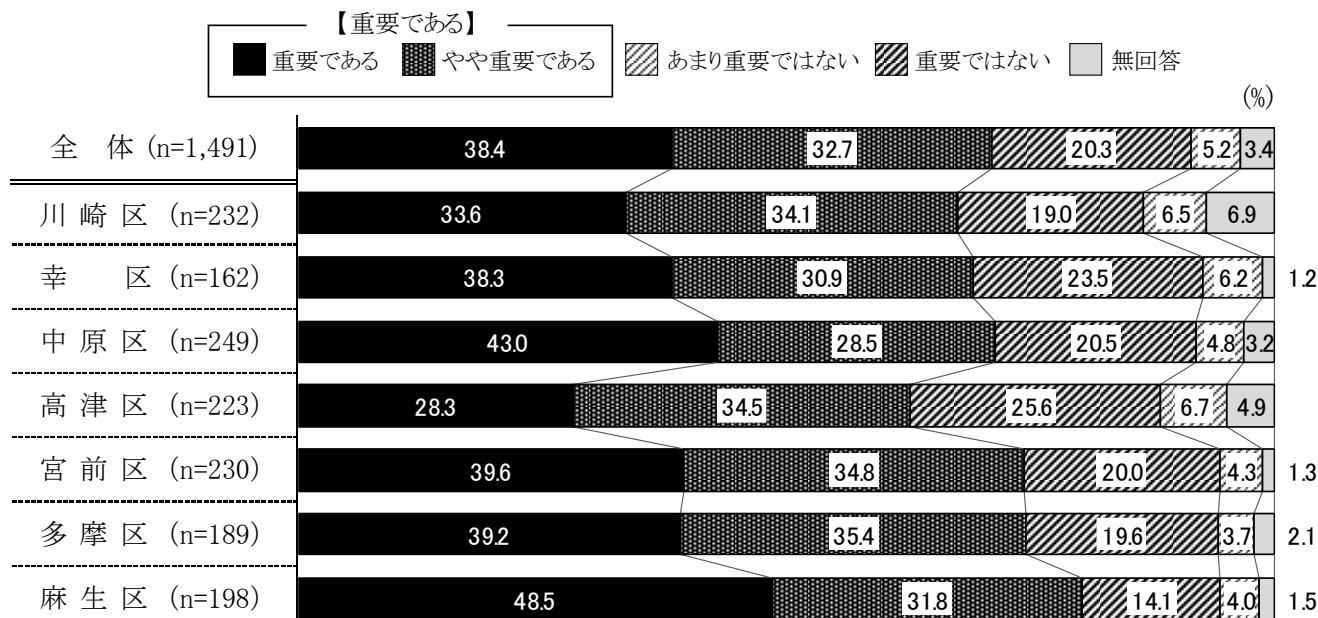


⑪ 鉄道網の整備

全体では、「重要である」(38.4%)と「やや重要である」(32.7%)を合計した【重要である】の割合は71.2%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は麻生区(80.3%)が約8割と最も高く、高津区(62.8%)が最も低い。

【図表 156】市の交通政策について⑪(居住区別)

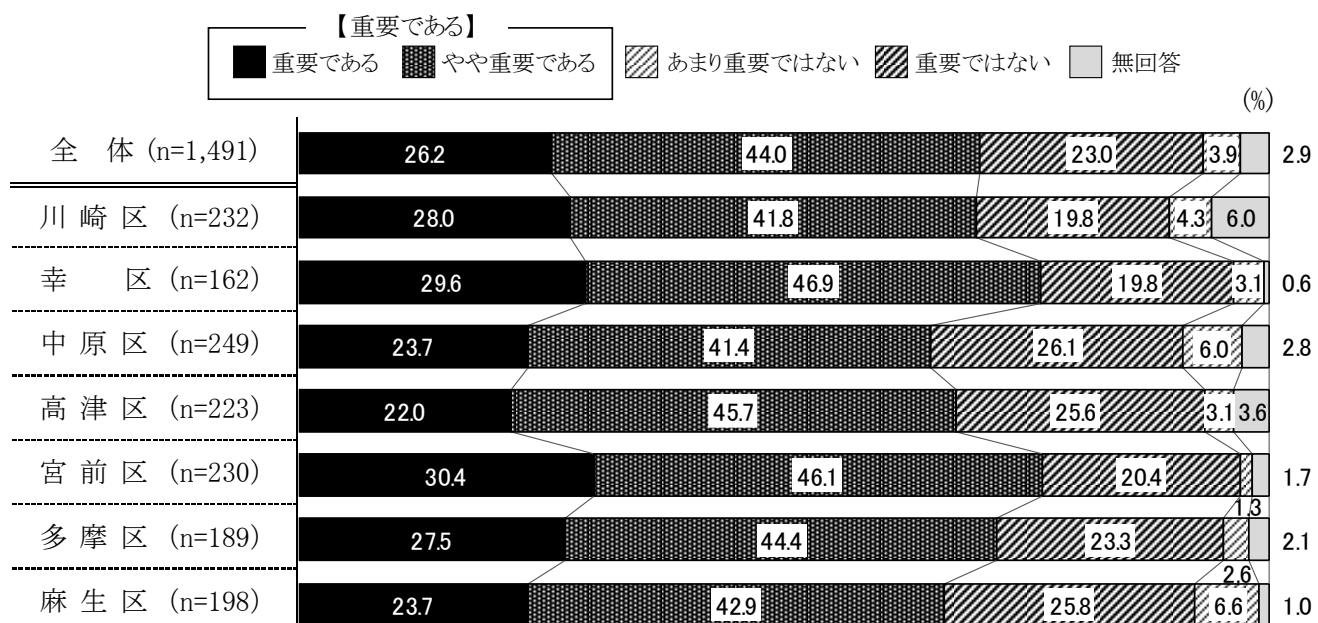


⑫ 駅前広場や道路などで、バスなどの公共交通の利用を優先させる取組

全体では、「重要である」(26.2%)と「やや重要である」(44.0%)を合計した【重要である】の割合は70.2%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区と宮前区(ともに76.5%)が最も高く、中原区(65.1%)が最も低い。

【図表 157】市の交通政策について⑫(居住区別)

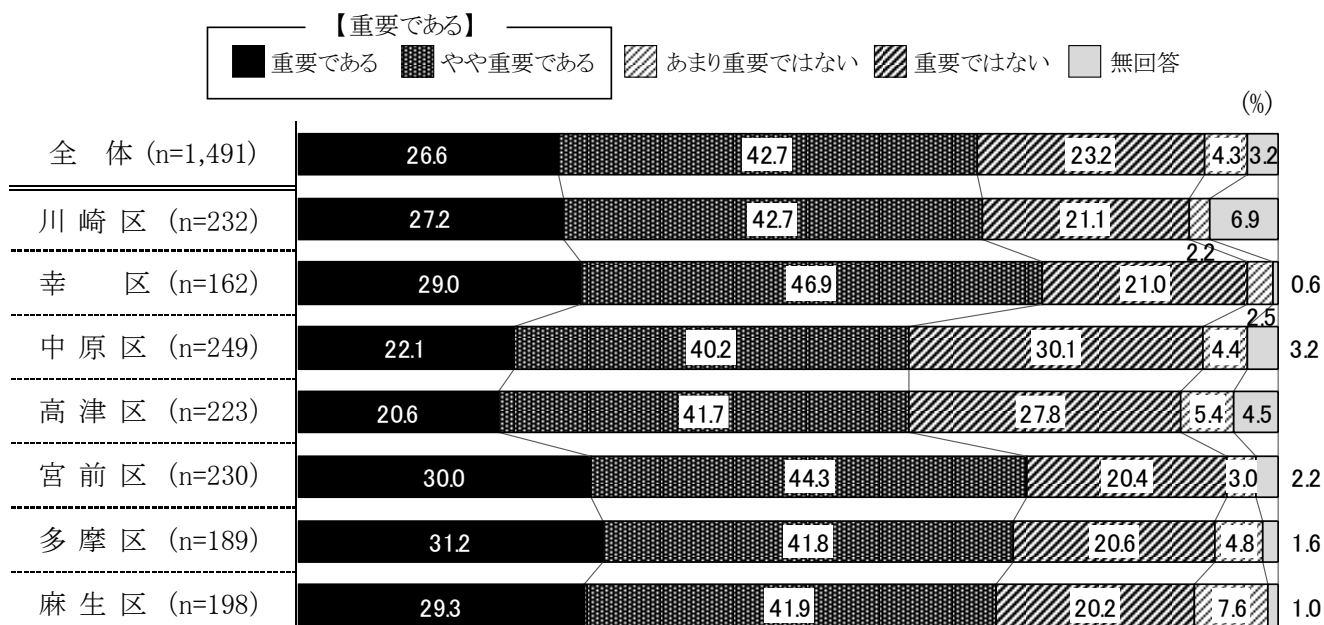


⑬ 地域主体のコミュニティ交通などの地域特性に応じた、きめ細かな交通手段の充実

全体では、「重要である」(26.6%)と「やや重要である」(42.7%)を合計した【重要である】の割合は69.3%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区(75.9%)が最も高く、中原区(62.2%)が最も低い。

【図表 158】市の交通政策について⑬(居住区別)

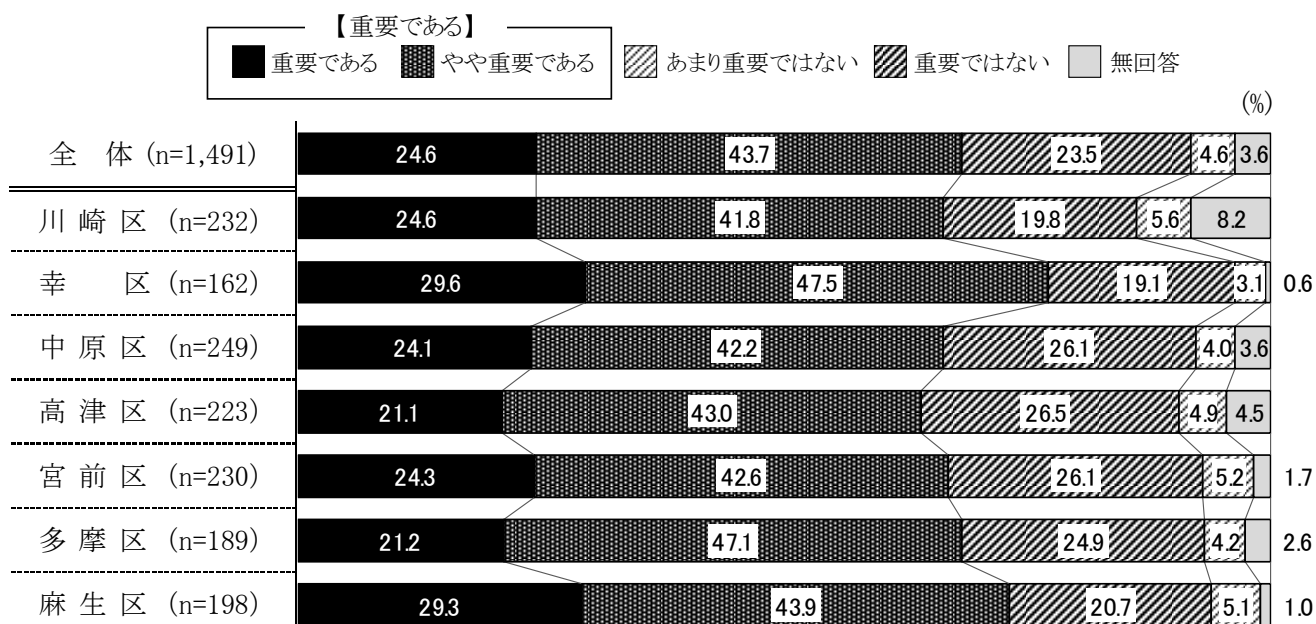


⑭ ICT等新技术を活用した新たな交通サービスの導入促進

全体では、「重要である」(24.6%)と「やや重要である」(43.7%)を合計した【重要である】の割合は68.3%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は幸区(77.2%)が最も高く、高津区(64.1%)が最も低い。

【図表 159】市の交通政策について⑭(居住区別)

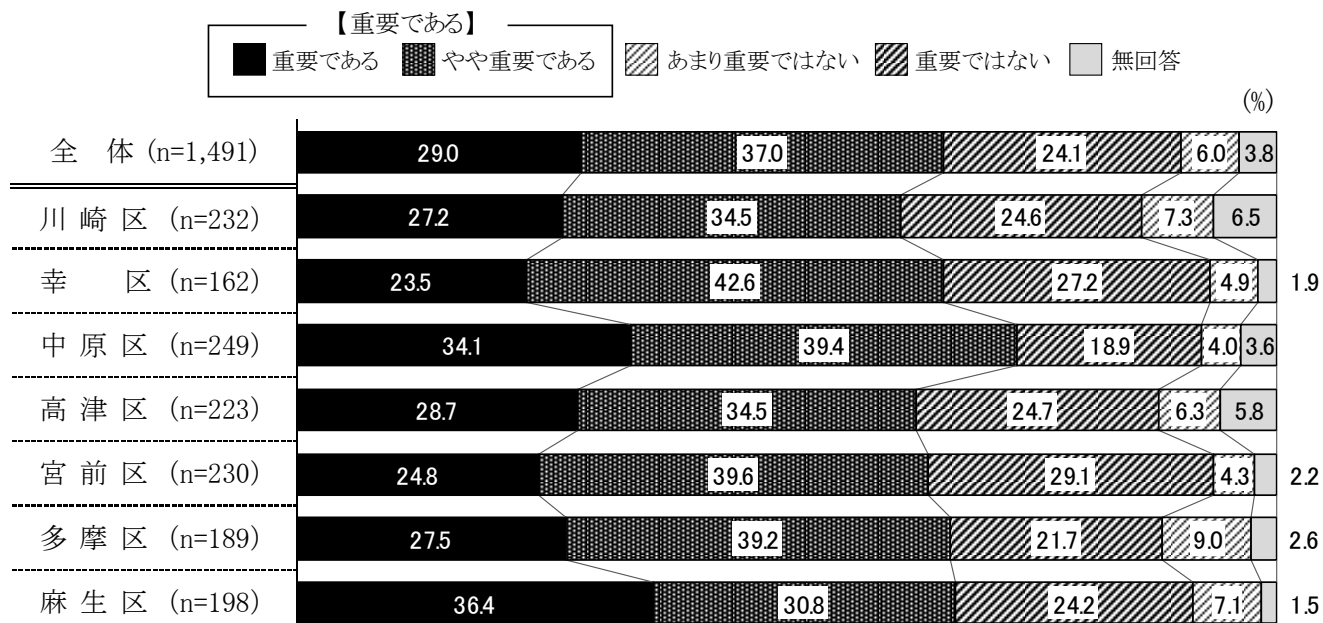


⑮ 羽田空港や都心、市内の主要駅などへの所要時間の短縮

全体では、「重要である」(29.0%)と「やや重要である」(37.0%)を合計した【重要である】の割合は66.0%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は中原区(73.5%)が最も高く、川崎区(61.6%)が最も低い。

【図表 160】市の交通政策について⑮(居住区別)

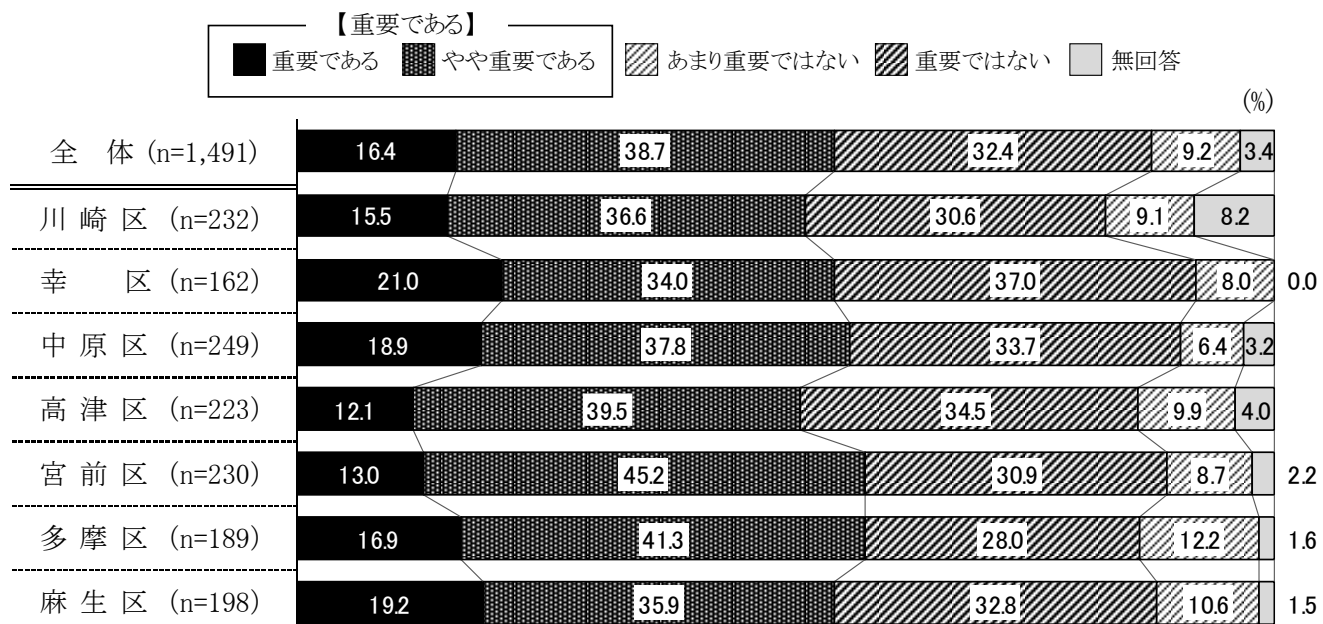


⑯ シェアリングサービスを活用したモビリティの利活用の推進

全体では、「重要である」(16.4%)と「やや重要である」(38.7%)を合計した【重要である】の割合は55.1%であった。

居住区別に見ると、【重要である】は全ての居住区で5割台となっている。

【図表 161】市の交通政策について⑯(居住区別)



2.6 川崎市が発行する説明資料・広報等の新しい体裁について

(1) デジタル機器の保有・利用状況

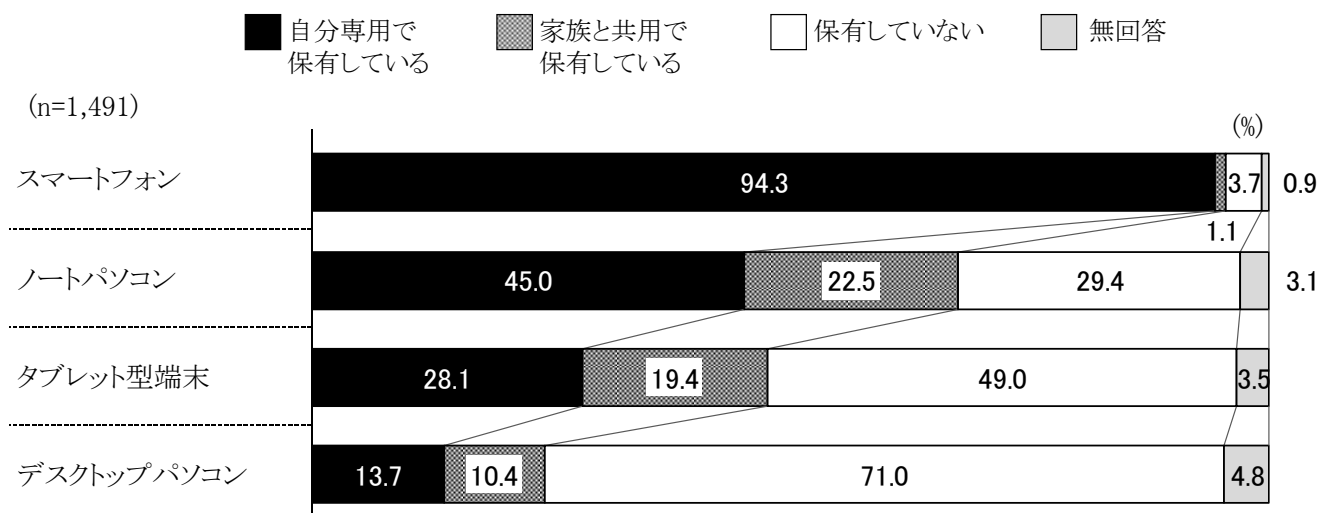
問 23. デジタル機器の保有状況、利用状況について、おうかがいします。

- ① 次のデジタル機器について、それぞれのご自宅での保有状況を教えてください。
- ② あなたがインターネットで情報収集する際に、最もよく使うデジタル機器はどれですか。

① 自宅での保有状況

「自分専用で保有している」の割合は「スマートフォン」が94.3%と最も高く、次いで「ノートパソコン」(45.0%)、「タブレット型端末」(28.1%)、「デスクトップパソコン」(13.7%)と続いている。

【図表 162】 デジタル機器の保有状況

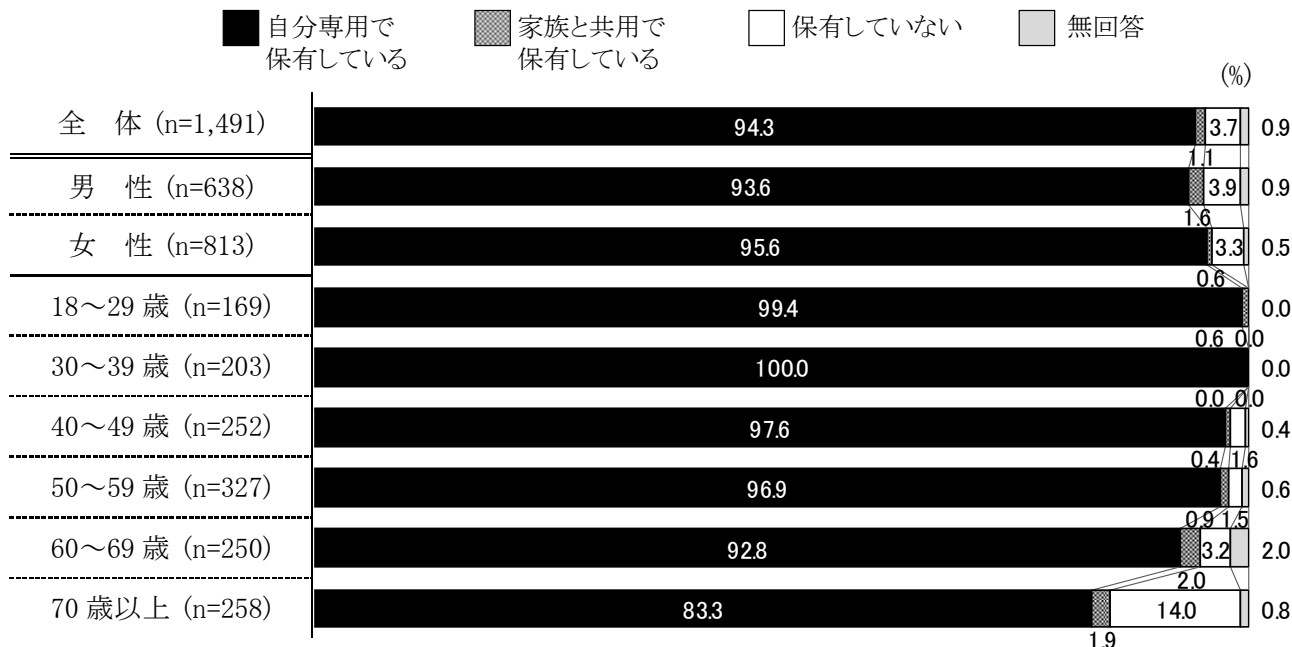


〔1〕スマートフォン

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は、70歳以上（83.3%）を除いた年齢層で9割を超えている。

【図表 163】 デジタル機器の保有状況〔スマートフォン〕（性別、年齢別）

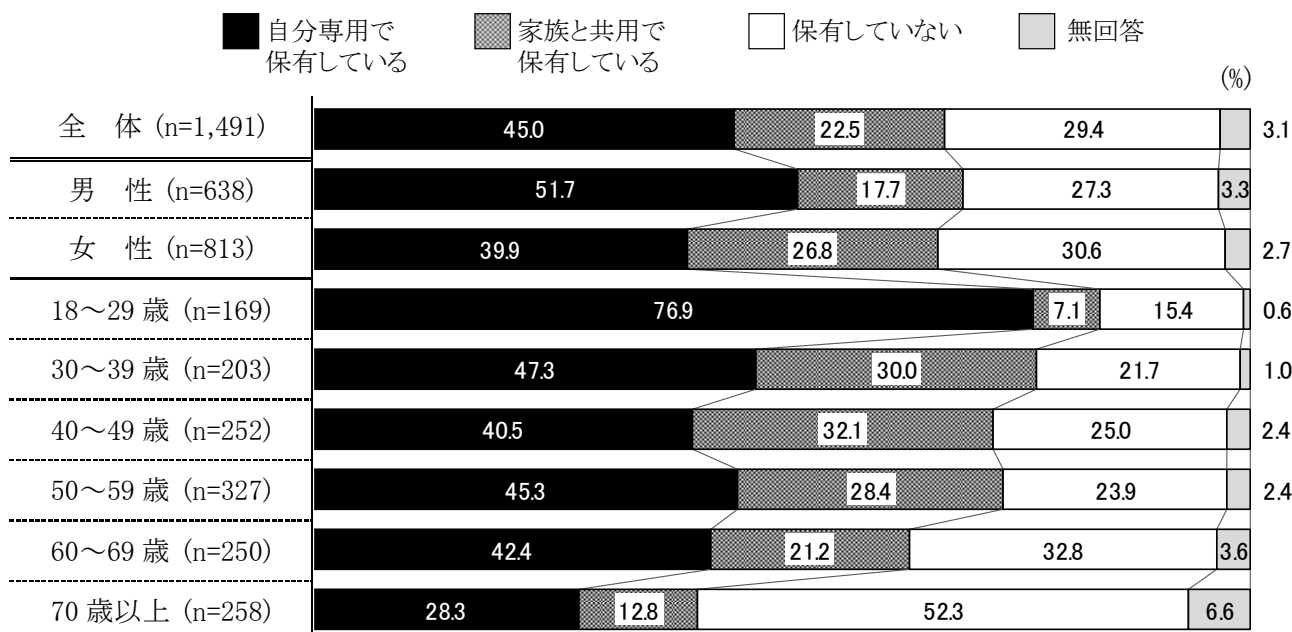


〔2〕ノートパソコン

性別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は、女性（39.9%）よりも男性（51.7%）の方が高いが、「家族と共用で保有している」と合わせると大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は18～29歳（76.9%）が最も高く、70歳以上（28.3%）が最も低くなっている。

【図表 164】 デジタル機器の保有状況〔ノートパソコン〕（性別、年齢別）

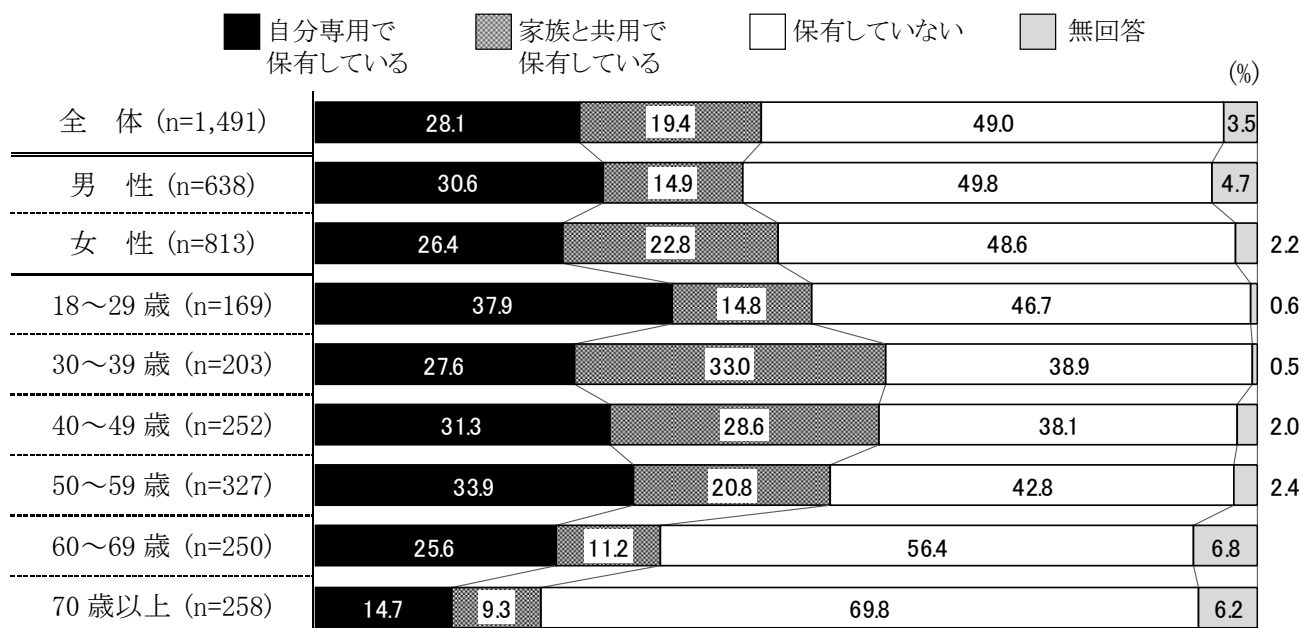


〔3〕タブレット型端末

性別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は、女性（26.4%）よりも男性（30.6%）の方が高いが、「家族と共用で保有している」と合わせると女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は、18～29歳（37.9%）が最も高く、70歳以上（14.7%）が最も低い。また、「家族と共用で保有している」を合わせると、30～39歳、40～49歳が約6割と高くなっている。

【図表 165】 デジタル機器の保有状況〔タブレット型端末〕（性別、年齢別）

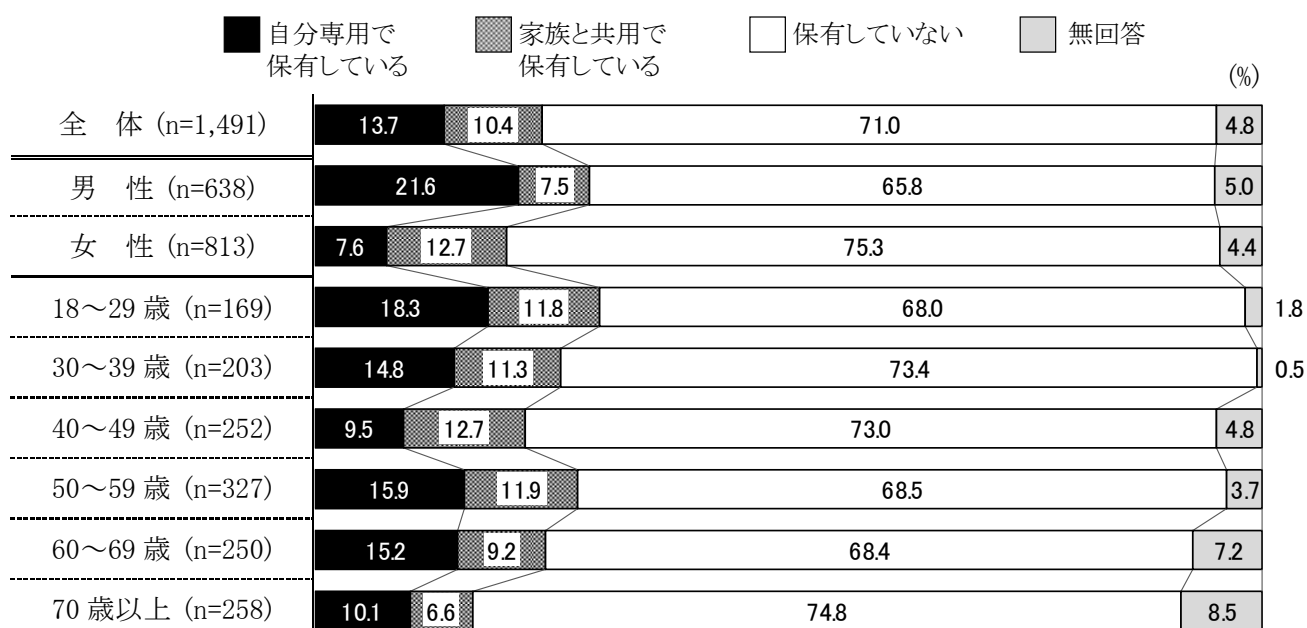


〔4〕デスクトップパソコン

性別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は、女性（7.6%）よりも男性（21.6%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「自分専用で保有している」の割合は、18～29歳（18.3%）が最も高い。

【図表 166】 デジタル機器の保有状況〔デスクトップパソコン〕（性別、年齢別）



② 情報収集の際、最もよく使うデジタル機器

「スマートフォン」が75.0%と最も高く、次いで「ノートパソコン」(8.5%)、「デスクトップパソコン」(4.1%)、「タブレット型端末」(2.6%)と続いている。

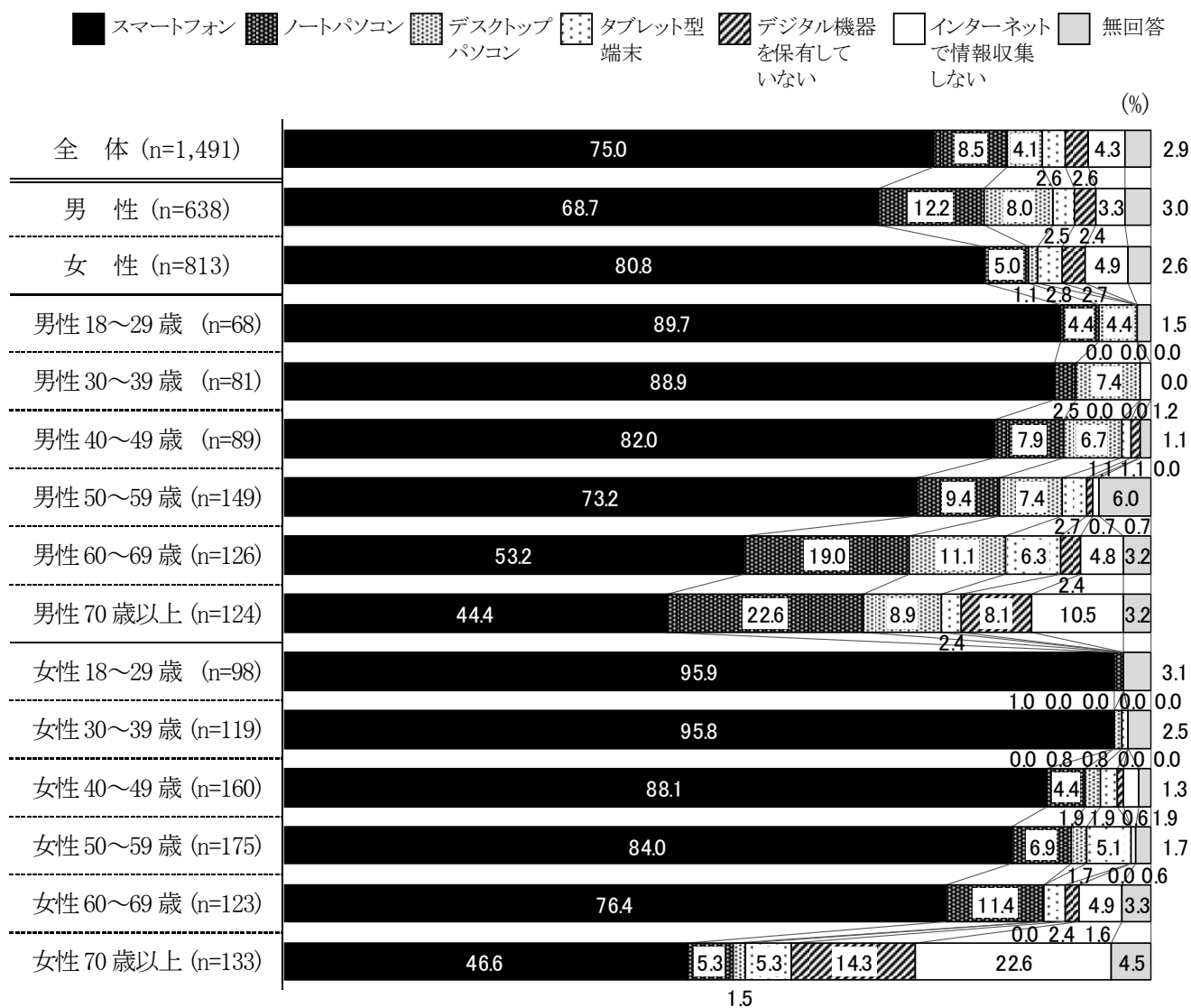
【図表 167】 情報収集の際、最もよく使うデジタル機器



性別に見ると、「スマートフォン」は女性の方が高く、「ノートパソコン」、「デスクトップパソコン」は男性の方が高くなっている。

性／年齢別に見ると、いずれの性／年齢においても「スマートフォン」が最も高い。また、「デジタル機器を保有していない」と「インターネットで情報収集しない」の合計は男女ともに70歳以上で最も高く、女性70歳以上(36.8%)では3分の1強を占めている。

【図表 168】情報収集の際、最もよく使うデジタル機器（性／年齢別）

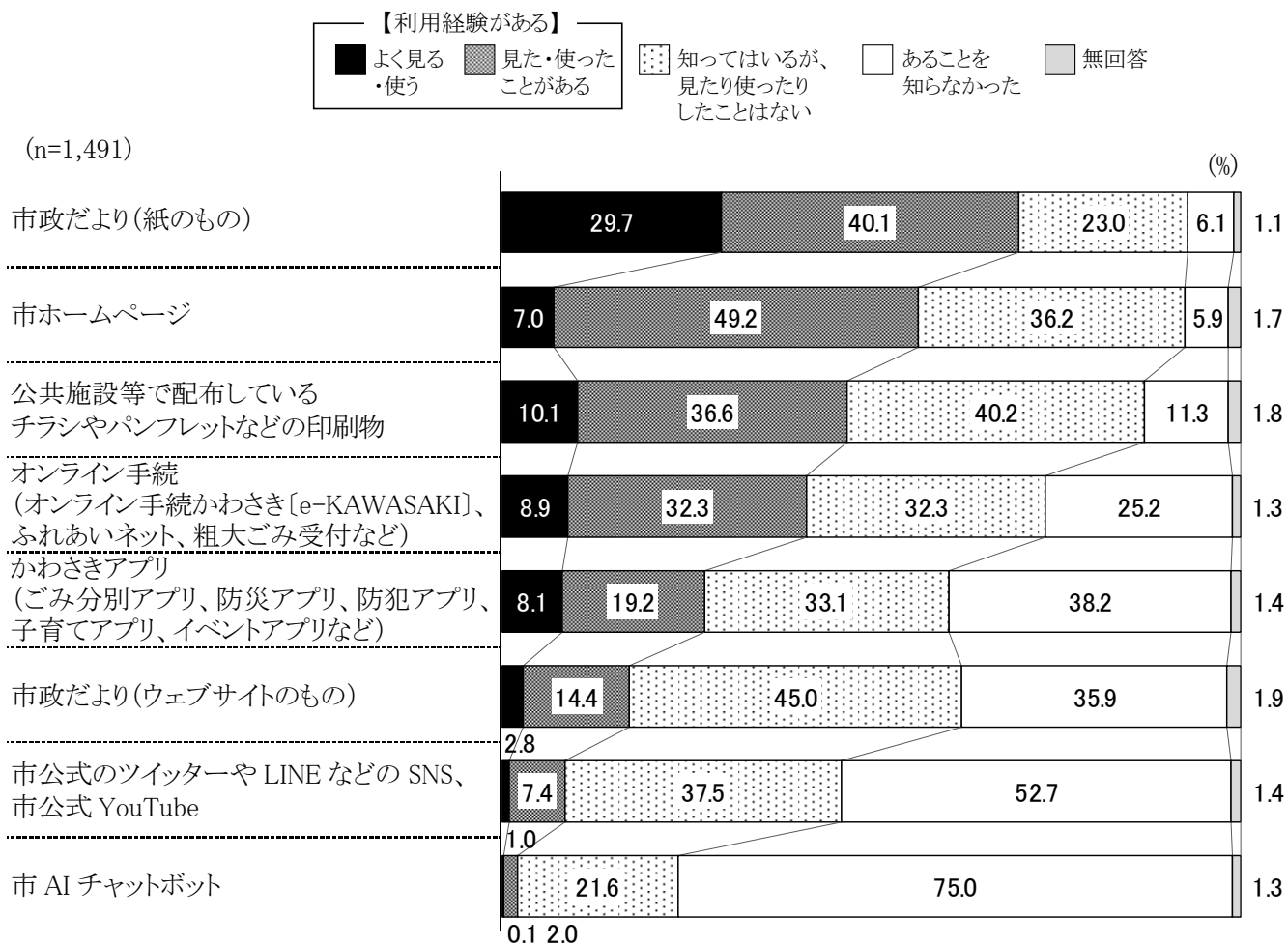


(2) 市の広報物や広報媒体の認知・利用状況

問 24. あなたは次の広報物や広報媒体を見たことがありますか。また、サービスを利用したことがありますか。

「よく見る・使う」と「見た・使ったことがある」を合計した【利用経験がある】の割合は、「市政だより（紙のもの）」が69.8%と最も高く、次いで「市ホームページ」（56.2%）、「公共施設等で配布しているチラシやパンフレットなどの印刷物」（46.7%）、「オンライン手続（オンライン手続かわさき[e-KAWASAKI]、ふれあいネット、粗大ごみ受付など）」（41.2%）と続いている。一方で、「市 AI チャットボット」は「あることを知らなかった」（75.0%）が4分の3を占め、「市公式のツイッターや LINE などの SNS、市公式 YouTube」は「あることを知らなかった」（52.7%）が半数を超えている。

【図表 169】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況

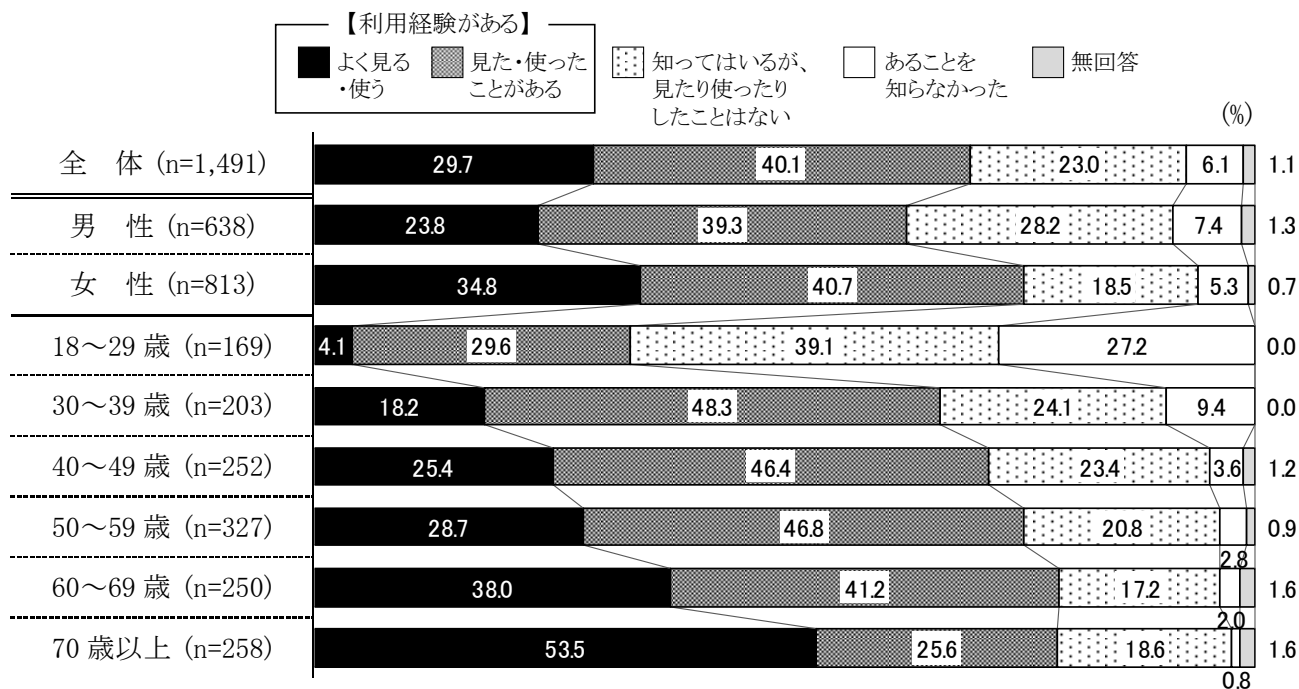


① 市政だより(紙のもの)

性別に見ると、【利用経験がある】の割合は、男性（63.2%）より女性（75.5%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「よく見る・使う」は年齢が上がるほど高く、70歳以上（53.5%）では5割を超えている。

【図表 170】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況①（性別、年齢別）

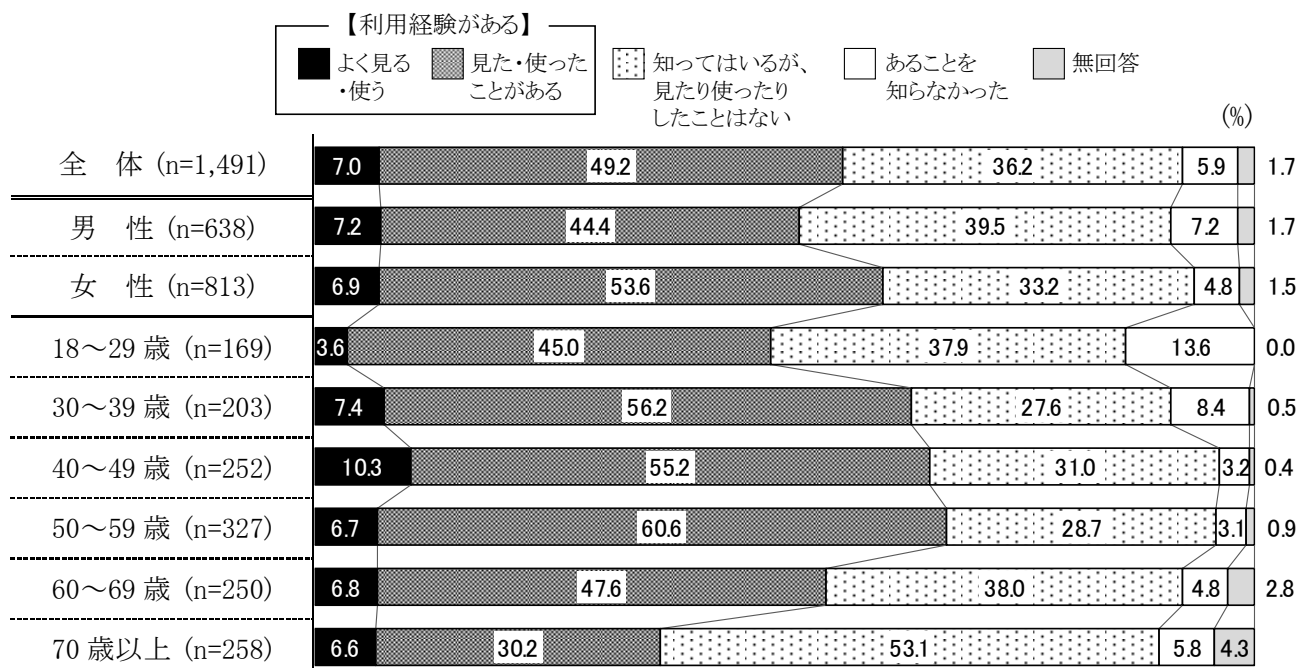


② 市ホームページ

性別に見ると、【利用経験がある】の割合は、男性（51.6%）より女性（60.5%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、【利用経験がある】は30歳代～50歳代が6割を超えている。

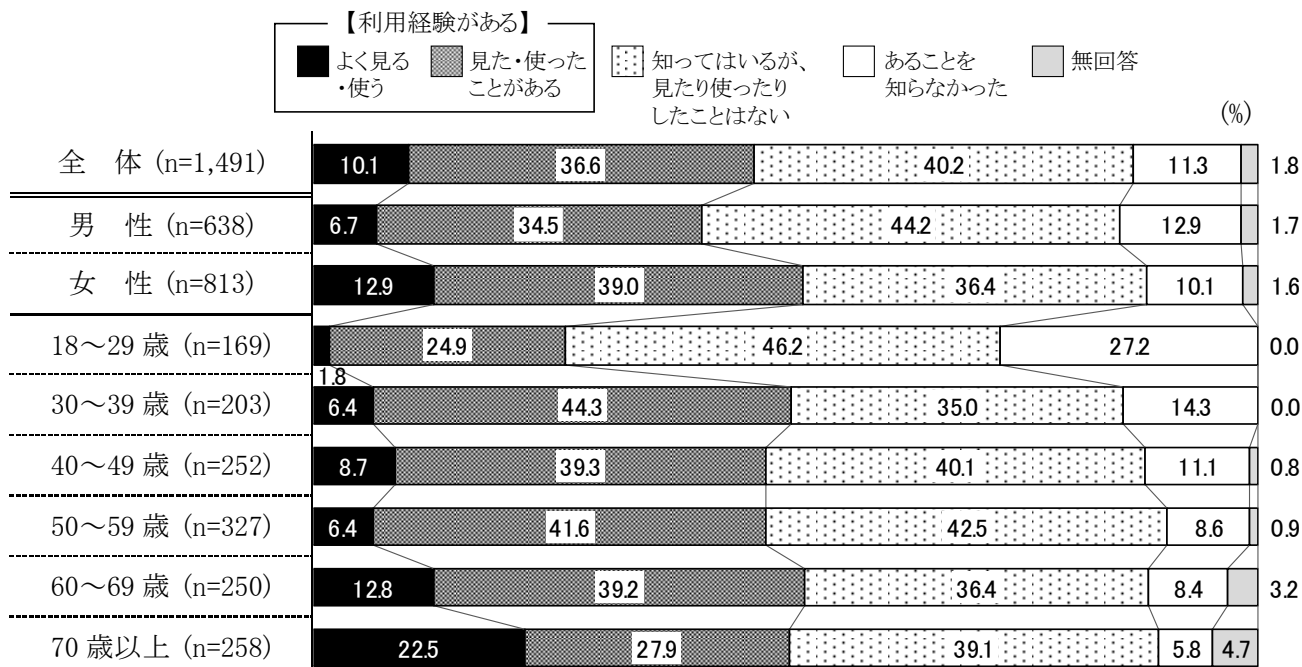
【図表 171】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況②（性別、年齢別）



③ 公共施設等で配布しているチラシやパンフレットなどの印刷物

性別に見ると、【利用経験がある】の割合は、男性(41.2%)より女性(51.9%)の方が高くなっている。年齢別に見ると、【利用経験がある】は30歳代以上が5割程度となっているが、18～29歳は26.6%と低く、「あることを知らなかった」が27.2%と高い。

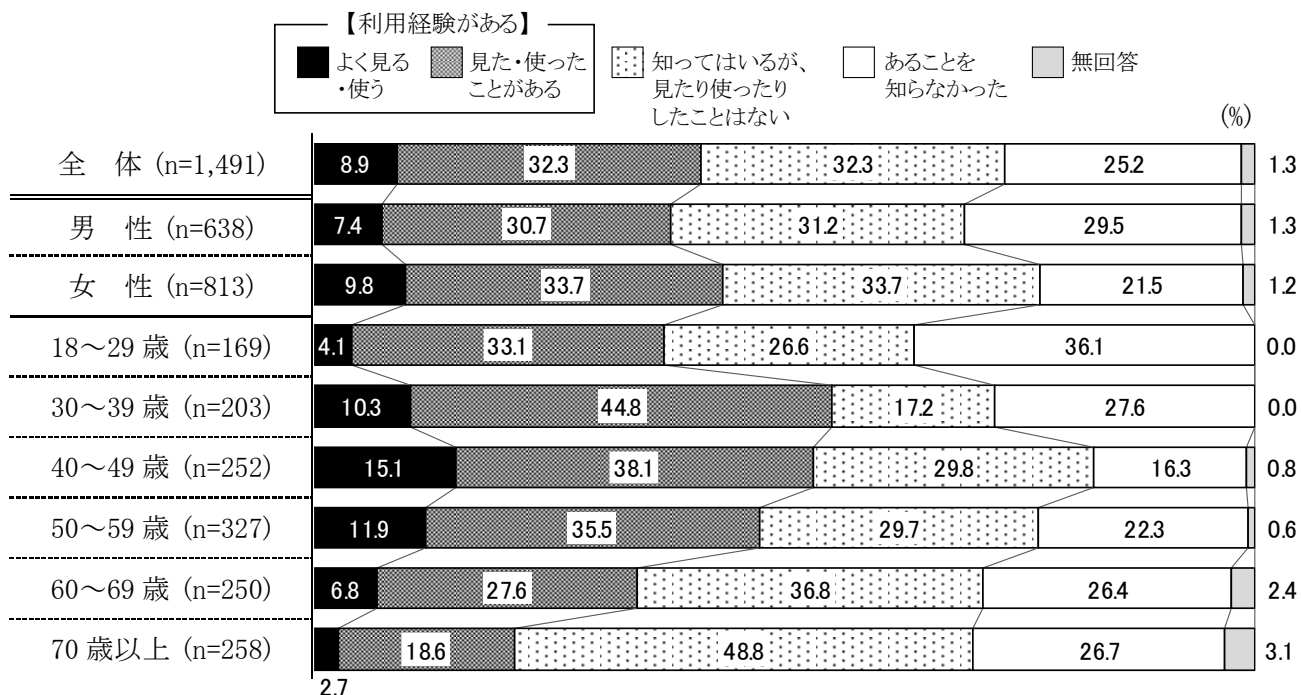
【図表 172】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況③(性別、年齢別)



④ オンライン手続(オンライン手続かわさき[e-KAWASAKI]、ふれあいネット、粗大ごみ受付など)

性別に見ると、【利用経験がある】の割合は、男性(38.1%)より女性(43.5%)の方が高くなっている。年齢別に見ると、【利用経験がある】は30～39歳、40～49歳が5割を超えているが、70歳以上では21.3%と低い。また、18～29歳は「あることを知らなかった」が36.1%と高くなっている。

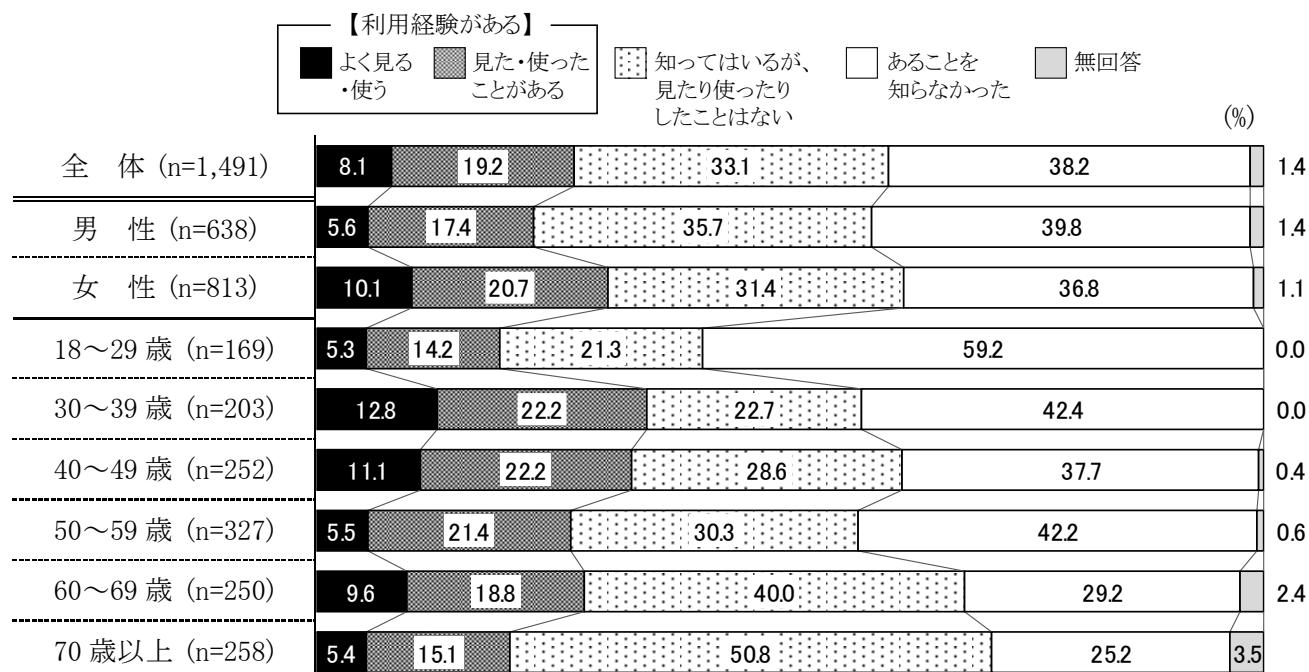
【図表 173】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況④(性別、年齢別)



⑤ かわさきアプリ(ごみ分別アプリ、防災アプリ、防犯アプリ、子育てアプリ、イベントアプリなど)

性別に見ると、【利用経験がある】の割合は、男性(23.0%)より女性(30.8%)の方が高くなっている。
 年齢別に見ると、【利用経験がある】は30～39歳、40～49歳が3割を超えている。また、18～29歳は「あることを知らなかった」が59.2%と高くなっている。

【図表 174】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況⑤(性別、年齢別)



(3) 情報の入手方法

問 25. あなたが、ごみの分別など、次のような情報を知りたいと考えたとき、どのような方法で入手しますか（または、入手しようと思いませんか）。

「市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）」については「市政だより（紙のもの）」が40.0%と最も高くなっているが、そのほかの項目では「市ホームページ」が最も高く、特に「市に申請する手続の方法や窓口の情報（住民票の交付や福祉制度など）」(61.2%)と「災害(地震や大雨)や感染症(新型コロナ感染症やインフルエンザ)などに関する情報」(59.9%)では約6割を占めている。また、「市に申請する手続の方法や窓口の情報（住民票の交付や福祉制度など）」については「電話や窓口への問い合わせ」(15.4%)が2番目に高くなっている。

【図表 175】情報の入手方法

(n=1,491)

(%)

	市政だより（紙のもの）	市政だより（ウェブサイトのもの）	公共施設等で配布しているチラシやパンフレットなどの印刷物	市ホームページ	かわさきアプリ（ごみ分別アプリ、防災アプリなど）	SNS、市の公式YouTubeなどの	市AIチャットボット	電話や窓口への問い合わせ	無回答
ごみの分別方法に関する情報	22.7	3.2	14.4	40.4	10.8	0.3	0.1	6.5	1.6
市主催のイベント等の情報	40.0	3.8	10.8	37.0	1.5	1.7	0.0	2.3	2.7
市に申請する手続の方法や窓口の情報	11.7	4.4	3.3	61.2	1.0	0.3	0.1	15.4	2.6
災害や感染症などに関する情報	18.0	4.9	4.0	59.9	1.9	4.1	0.1	4.4	2.7
市の政策に関する情報	37.0	3.9	2.5	49.1	0.7	0.7	0.1	2.7	3.3

① ごみの分別方法に関する情報(ゴミの分別、排出方法など)

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「市政だより（紙のもの）」、「電話や窓口への問い合わせ」、「公共施設等で配布しているチラシやパンフレットなどの印刷物」の3項目は概ね年齢が上がるほど高くなり、「市ホームページ」は概ね年齢が上がるほど低くなっている。また、「かわさきアプリ（ごみ分別アプリ、防災アプリ、防犯アプリ、子育てアプリ、イベントアプリなど）」は30～39歳で20.2%とやや高い。

【図表 176】情報の入手方法（性別、年齢別）

〔ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）〕

（%）

	市政だより （紙のもの）	市政だより （ウェブサイトのもの）	公共施設等 で配布して いるチラシや パンフレット などの印刷物	市 ホーム ページ	かわさき アプリ（ご み分別ア プリ、防 災アプリ、 防犯アプ リ、子育 てアプリ、 イベン トアプリ など）	SNS、 市のツイ ッターや LINEな どの	市AI チャット ボット	電話 や窓口 への問 い合わせ	無 回答
全体 (n=1,491)	22.7	3.2	14.4	40.4	10.8	0.3	0.1	6.5	1.6
男性 (n=638)	21.8	3.1	14.3	41.8	10.5	0.0	0.0	6.7	1.7
女性 (n=813)	23.4	3.0	14.5	39.9	11.3	0.5	0.2	6.3	1.0
18～29歳 (n=169)	8.3	4.7	8.3	65.1	10.7	0.0	0.6	0.6	1.8
30～39歳 (n=203)	11.8	4.4	11.8	50.2	20.2	0.0	0.5	1.0	0.0
40～49歳 (n=252)	13.9	2.0	10.3	55.6	13.5	0.4	0.0	3.2	1.2
50～59歳 (n=327)	21.4	3.7	13.8	45.3	9.8	0.3	0.0	4.9	0.9
60～69歳 (n=250)	27.6	3.2	18.4	29.6	10.0	0.8	0.0	8.4	2.0
70歳以上 (n=258)	45.0	1.6	20.9	8.1	4.3	0.0	0.0	18.2	1.9

② 市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)

性別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は男性(35.3%)より女性(43.7%)の方が高く、「市ホームページ」は女性(35.1%)より男性(40.1%)の方が高い。

年齢別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど高くなり、「市ホームページ」は年齢が上がるほど低くなっている。

【図表 177】情報の入手方法(性別、年齢別)
 [市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)]

	市政だより (紙のもの)	市政だより (ウェブサイトのもの)	公共施設等 で配布して いるチラシや パンフレット などの印刷 物	市 ホーム ページ	かわさき アプリ(ごみ 分別アプリ、 子育てアプリ、 防災アプリなど)	SNS、 市の公式 YouTube など	市AI チャット ボット	電話や 窓口への 問い合わせ	無 回 答
全体 (n=1,491)	40.0	3.8	10.8	37.0	1.5	1.7	0.0	2.3	2.7
男性 (n=638)	35.3	4.9	10.5	40.1	1.9	1.3	0.0	3.6	2.5
女性 (n=813)	43.7	3.1	10.9	35.1	1.4	2.2	0.0	1.5	2.2
18~29歳 (n=169)	17.2	5.3	13.0	53.8	2.4	5.3	0.0	0.6	2.4
30~39歳 (n=203)	24.1	4.4	13.8	51.7	2.0	3.4	0.0	0.0	0.5
40~49歳 (n=252)	31.7	3.2	9.1	50.0	1.2	1.2	0.0	2.0	1.6
50~59歳 (n=327)	39.1	2.8	9.2	42.8	2.1	0.9	0.0	1.5	1.5
60~69歳 (n=250)	50.8	6.0	8.4	23.6	0.4	1.6	0.0	5.6	3.6
70歳以上 (n=258)	65.1	2.3	12.8	9.7	1.6	0.0	0.0	3.9	4.7

③ 市に申請する手続の方法や窓口の情報(住民票の交付や福祉制度など)

性別に見ると、「市ホームページ」は男性(59.4%)より女性(63.2%)の方が高い。

年齢別に見ると、「市政だより(紙のもの)」と「電話や窓口への問い合わせ」は概ね年齢が上がるほど高くなり、「市ホームページ」は年齢が上がるほど低くなっている。

【図表 178】情報の入手方法(性別、年齢別)

[市に申請する手続の方法や窓口の情報(住民票の交付や福祉制度など)]

(%)

	市政だより (紙のもの)	市政だより (ウェブサイトのもの)	公共施設等 パンフレット などで配布 している チラシや 印刷物	市 ホーム ページ	かわさき アプリ、 防犯アプリ 、子育て アプリ、 防災 イベント アプリなど	S N S、 市公 式 Y o u T u b e	市 A I チャット ボット	電話 や 窓 口 へ の 問 い 合 わ せ	無 回 答
全体 (n=1,491)	11.7	4.4	3.3	61.2	1.0	0.3	0.1	15.4	2.6
男性 (n=638)	13.2	4.9	4.1	59.4	0.6	0.2	0.2	14.9	2.7
女性 (n=813)	10.5	4.3	2.5	63.2	1.4	0.4	0.0	15.9	2.0
18～29歳 (n=169)	4.1	3.6	2.4	81.1	0.6	0.0	0.6	4.7	3.0
30～39歳 (n=203)	4.4	4.9	2.5	77.8	1.5	0.0	0.0	7.4	1.5
40～49歳 (n=252)	5.2	4.4	0.8	77.4	0.4	0.0	0.0	10.7	1.2
50～59歳 (n=327)	6.7	5.2	4.0	70.9	2.1	0.3	0.0	9.2	1.5
60～69歳 (n=250)	14.8	5.2	3.2	47.6	0.8	1.2	0.0	24.0	3.2
70歳以上 (n=258)	31.8	3.5	5.4	22.9	0.4	0.0	0.0	32.2	3.9

④ 災害(地震や大雨)や感染症(新型コロナ感染症やインフルエンザ)などに関する情報

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど高くなり、「市ホームページ」は概ね年齢が上がるほど低くなっている。また、「公共施設等で配布しているチラシやパンフレットなどの印刷物」は70歳以上が9.7%とやや高い。

【図表 179】情報の入手方法(性別、年齢別)

[災害(地震や大雨)や感染症(新型コロナ感染症やインフルエンザ)などに関する情報]

(%)

	市政だより (紙のもの)	市政だより (ウェブサイトのもの)	公共施設等で配布している チラシやパンフレットなどの印刷物	市ホームページ	かわさきアプリ(ごみ分別アプリ、防犯アプリ、子育てアプリ、防災イベントアプリなど)	SNS、市の公式YouTubeなどの 市の公式ツイッターやLINEなどの	市AIチャットボット	電話や窓口への問い合わせ	無回答
全体 (n=1,491)	18.0	4.9	4.0	59.9	1.9	4.1	0.1	4.4	2.7
男性 (n=638)	18.0	5.2	4.5	58.6	1.7	3.8	0.0	6.1	2.0
女性 (n=813)	18.1	4.8	3.2	61.7	2.2	4.3	0.1	3.1	2.5
18~29歳 (n=169)	4.1	4.7	1.2	83.4	1.2	3.0	0.0	0.0	2.4
30~39歳 (n=203)	5.9	6.4	3.0	71.4	2.5	6.4	0.5	3.0	1.0
40~49歳 (n=252)	11.5	4.8	1.6	73.4	0.8	3.6	0.0	3.6	0.8
50~59歳 (n=327)	12.2	4.9	2.1	70.9	1.8	4.3	0.0	2.4	1.2
60~69歳 (n=250)	23.6	5.6	4.4	45.6	3.2	5.2	0.0	8.8	3.6
70歳以上 (n=258)	45.3	3.5	9.7	24.4	1.9	2.7	0.0	7.4	5.0

⑤ 市の政策に関する情報(統計情報、議会など)

性別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は男性(34.2%)より女性(39.4%)の方が高い。

年齢別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど高くなり、「市ホームページ」は年齢が上がるほど低くなっている。

【図表 180】情報の入手方法(性別、年齢別)

〔市の政策に関する情報(統計情報、議会など)〕

(%)

	市政だより (紙のもの)	市政だより (ウェブサイトのもの)	公共施設等 パンフレット などで配布 している チラシや 印刷物	市 ホーム ページ	かわさき アプリ、 防犯アプリ 、子育て アプリ、 防災 イベント アプリなど	S N S、 市公 式 Y o u T u b e	市 A I チャット ボット	電話 や 窓口 への 問い合わせ	無 回 答
全 体 (n=1,491)	37.0	3.9	2.5	49.1	0.7	0.7	0.1	2.7	3.3
男 性 (n=638)	34.2	4.4	3.1	50.5	0.6	0.6	0.2	3.9	2.5
女 性 (n=813)	39.4	3.7	2.0	48.3	0.9	0.7	0.0	1.7	3.3
18～29歳 (n=169)	8.3	5.9	1.8	78.7	1.2	0.6	0.0	0.6	3.0
30～39歳 (n=203)	22.2	3.9	2.5	67.0	1.0	1.0	0.0	2.0	0.5
40～49歳 (n=252)	28.2	3.6	1.2	63.1	0.0	0.0	0.0	2.4	1.6
50～59歳 (n=327)	33.0	4.0	2.8	55.0	0.9	0.6	0.3	1.5	1.8
60～69歳 (n=250)	50.4	4.4	2.0	30.0	1.2	2.0	0.0	5.6	4.4
70歳以上 (n=258)	67.1	2.7	4.3	15.1	0.4	0.4	0.0	3.5	6.6

(4) 行政に関する情報についての考え

問 26. 行政に関する情報について、AとBの考え方はどちらがあなたの考えに近いですか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

①【Aに近い】が55.1%と、「町内会の回覧板や市公式のLINEなど、市が発信する情報を受け取ることによって手に入れる」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

②【Bに近い】が68.4%と、「デジタルに利便性を感じている」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

③【Bに近い】が57.4%と、「デジタル中心の情報提供の方がよい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 181】 行政に関する情報についての考え



(n=1,491)

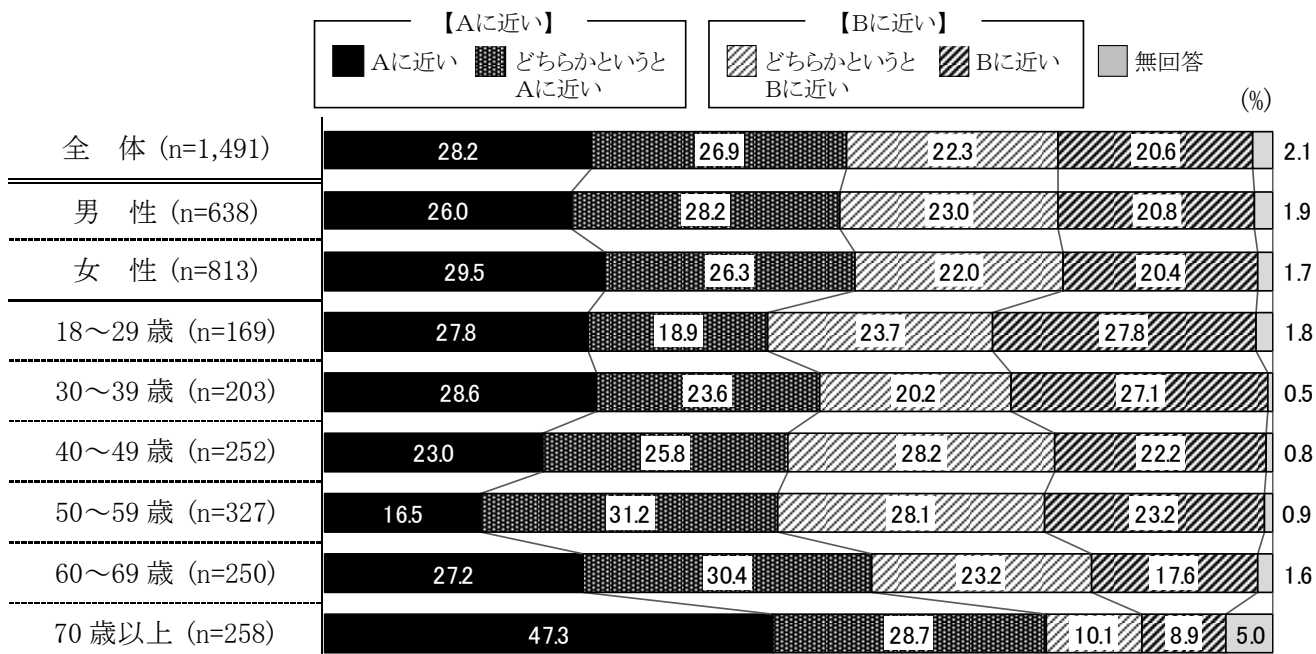
《Aの考え方》	(%)				《Bの考え方》
① 町内会の回覧板や市公式のLINEなど、市が発信する情報を受け取ることによって手に入れる	28.2	26.9	22.3	20.6	区役所窓口や市ホームページなどで、自ら積極的に情報を手に入れる
② デジタルに苦手意識がある	13.3	16.2	22.9	45.5	デジタルに利便性を感じている
③ デジタル中心の情報提供に不安がある	15.6	24.7	28.1	29.3	デジタル中心の情報提供の方がよい
	2.1				
	2.1				
	2.3				

① A:町内会の回覧板や市公式のLINEなど、市が発信する情報を受け取ることによって手に入れる
 B:区役所窓口や市ホームページなどで、自ら積極的に情報を手に入れる

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【Aに近い】は70歳以上(76.0%)が最も高くなっている。

【図表 182】 行政に関する情報についての考え① (性別、年齢別)

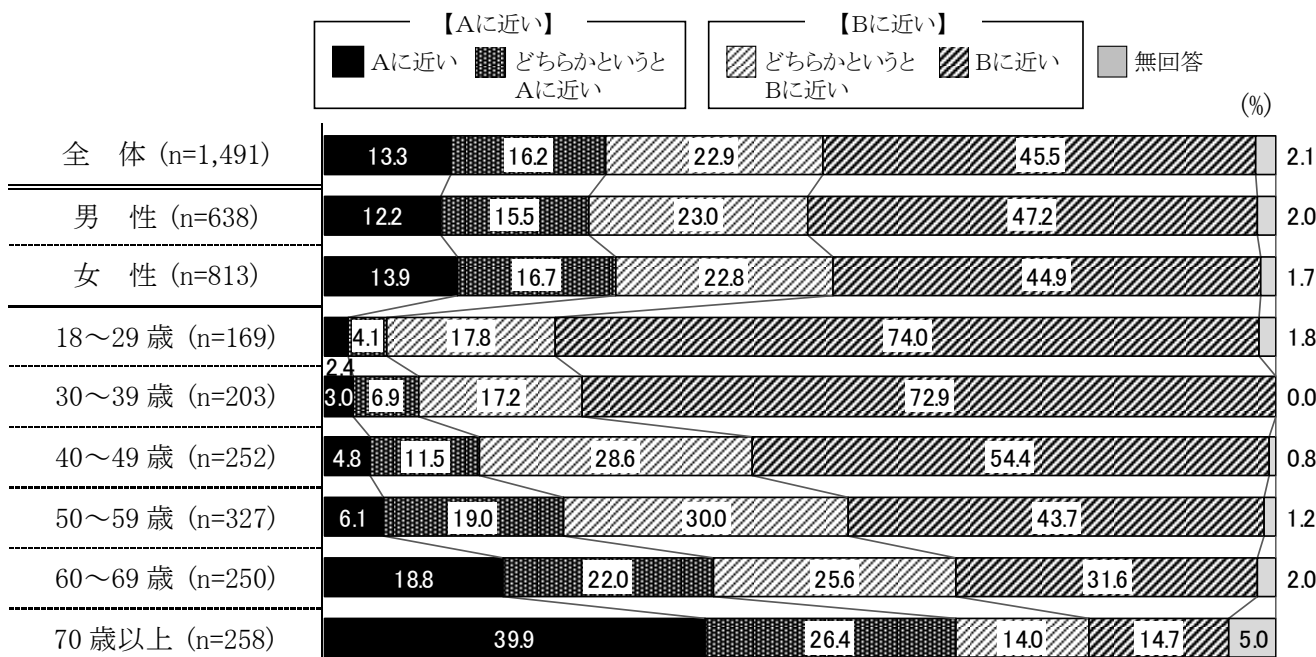


② A:デジタルに苦手意識がある
 B:デジタルに利便性を感じている

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【Aに近い】は年齢が上がるほど高く、70歳以上(66.3%)では6割を超えている。

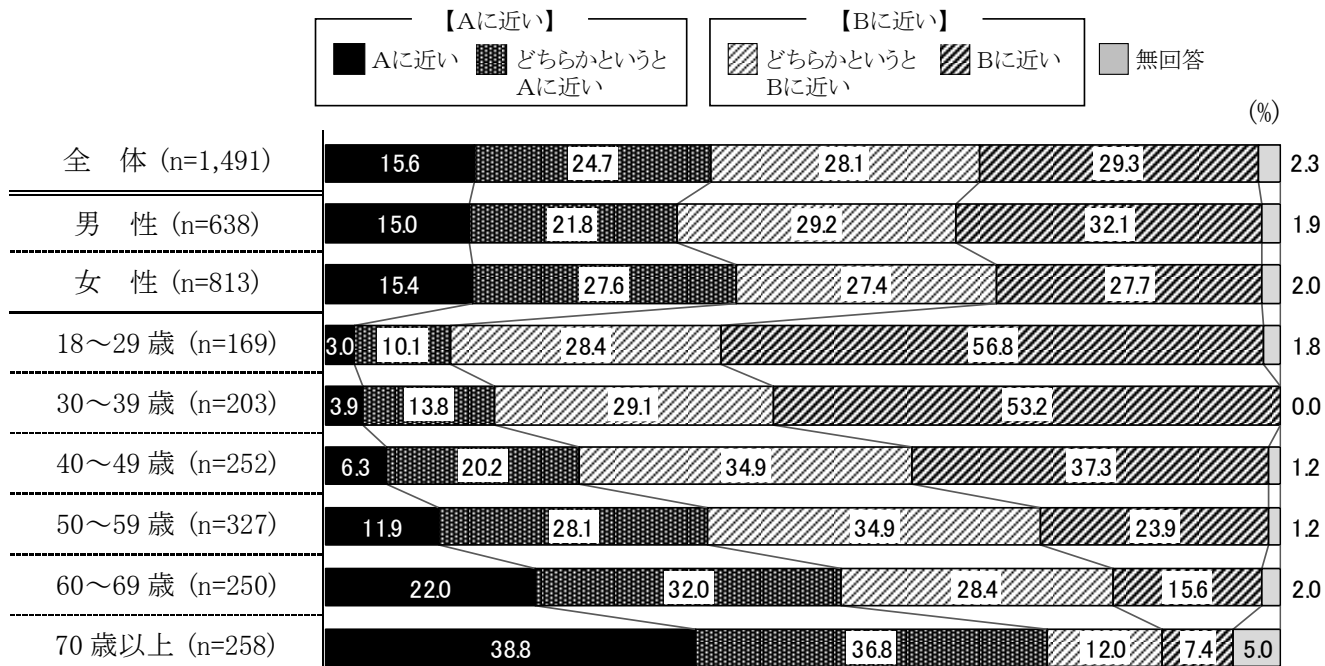
【図表 183】 行政に関する情報についての考え② (性別、年齢別)



③ A: デジタル中心の情報提供に不安がある
 B: デジタル中心の情報提供の方がよい

性別に見ると、【Aに近い】の割合は男性(36.8%)よりも女性(42.9%)の方が高くなっている。
 年齢別に見ると、40歳代以下では【Bに近い】が7割を超えている。一方で、60歳代以上は【Aに近い】の方が高く、70歳以上(75.6%)では4分の3を占めている。

【図表 184】 行政に関する情報についての考え③ (性別、年齢別)



(5) 市が作成する「説明資料・広報等」についての考え

問 27. 川崎市が作成する「説明資料・広報等」について、AとBの考え方はどちらがあなたの考えに近いですか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

①【Aに近い】が75.3%と、「なるべく文字が少なく、簡潔にしてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

②【Aに近い】が78.3%と、「イラストや写真を多くしてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

③【Aに近い】が73.1%と、「カラフルで『!』などの記号を使って、目に留まりやすいものにしてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

④【Aに近い】が66.9%と、「ひらがなを多くして、やわらかい雰囲気にしてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

【図表 185】市が作成する「説明資料・広報等」についての考え



(n=1,491)

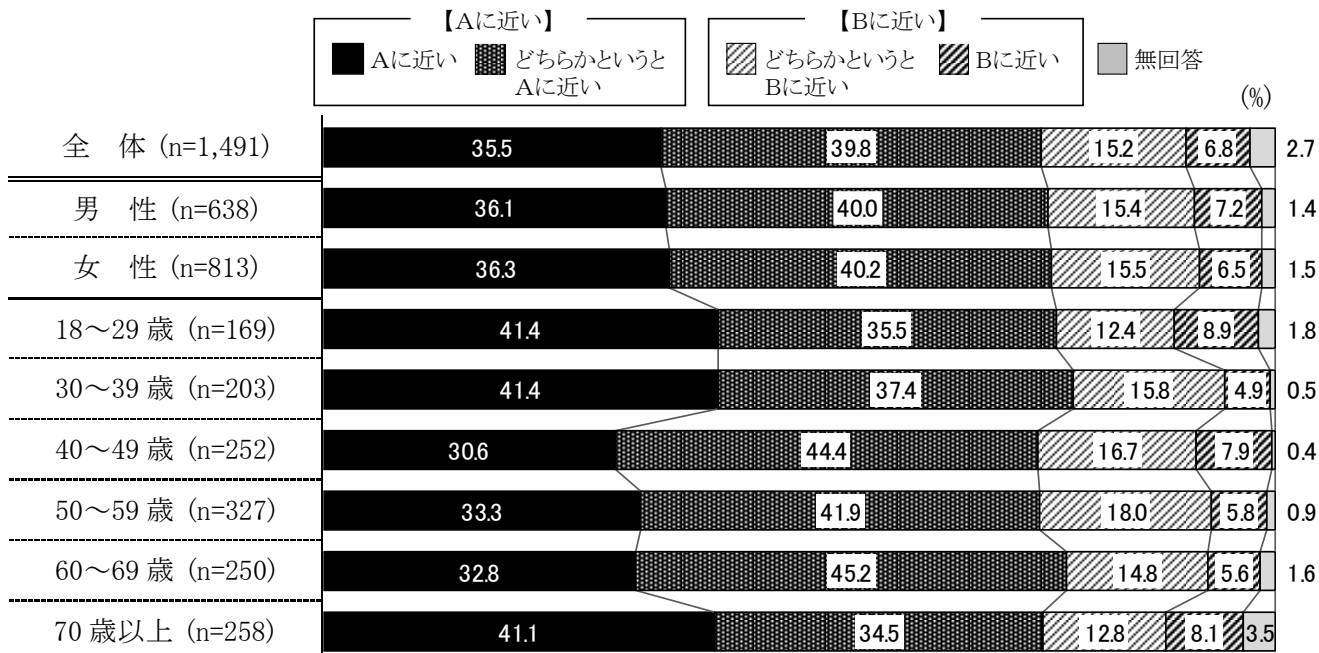
《Aの考え方》	(%)				《Bの考え方》
① なるべく文字が少なく、簡潔にしてほしい	35.5	39.8	15.2	6.8	文章が長くても良いので、詳細な情報を記載してほしい
	2.7				
② イラストや写真を多くしてほしい	27.8	50.5	15.4		イラストや写真よりも、説明文を多くしてほしい
	3.8-2.5				
③ カラフルで「!」などの記号を使って、目に留まりやすいものにしてほしい	24.5	48.6	17.5	6.7	モノクロで記号などは使わず、落ち着いた見た目にしてほしい
	2.7				
④ ひらがなを多くして、やわらかい雰囲気にしてほしい	12.8	54.1	27.0		漢字を多くして、堅実な雰囲気にしてほしい
	3.3-2.7				

① A:なるべく文字が少なく、簡潔にしてほしい
 B:文章が長くても良いので、詳細な情報を記載してほしい

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【Aに近い】の割合は全ての年齢層で7割を超えている。また、30歳代以下と70歳以上では「Aに近い」が4割を超えている。

【図表 186】市が作成する「説明資料・広報等」についての考え①（性別、年齢別）

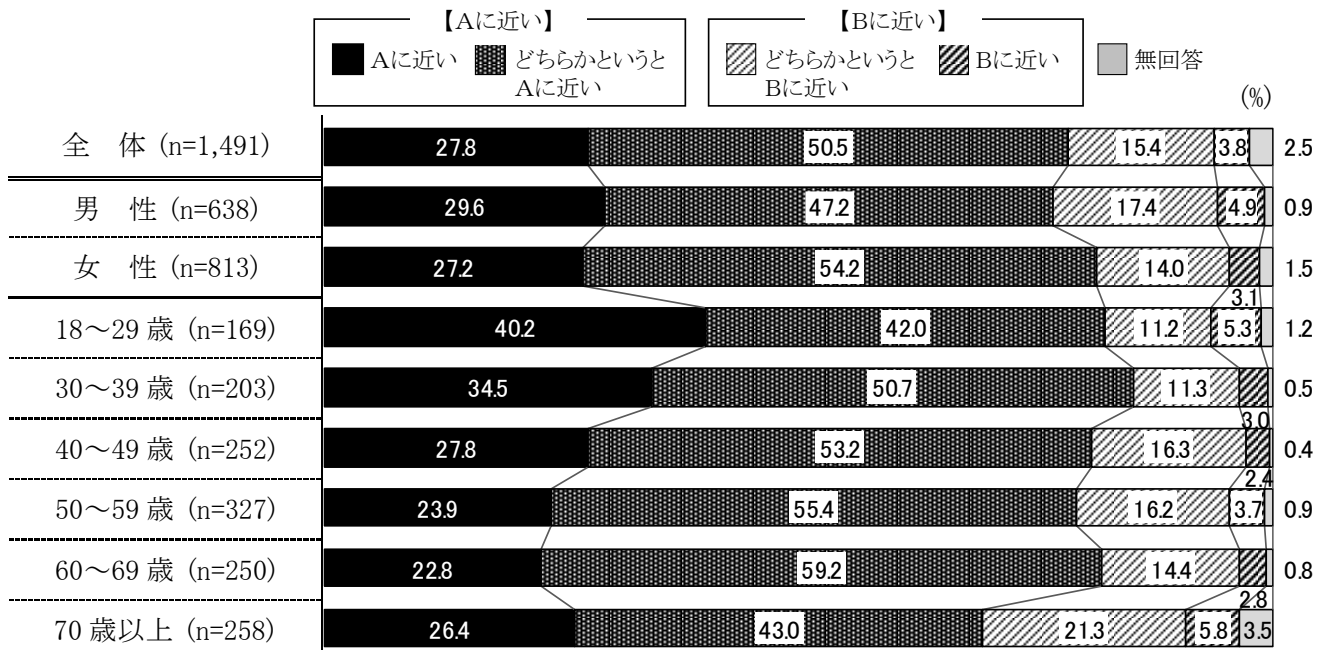


② A:イラストや写真を多くしてほしい
 B:イラストや写真よりも、説明文を多くしてほしい

性別に見ると、【Aに近い】の割合は男性 (76.8%) よりも女性 (81.4%) の方が高くなっている。

年齢別に見ると、【Aに近い】の割合は、60歳代以下では概ね8割を超えている。

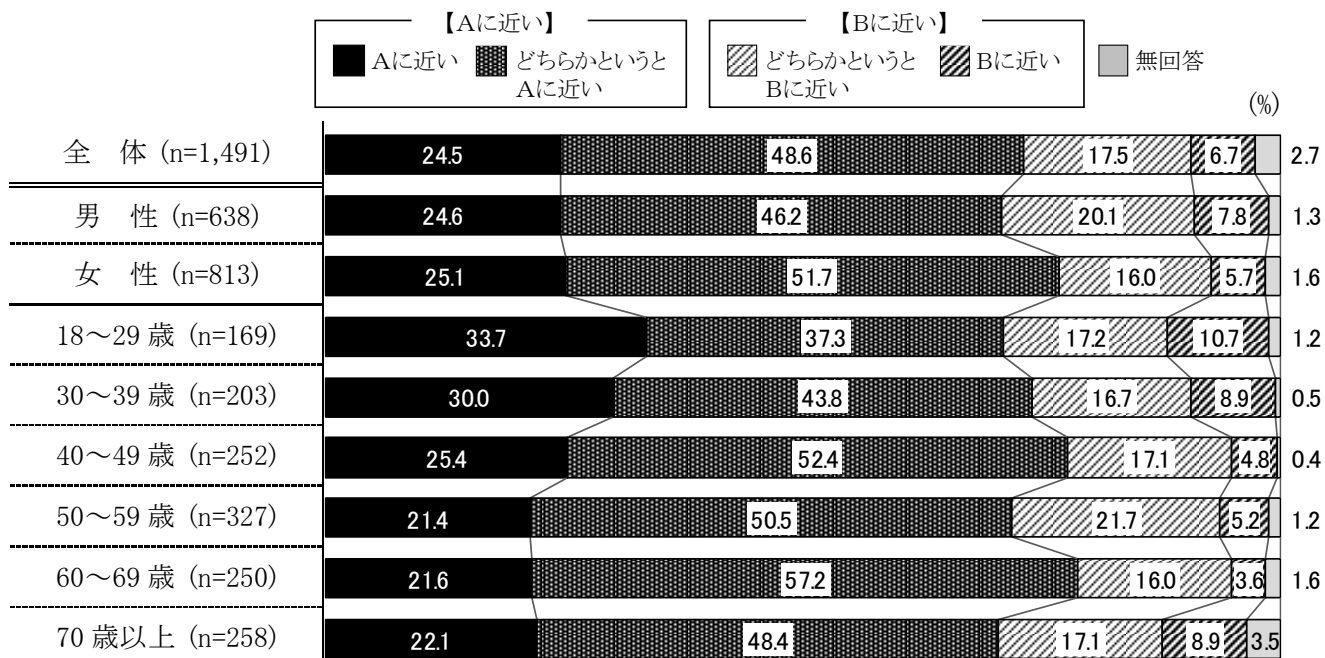
【図表 187】市が作成する「説明資料・広報等」についての考え②（性別、年齢別）



③ A:カラフルで「！」などの記号を使って、目に留まりやすいものにしてほしい
B:モノクロで記号などは使わず、落ち着いた見た目にしてほしい

性別に見ると、【Aに近い】の割合は男性(70.8%)よりも女性(76.8%)の方が高くなっている。
年齢別に見ると、【Aに近い】の割合は、全ての年齢層で7割を超えている。

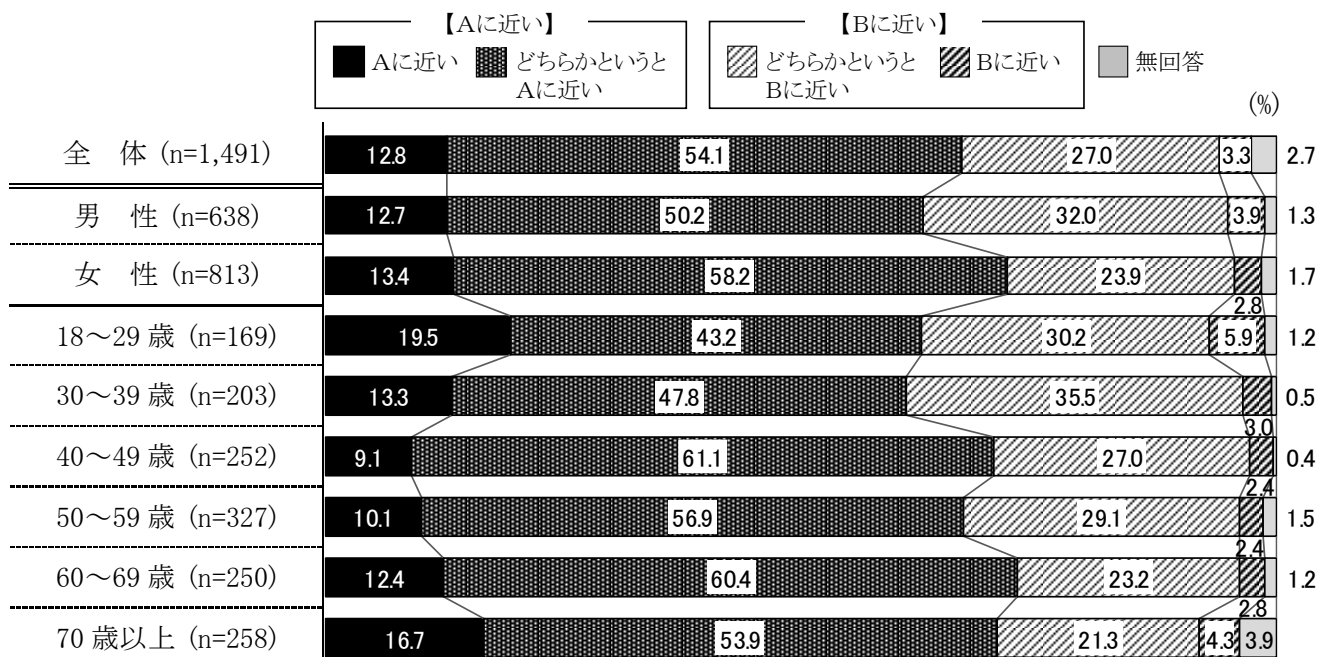
【図表 188】市が作成する「説明資料・広報等」についての考え③(性別、年齢別)



④ A:ひらがなを多くして、やわらかい雰囲気にしてほしい
B:漢字を多くして、堅実な雰囲気にしてほしい

性別に見ると、【Aに近い】の割合は男性(62.9%)よりも女性(71.6%)の方が高くなっている。
年齢別に見ると、【Aに近い】の割合は、全ての年齢層で6割を超えている。

【図表 189】市が作成する「説明資料・広報等」についての考え④(性別、年齢別)



(6) 市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について

問 28. 今回、アンケートとともに3つの「サンプル」を同封しています。こちらは、川崎市が作成する「説明資料・広報等」について、それぞれ「従来型のもの（サンプル1）」、「縦長の改善案（サンプル2）」、「横長の改善案（サンプル3）」として用意しました。
次の項目について、3つの「サンプル」の中で最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

1 従来型のもの（サンプル1）

川崎市からのお知らせ
分かりやすく親しみやすい公文書の作成に向けて

1 目指す方向性

2 「伝わる公文文」の実現に向けた着眼点

2 縦長の改善案（サンプル2）

川崎市からのお知らせ
分かりやすく親しみやすい公文書の作成に向けて

目指す方向性

「伝わる公文文」の実現に向けた着眼点

3 横長の改善案（サンプル3）

川崎市からのお知らせ
分かりやすく親しみやすい公文書の作成に向けて

目指す方向性

「伝わる公文文」の実現に向けた着眼点

従来型のもの（サンプル1）

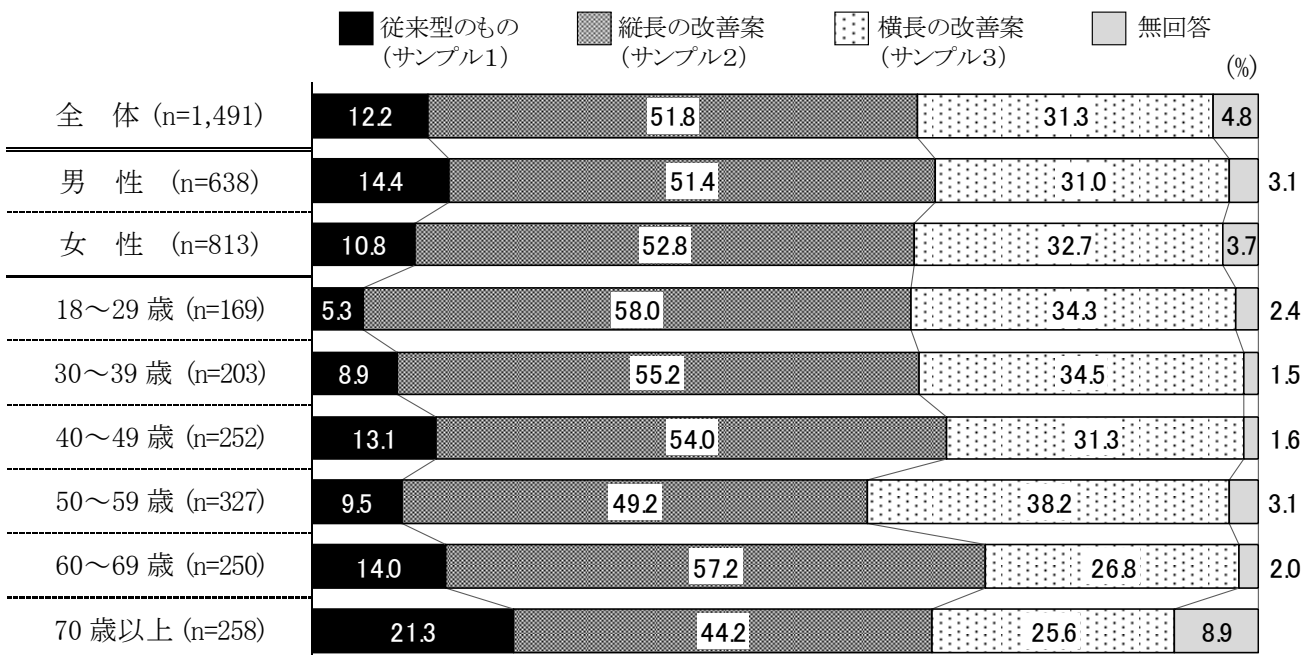
縦長の改善案（サンプル2）

横長の改善案（サンプル3）

① 書かれている内容に興味が持てる

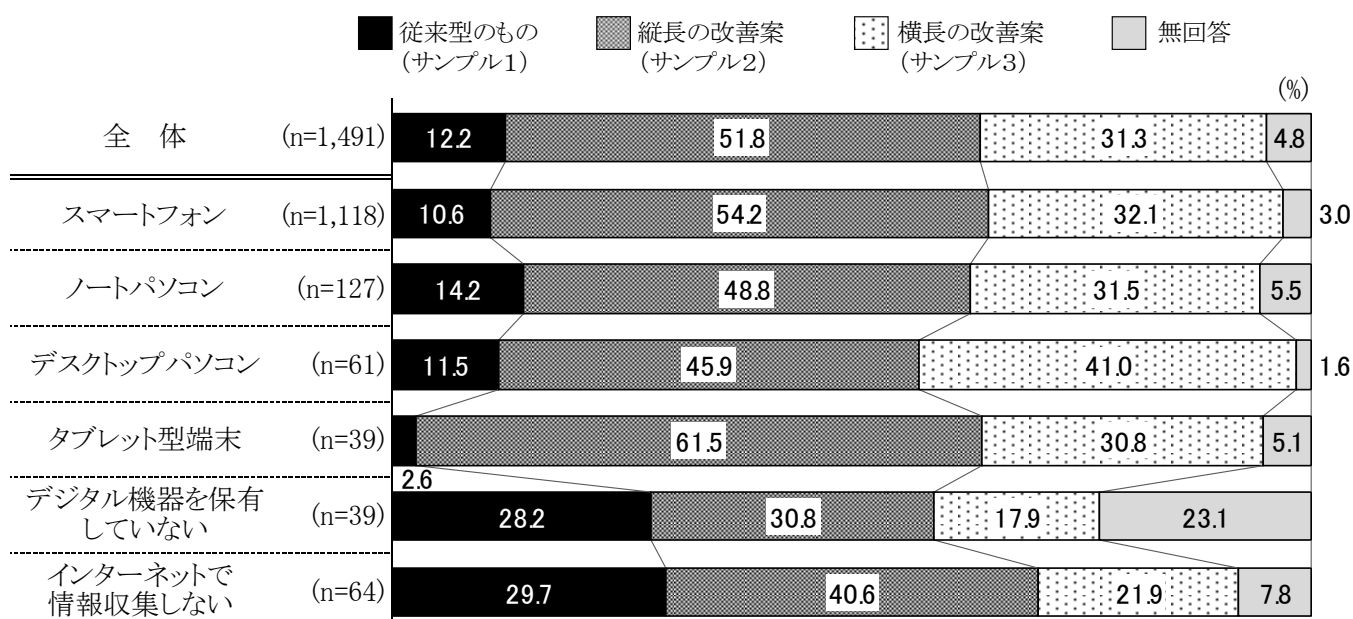
全体では、「縦長の改善案（サンプル2）」の割合が51.8%と最も高く、次いで「横長の改善案（サンプル3）」（31.3%）、「従来型のもの（サンプル1）」（12.2%）と続いている。
性別に見ると、「従来型のもの（サンプル1）」は女性（10.8%）よりも男性（14.4%）の方が高い。
年齢別に見ると、「従来型のもの（サンプル1）」は概ね年齢が上がるほど高くなっている。

【図表 190】市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について（性別、年齢別）
〔書かれている内容に興味が持てる〕



問 23 ②の情報収集をする際に最もよく使うデジタル機器別に見ると、いずれの機器を使用している人においても「縦長の改善案（サンプル2）」の割合が最も高くなっているが、「タブレット型端末」をよく使用している人は「縦長の改善案（サンプル2）」の割合（61.5%）が特に高く、「従来型のもの（サンプル1）」（2.6%）が低くなっている。また、「デスクトップパソコン」をよく使用している人では、「横長の改善案（サンプル3）」（41.0%）が4割を超えてやや高い。

【図表 191】市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について（最もよく使うデジタル機器別）
〔書かれている内容に興味を持てる〕



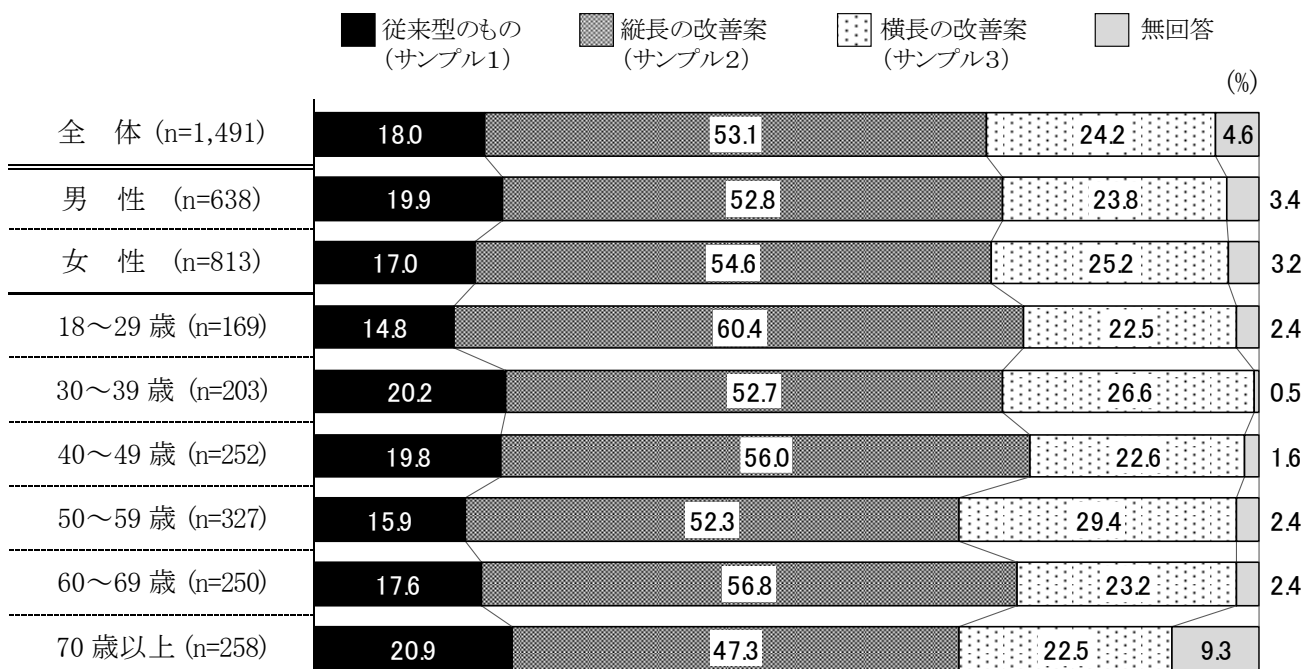
② 文章が読みやすい

全体では、「縦長の改善案(サンプル2)」の割合が53.1%と最も高く、次いで「横長の改善案(サンプル3)」(24.2%)、「従来型のもの(サンプル1)」(18.0%)と続いている。

性別に見ると、「従来型のもの(サンプル1)」は女性(17.0%)よりも男性(19.9%)の方が高い。

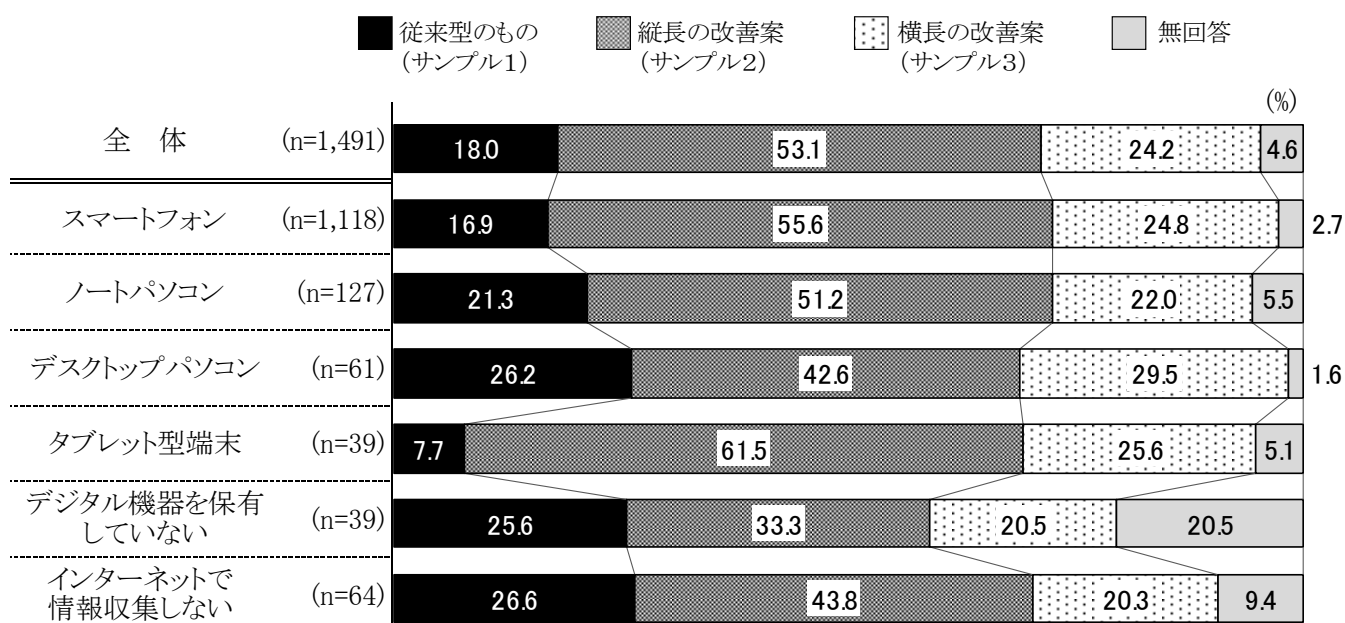
年齢別に見ると、「縦長の改善案(サンプル2)」は18～29歳(60.4%)が最も高く、70歳以上(47.3%)が最も低くなっている。

【図表 192】市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について(性別、年齢別)
〔文章が読みやすい〕



問 23 ②の情報収集をする際に最もよく使うデジタル機器別に見ると、いずれの機器を使用している人においても「縦長の改善案（サンプル2）」の割合が最も高くなっているが、「タブレット型端末」をよく使用している人は「縦長の改善案（サンプル2）」の割合（61.5%）が特に高く、「従来型のもの（サンプル1）」（7.7%）が低くなっている。また、「デスクトップパソコン」をよく使用している人では、「横長の改善案（サンプル3）」（29.5%）がやや高くなっている。

【図表 193】市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について（最もよく使うデジタル機器別）
〔文章が読みやすい〕



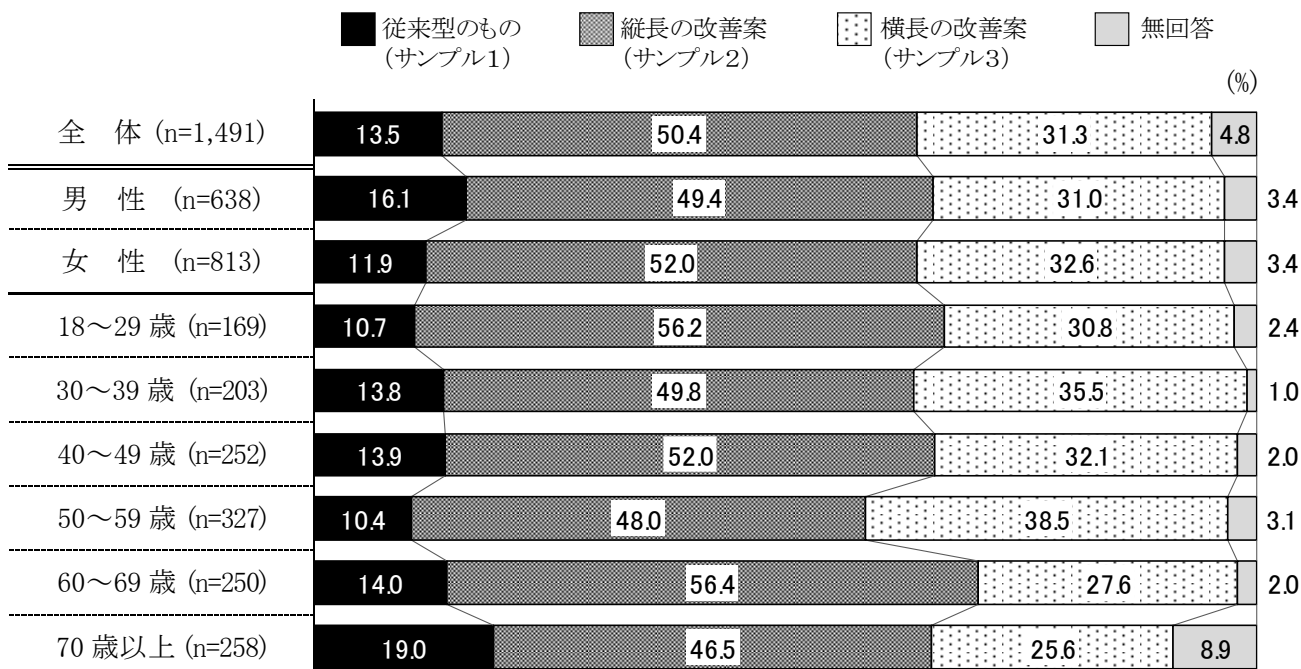
③ 内容が伝わってくる

全体では、「縦長の改善案(サンプル2)」の割合が50.4%と最も高く、次いで「横長の改善案(サンプル3)」(31.3%)、「従来型のもの(サンプル1)」(13.5%)と続いている。

性別に見ると、「従来型のもの(サンプル1)」は女性(11.9%)よりも男性(16.1%)の方が高い。

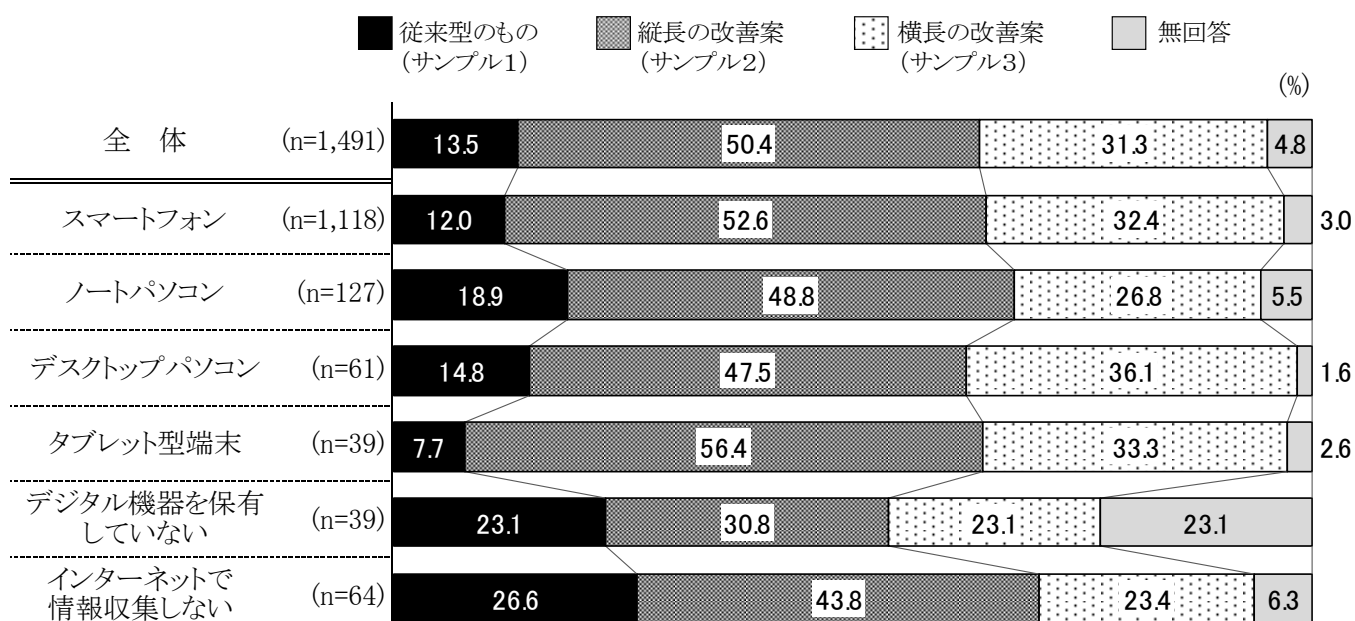
年齢別に見ると、「従来型のもの(サンプル1)」は70歳以上(19.0%)が比較的高く、「横長の改善案(サンプル3)」は50～59歳(38.5%)が比較的高くなっている。

【図表 194】市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について（性別、年齢別）
〔内容が伝わってくる〕



問 23 ②の情報収集をする際に最もよく使うデジタル機器別に見ると、いずれの機器を使用している人においても「縦長の改善案（サンプル2）」の割合が最も高くなっているが、「タブレット型端末」をよく使用している人は「縦長の改善案（サンプル2）」の割合（56.4%）が比較的高く、「従来型のもの（サンプル1）」（7.7%）が低くなっている。また、「デスクトップパソコン」をよく使用している人では、「横長の改善案（サンプル3）」（36.1%）がやや高くなっている。

【図表 195】市が作成する「説明資料・広報等」の改善案について（最もよく使うデジタル機器別）
〔内容が伝わってくる〕



(7) 市が作成する「説明資料・広報等」の見やすさについて

問 29. 3つの「サンプル」のうち、「サンプル2」と「サンプル3」がウェブサイトに掲載されているPDF等のファイルであると仮定してうかがいます。

問 23 の②で「最もよく使う」とお答えいただいたデジタル機器で閲覧すると想定した場合、どちらのサンプルが見やすいですか。

サンプル2(縦型の改善案)

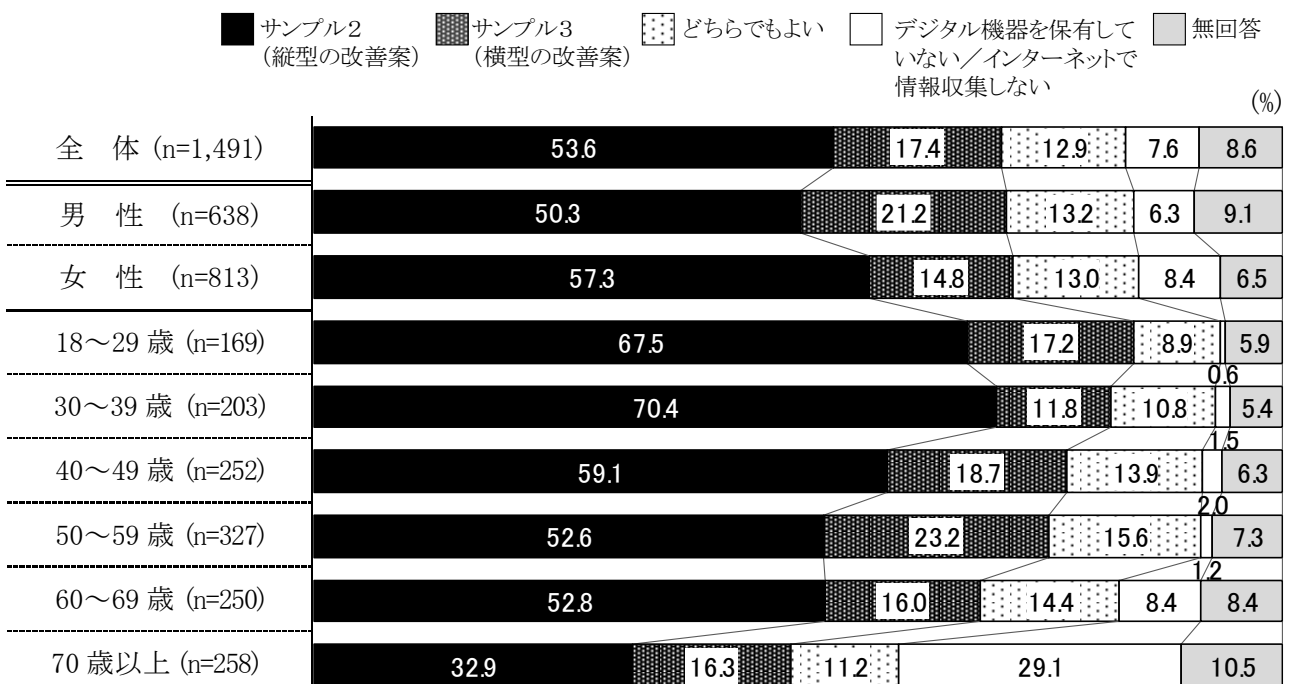
サンプル3(横型の改善案)

全体では、「サンプル2 (縦型の改善案)」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「サンプル2 (横型の改善案)」(17.4%)、「どちらでもよい」(12.9%) となっている。

性別に見ると、「サンプル2 (縦型の改善案)」は男性 (50.3%) よりも女性 (57.3%) の方が高い。

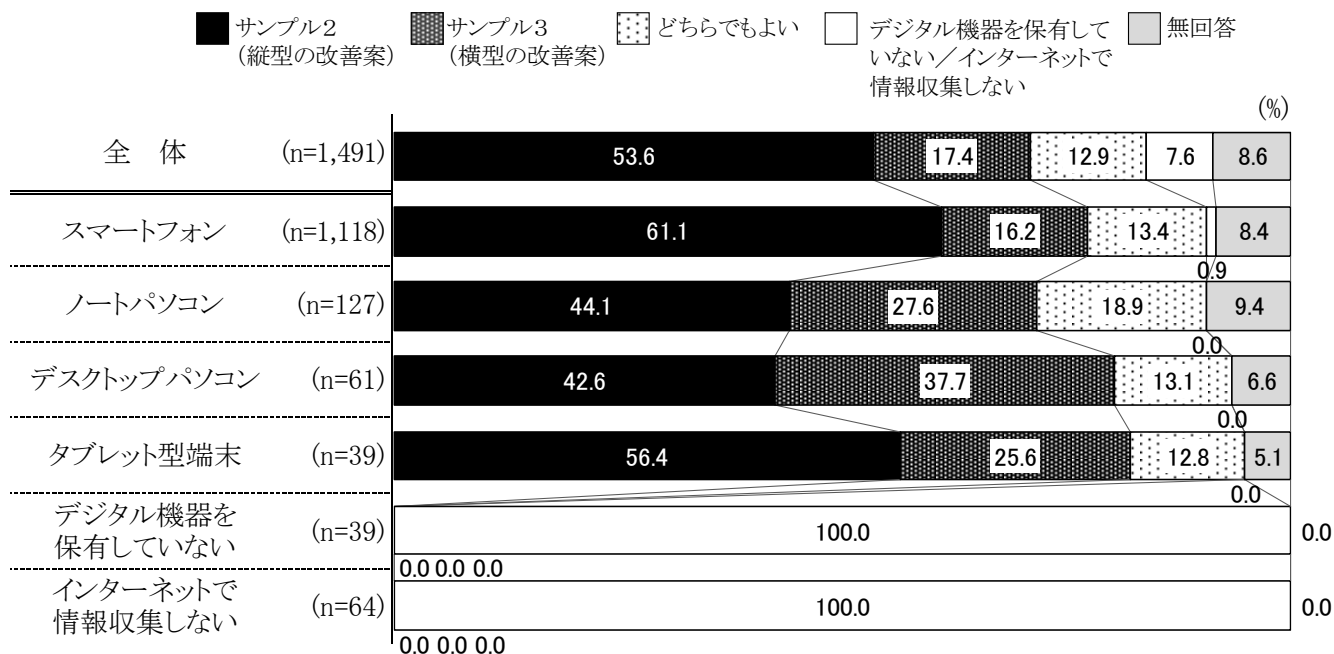
年齢別に見ると、「サンプル2 (縦型の改善案)」は 18~29 歳 (67.5%) と 30~39 歳 (70.4%) が 6 割台後半から 7 割と、40 歳代以上の年齢層と比べて高くなっている。

【図表 196】市が作成する「説明資料・広報等」の見やすさについて (性別、年齢別)



問 23 ②の情報収集をする際に最もよく使うデジタル機器別に見ると、いずれの機器を使用している人においても「サンプル2（縦型の改善案）」の割合が最も高くなっているが、「スマートフォン」をよく使用している人は「サンプル2（縦型の改善案）」の割合（61.1%）が6割を超えて高く、「サンプル3（横型の改善案）」（16.2%）が低くなっている。また、「デスクトップパソコン」をよく使用している人では、「サンプル3（横型の改善案）」（37.7%）が比較的高くなっている。

【図表 197】市が作成する「説明資料・広報等」の見やすさについて（最もよく使うデジタル機器別）



(8) デジタル機器で資料を閲覧するとき你最重視すること

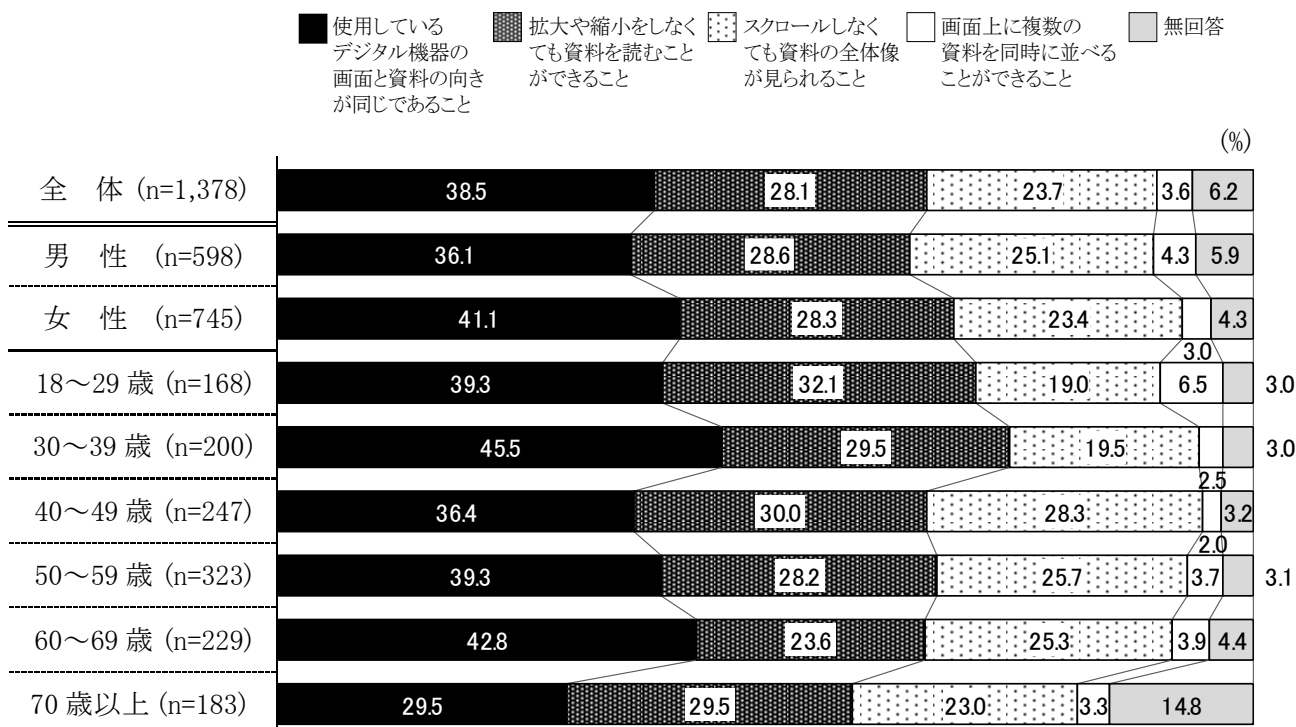
問 30. デジタル機器で資料を閲覧するとき、あなたが最も重要視することはなんですか。

全体では、「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「拡大や縮小をしなくても資料を読むことができること」(28.1%)、「スクロールしなくても資料の全体像が見られること」(23.7%)、「画面上に複数の資料を同時に並べることができること」(3.6%)と続いている。

性別に見ると、「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」は男性(36.1%)よりも女性(41.1%)の方が高い。

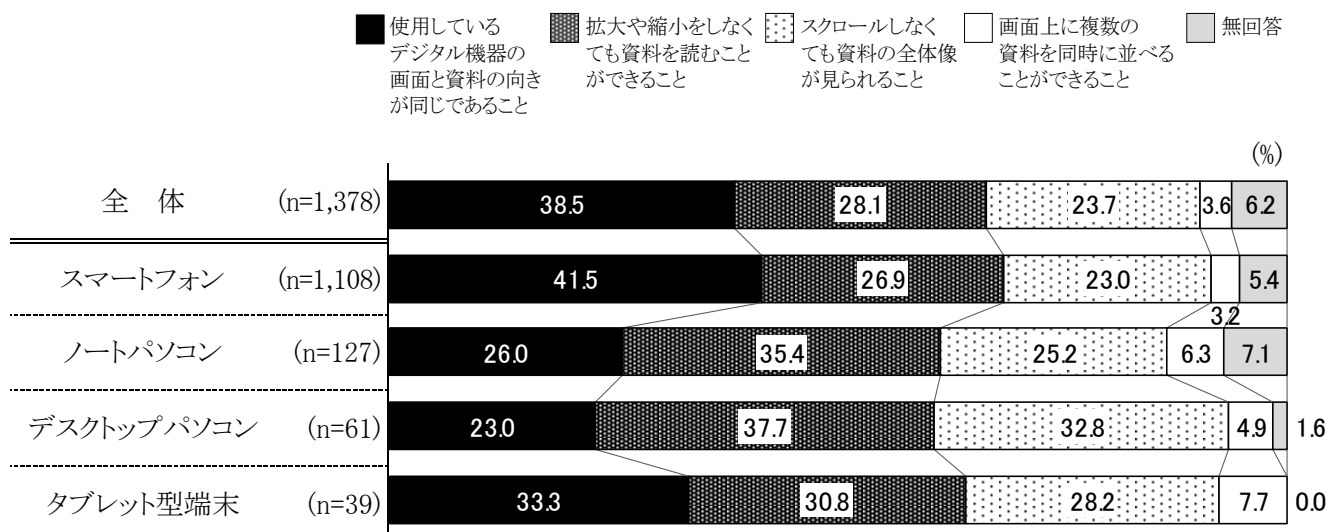
年齢別に見ると、60歳代以下の年齢層で「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」の割合が最も高く、30～39歳(45.5%)と60～69歳(42.8%)では4割を超えている。なお、70歳以上は「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」と「拡大や縮小をしなくても資料を読むことができること」が同率となっている。

【図表 198】 デジタル機器で資料を閲覧するとき你最重視すること (性別、年齢別)



問 23 ②の情報収集をする際に最もよく使うデジタル機器別に見ると、「スマートフォン」と「タブレット型端末」をよく使用している人は「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」の割合が最も高く、「ノートパソコン」と「デスクトップパソコン」をよく使用している人は「拡大や縮小をしなくても資料を読むことができること」が最も高くなっている。

【図表 199】 デジタル機器で資料を閲覧するときに最重視すること（最もよく使うデジタル機器別）

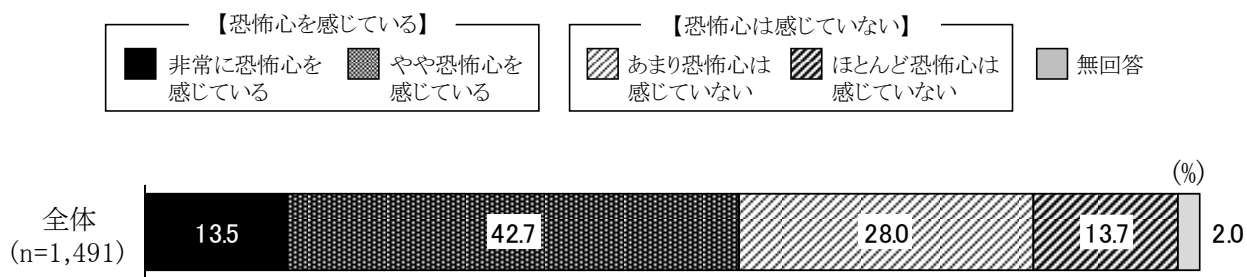


2.7 新型コロナウイルス感染症について

問 31. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

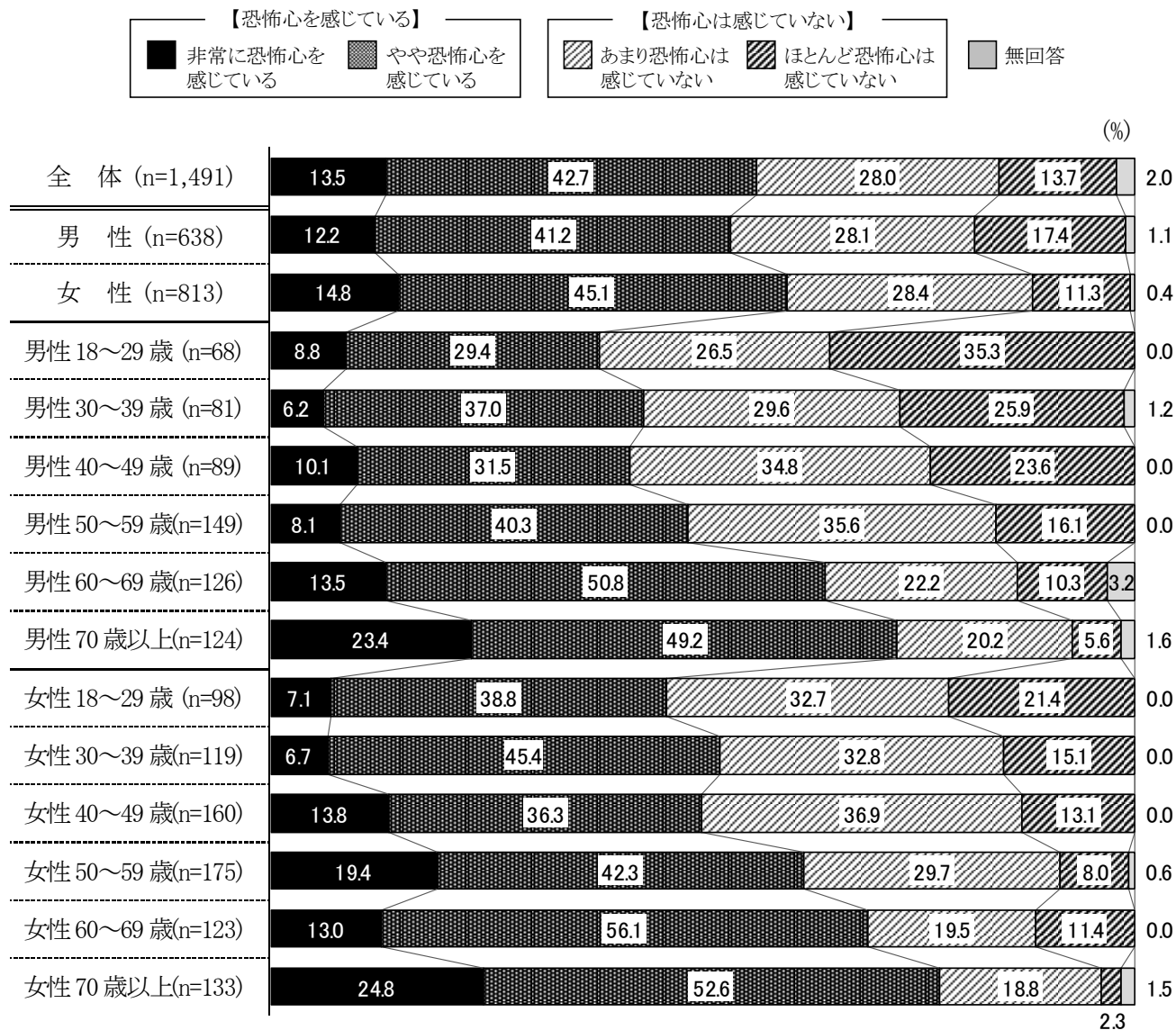
「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は56.2%、「あまり恐怖心は感じていない」と「ほとんど恐怖心は感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は41.8%であった。

【図表 200】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



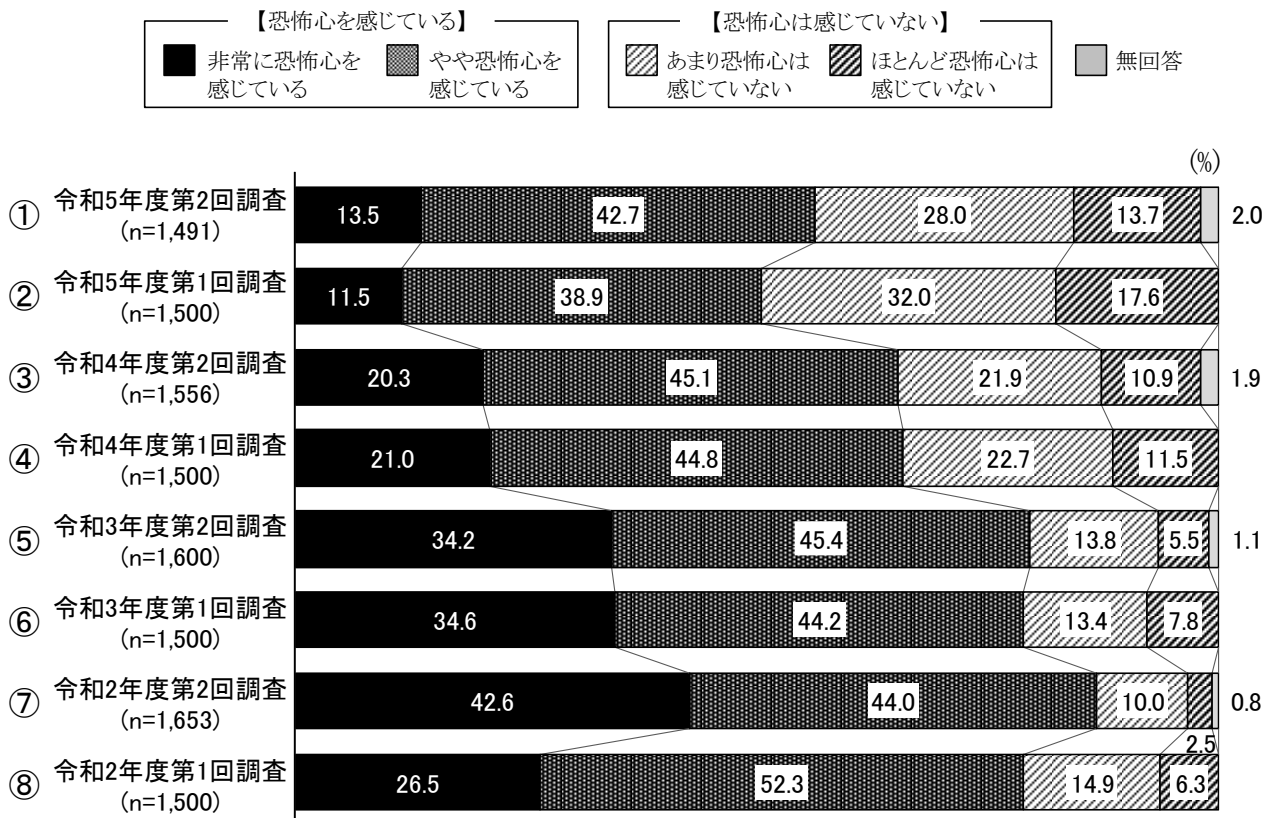
性／年齢別に見ると、【恐怖心を感じている】は男性（53.4%）よりも女性（59.9%）の方が6.5ポイント高くなっている。また、【恐怖心を感じている】は男女ともに70歳以上が7割を超えているが、男性の50歳以下と女性の18～29歳では5割を下回った。

【図表 201】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（性／年齢別）



同じ設問を聴取した過去の調査と比較すると、【恐怖心を感じている】は、令和2年度第2回調査の86.6%が最も高かったが、以降、令和3年度第1回・第2回調査はいずれも8割弱、令和4年度第1回・第2回調査はいずれも65%程度、今年度は第1回・第2回とも6割を下回り、減少傾向となっている。

【図表 202】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心
(過去調査との比較)

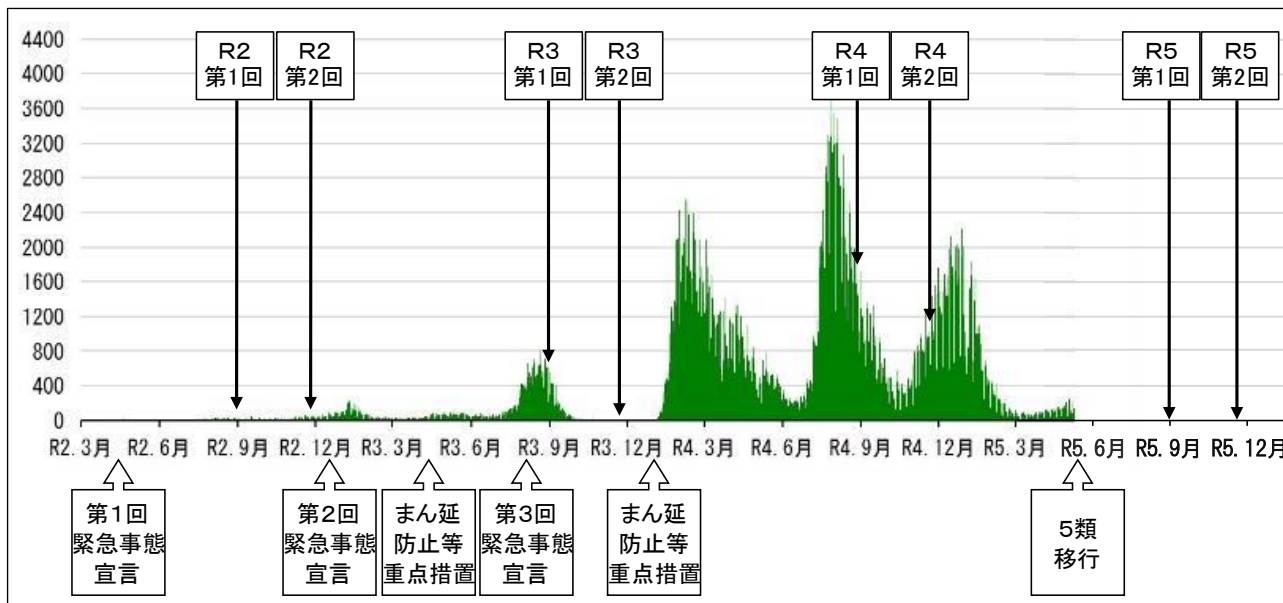


【参考】各調査の調査概要と調査期間における緊急事態宣言の状況について

	調査期間	調査方法	緊急事態宣言の有無
①令和5年度第2回調査	令和5年10月31日～12月8日	郵送	有
②令和5年度第1回調査	令和5年8月25日～9月5日	インターネット	有
③令和4年度第2回調査	令和4年11月1日～12月9日	郵送	無
④令和4年度第1回調査	令和4年8月26日～9月6日	インターネット	無
⑤令和3年度第2回調査	令和3年11月17日～12月24日	郵送	無
⑥令和3年度第1回調査	令和3年9月3日～9月13日	インターネット	有(令和3年8月2日～9月30日)
⑦令和2年度第2回調査	令和2年11月18日～12月25日	郵送	無
⑧令和2年度第1回調査	令和2年9月4日～9月14日	インターネット	無

※新型コロナウイルス感染症の位置づけは、令和5年5月8日より「2類相当」から「5類」に移行した。

【参考】各調査の実施時期と川崎市の陽性者数推移・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置発出時期



※陽性者数のグラフは川崎市ホームページより転載（令和5年5月8日「5類感染症」への移行に伴い更新終了）。

